

御意見の内容

【対応分類】

- ① 計画（最終版）に反映するもの（131件）
- ② 計画（案）に記載済み又は趣旨に含まれ、賛同いただいているもの（1, 135件）
- ③ 御意見の内容に対応しないもの（28件）
- ④ 今後の取組の推進に際して参考とするものその他の御意見（543件）

※ 特定の地域や施設等に係る御意見については、その趣旨のみ記載しています。

第I部 計画の趣旨（計423件）

No.	御意見の内容	件数	対応分類
1	様々な取組が実施されており、嬉しい。	1	②
2	いいと思う。	7	②
3	充実してほしい。	1	②
4	すべての子どもへ平等にチャンスが与えられるべき。すばらしい取組だと思う。	1	②
5	どれも大切だと思う。背景事情を聞けばすべて納得いくと思う。	1	②
6	具体的な取組が書かれていて分かりやすい。	1	②
7	このプランが子どもたちにとってよりよいものになっていくよう共に頑張れたらと思う。	1	②
8	今のままでよい。	1	②
9	憲章もでき、局の名前も変わり、しばらくはこのまま続ければ良いと思う。	1	②
10	誰にとっても、未来の社会にとっても切実だと思う。	1	②
11	どれも大切なのは確かだが、細切れでなく社会意識の変容が重要だと思う。	1	②
12	京都市で子育てがしたい若者が増えたら良いと思う。	1	②
13	今後就職や子育てをすることを考えると、ぜひ計画を進めてほしい。	1	②
14	伝統や文化の多い京都をしっかりと残しながら、どんどん新しく、良い京都にしてほしい、期待できる計画が沢山あるので、1つでも多く実現したらと思う。	1	②
15	京都市に住んでいる子どもたちの未来が考えられている計画だと思う。	1	②
16	妊娠前から思春期になるまで子どもや子育てする環境を支援する取組が行われており良いと思う。	1	②
17	どの世代の若者にとっても生きやすい環境を作っていくことはとても良いと思う。	1	②
18	一般人が知らない取組より一番知られている取組を頑張ったら良いのではないかな。	1	②
19	結婚・出産・子育てを希望する人にも焦点があてられた良い取組だと思った。	1	②
20	一つ一つ細やかに決められていて、鮮明だった。その他、数値も明らかになっていて、信頼できる計画だと思った。	1	②
21	経済的・精神的・身体的に苦しんでいる人を放置せずに、援助していくべきだと思うのでこういった具体的な施策を実行していければとてもいいと思う。	1	②
22	表が使っており見やすい。	1	②
23	子どもを孤立させないために、切れ目なく支援するのは良いと思う。	1	②
24	高齢者が増えていく現在の社会において、このような計画を実行することは必要なことであり、京都市だけでなく他の地域にも広げていく必要があると考える。	1	②
25	若者や子育て世代に力を入れてくれるのは、当事者としてありがたいので、計画がうまくいってほしい。	1	②

No.	御意見の内容	件数	対応分類
26	この計画全般についてはとても良い計画である。今後も子育てをやりやすくなるような支援の計画作りなどをして、発展させてほしい。	1	②
27	全て良いと思う。毎年、子育てに対するプランを考え、人口増加のために子育て支援の発展をしなければならない。	1	②
28	自分の知らないところで、京都市について考えている人がいて驚いた。こういう政策が実現できるよう頑張ってもらいたい。	1	②
29	子育てのしやすい環境で、子どもたちも良い取組をしていくべきだと思う。	1	②
30	京都市の子ども・若者が将来に向かって希望をもって成長していけるように周りの環境や課題に目を向け取り組んでいくという計画である。	1	②
31	特に子育て世代に対する厚いサポートはすごく良いと思ったし、様々な問題を抱えた子どもたちに対する細かな計画はすごく期待したい。	1	②
32	少子化や虐待、貧困、障がい等、支援ニーズが増大・多様化するなかで、子育て支援などは良い策だと考える。ひとり親は就職も子育てのためにしにくくなる状況があるのでひとり親への支援を重点化してほしい。	1	②
33	母親や家族にやさしい環境が作れたらいいと思う。初めてお母さんになる人のための教室など、他のお母さんと交流できる場がたくさんあるといいと思う。子どもがいる片親の家庭も多いと思うし、収入も低いと思うので「働き方改革」や補助金が必要なのではないかと考えた。	1	②
34	特に支援を必要とする人を細かく分けてあって自分が支援を必要か、また、支援者に含まれているのかなどが分かりやすいと思った。	1	②
35	京都市はすべての子どもや若者、子育て家庭を大切にしている、すべての生活に対する不安や金銭問題を軽くしようと取り組んでいることが分かった。支援のニーズに対して柔軟に対応しようとしていると感じた。	1	②
36	子どもの虐待、貧困はとても重大な問題になっているから、京都市が行っている計画で子ども・若者に対しての虐待、貧困、障がい者などの支援ニーズ増大・多様化について行っていることはとても良いことである。	1	②
37	京都を良いまちにすることを担っていく世代が誕生し、育っていくことをサポートするのはとても大切なことで、その土壌ができ上がれば、更に良い環境ができると思うので継続的にこの計画が進めば良いと思う。	1	②
38	生活環境や雇用環境の面に関して、現代の子どもたちは孤食など家族とごはんを食べることが少なくなっているとニュースで見ると、食事に関する強化がもっとあれば良いと感じた。	1	②
39	まずは地域からこのように積極的に動き出すのはいいことだと思う。特に育児の支援は欠かせないと思う。	1	②
40	計画内容については、素晴らしいと思うが、本当にうまくいくのか気になる。足りている所と足りていない所の差があるなど、思想だけが先走らないようにしてほしい。	1	②
41	とてもいい計画だと思う。 特に、若者の将来の不安・負担の軽減を頑張ってもらいたい。	1	②
42	どれもとてもいい内容だと思う。予算との相談をしながらぜひ実行に移してもらいたいと思う。	1	②
43	具体的に見えて、とても分かりやすくて良い。	1	②
44	子どもは次の世代を良くするためには必要なので、大事にすべきでいいと思う。	1	②
45	子どもを育てやすい環境にしようとしているのでとても良いと思う。	1	②
46	今回の京都市はぐくみプランは、これからの社会を住みやすくするためには必要なものだと思う。	1	②
47	子どもに重点を置きながら、その周辺の支援があるといいと思った。	1	②
48	全家庭、ライフステージにおいて、支援を変えるのがいいと思った。妊娠期や、乳幼児期など、それぞれの時期によって悩みは様々だと思うので、この体系が良いと思う。	1	②
49	少子化社会を打開するため具体的に施策を考えられているということを知って、素晴らしいと思った。子育てしやすい社会になればいいと思う。	1	②
50	京都市を良くしようとする計画は、本当に素晴らしい。自分の子どもにも京都市に生まれ、育ったことは良かったと思ってほしい。	1	②
51	将来のあるべき京都の姿になるような計画だと思う。	1	②
52	ずっと京都に住んでいるが、このような「京都市はぐくみプラン」があるのは知らなかった。様々なところで子どものためのサポートを社会がしていることはすごく良いと感じた。	1	②
53	京都市がこのような取組をしているとは知らず、自分の住んでいる地域でもこのような取組をしていると思うので、調べてみたいと感じた。	1	②
54	地元を大切にしようとする姿勢やその良さを引き出そうとしている所がとても良いと思う。	1	②

No.	御意見の内容	件数	対応分類
55	いいまちにするためには、やはり一人一人の意識改革が大切であると思う。	1	②
56	説明が詳しく分かりやすかった。また、大人から子どもまで見やすい文字なので良いと思う。難点として、取組が多くあり、5年間ですべてできるのかという不安があるのと、特に日本一を目指さなくても、そこに住む市民に合った環境であればいいと感じた。	1	②
57	全体的に文も分かりやすくて、文字の大きさも適切である。この取組でより一層京都の子が育ちやすい環境になるといいと思う。	1	②
58	少子化が進む中、このような施策は非常に良い対策となると思う。また、子育てをする側だけでなく、子育てを支えてくれる人たちへの施策もあるといいと思った。	1	②
59	京都市民全般に支援が行き届きそうな内容だった。特にひとり親家庭にはとても助かると思う。	1	②
60	現代における状況が詳しく記されているうえに、それに沿った目標が記されていたので、理解がしやすく、応援したくなった。すべての人が幸せを感じることができるようになれば素敵だなと感じた。	1	②
61	全体的に見て将来性がある、この案が実現されれば、社会は幸せへと近づけるだろうと感じた。頑張ってもらいたい。応援している。	1	②
62	今の子どもは未来を作っていく存在なので、その子どもたちを育てる計画がたくさんあり驚いた。京都市みんなで協力しないといけないけど、自分ももちろん協力したいと思う。	1	②
63	実現して計画どおりに進んでいくと、とても面白いまちになると思う。	1	②
64	少子高齢化社会の現代に、子ども・若者・子育て家庭を支援する取組は地域の活性化を促し、活気のある社会への実現に繋がる、とても良いアイデアであると感じた。また、生活環境や雇用環境などを整備し、社会的ストレスを減らすことで犯罪の抑制にもなると思った。	1	②
65	プランを京都市以外にも広げていき、京都全体で子ども・若者・子育て家庭の支援をいざ行えたらいいと思う。	1	②
66	幼児から大人まで全体的に考えられていて、とても良い計画だと思う。子どもの命を預かる場として問題やトラブルを減らせるようにしてほしい。	1	②
67	行政だけが動くのではなく、市民も一緒になって取り組むことで、市民にももっと京都市のことを好きになってもらいたいという考えが理念に分かりやすく書かれていて、市民にもストレートに伝わりやすいと感じた。	1	②
68	京都市の今の問題などが分かるようになっていて、ピンポイントで着目している所もあったので、市民のことを考えてくれていると思った。	1	②
69	京都がこの計画を率先して行っていけば、日本全体が少しでも考えるようになるのでは。	1	②
70	子どもの成長に合わせて取組を設定することにより、安心感がより一層強くなる、子どもにも安心感、住みやすさが伝わり、京都市に住み続けたいと思う人が多く出てくると思う。	1	②
71	社会から取り残された人たちを地域で助け合い、育児と仕事を両立できる社会を目指すのは素晴らしい。	1	②
72	これから先、自分も親になり家庭を持つ年齢になるが、子育て支援をしっかりと考え計画してくれるのはとても嬉しい。子育てと仕事を両立できて社会と助け合うことができればとても良いと思う。	1	②
73	子どもを第一優先に考えられており、また母親も大切にしている点ではとても良い計画であると思う。少子化政策には積極的に取り組んでほしい。	1	②
74	京都市が政策として子育てに注目していることは、良い見本になると思った。	1	②
75	少子化やひとり親、若者の支援がこれから生きていく人の視点に立っていていいと思う。	1	②
76	計画の対象が若年層で将来性があると思う。	6	②
77	計画自体は良いと思うが、子どもの目線での計画も取り入れた方が良くなると思う。	1	②
78	社会変化に対応した計画が立てられていることが良いと感じ、住民のニーズに沿った施策を行ってほしいと考える。	1	②
79	子どもや若者の孤立防止を重点にしているのは良いと感じた。	1	②
80	色々な視点からよく考えられていると感じた。子どものことを一番に考えていることを忘れずに今後も続けていってほしい。	1	②
81	次世代育成支援対策推進法における市町村行動計画など次世代や問題への対策についてしっかり考えており期待できると感じた。	1	②
82	全体的に子育てにおける対策として、期待ができるものが多く、ひと手間加えたら更に良いものになるのではないかと。	1	②
83	私自身も「京都市はぐくみプラン」に任せきりにするのではなく、しっかりと考えていくべきだと気づかされた。	1	②

No.	御意見の内容	件数	対応分類
84	このように計画が立てられているのを、今回初めて知り、「子どものために」とか「若い世代の子を持つ母のために」というものがもっと増えれば良いと思った。	1	②
85	こういうものが増えると住みやすいまちになると思うし、市民全員がそう思えるようなまちづくりができれば良い。	1	②
86	近い将来が安心であることを望む。	1	②
87	子育ては何かと不安なことがあるので、短期ではなく長期にわたって支援するほうが良い。	1	②
88	全て実現するのは難しいと思うが、1つでも実現すれば今より良いまちになっていくと思う。	2	②
89	多くのことが早期に行われてすばらしいと思う。	1	②
90	京都で結婚してから暮らすことを考えたときに子どもと妊産婦を支援してもらえるのは非常に助かるので賛成である。待機児童が問題になっているのでゼロをこの先も継続してほしい。	1	②
91	重点は障害児や母子家庭の子どもたちも計画に含まれているということ。未来ある子どもたちを京都市全体で成長させようというのは期待できる。	1	②
92	日本が豊かな国に戻るには、子どもを大切にすること、子どもを産み育てていこうと思えるような環境づくりが何より大切だと思うので、すばらしい計画だと思う。	1	②
93	安心して妊娠・出産できる環境づくりと子どもの学びと育ち合いが何より最優先で取り組まれると京都市は格段に良いまちになると思う。	1	②
94	地域などが一体となり、子ども、若者を大切に、育て、見守る、助けるということが全面的に計画として、出されていてすごい。1つずつ達成できれば、子どもも若者も希望を持って、生きていけると思う。	1	②
95	京都は私が住んでいるところよりも視覚障がい者への対応が良いなと感じた。そして行政だけでなく市民も非常に気づかいができる人が多くて、京都市の強みだと思った。	1	②
96	人口の増加や、これからの日本の政治を担っていく人により良い環境を与えようとするには非常に良いプランだと思った。育つ環境は本当に大事だと思うため、このプランはこれからも推し進めてほしい。	1	②
97	母親の妊娠から生まれた子どもの青年期まで支援が記載されておりすばらしい。	1	②
98	この計画を推し進めていって京都市に住んでよかった、京都市に住むことに誇りをもてるような人が増えていくことを願っている。	1	②
99	将来について考えたとき、京都で暮らすという選択が、市民にとって最良だと思うことができると感じた。	1	②
100	ここまでの援助があれば子育てしやすく、若者が住みやすい市だということが理解できた。	1	②
101	具体的な問題は自分にはまだ分からないけどこのような策があるだけで安心になれると思う。	1	②
102	子どもだけでなく若者や結婚・出産・子育てを考えている人を対象としていることが良い。	1	②
103	少子化を止めるために子育てを促進する必要があるのは明白なので明確な支援や考え方が書いてあるのはとても良い。	1	②
104	しっかり設備や対策について書かれており、子どもを産む世代への安心が得られる良い計画だと思う。	1	②
105	京都では若者の流出、少子化が進んでいるので、京都に若者を増やすことをするのはとても良いことだと思う。	1	②
106	とても良い計画だと思うので、実現できればより良い環境にできると思う。	1	②
107	所々、具体的に書いてほしい所があったが、全体的に読んで読みやすく、良い。	1	②
108	若者が元気になることで、そのまちが元気になるので良いと思う。	1	②
109	全体的に幅広く支援していこうという方針は理解できた。活動をもっと認知してもらって、実行してもらいたい。	1	②
110	ライフステージに応じた対策を取っていることが良い。	2	②
111	子どもだけに焦点を当てるのではなく、子どもの健全な育成に関わる人々（親・教育に携わる人）に対する支援も行っていて、良い環境を作ることができそうだと感じた。	1	②
112	虐待・貧困・障害に陥ると負の連鎖が待っている。いかに予防するか。また既に困難な状況にいる場合、どのように抜け出し、生きていけば良いか、本人の自力だけでは気づけない事柄への支援が必要であると思う。	1	②
113	京都市民としてこの計画が実現されることを願い、自分にできることはないかを考えていきたい。	1	②

No.	御意見の内容	件数	対応分類
114	限られた予算と人員の中、日々ご尽力されている京都市職員の皆様には心から感謝申し上げます。これからも市民が安心して子育てできるようなまちづくりをされるよう応援する。	1	②
115	京都市が子ども・若者のための総合的な計画を定期的に見直し、策定されていることに賛同する。	1	②
116	保育士の給与の面や、若者の貧困、引きこもり問題などにしっかりと向き合っていて安心できた。	1	②
117	出産時期だけでなく、青年期までの施策を考えているところはすごいと感じた。	1	②
118	幅広いジャンルのコミュニティがあり良いと思った。	1	②
119	観光客で溢れている京都でも、計画案に記載されているような、子どもや親に寄り添う取組が行われるのであれば、京都に住み続けても良いと思った。	1	②
120	このまま頑張してほしい。	3	②
121	社会みんなでよりよい社会をつくる必要があり、協力していきたいと感じた。	1	②
122	子育てするうえで安心できるプランがあるといいと思った。	1	②
123	親子で出かけている人たちを温かい目で見守れる京都を作っていただきたい。	1	②
124	子どもの成長のことなども考えて、色々な所と連携が取れていて良いなと思った。	1	②
125	子どもたちやその親も助かると思うので、良い計画だと思う。	1	②
126	すべての子ども・若者・子育て家庭等が地域全体ではぐまれるような計画は素敵だと思った。	1	②
127	京都に住む人みんなが助け合って生きていけるようなまちを目指しているのが良いと思った。	1	②
128	若者世代が住みよいまちづくりにするにする構想が具体的で良いと思う。	1	②
129	今、問題となっていることをよく考えてくれていることが分かった。	1	②
130	趣旨については良いと思う。	1	②
131	子育てを大切にすることはとてもいいことだと思う。	1	②
132	積極的に取り組んでほしい。	1	②
133	いくつも計画があるのはいいと思う。	1	②
134	ライフステージごとに多様な施策が考えられていて、取りこぼしの少ない体系であるという印象を受ける。当該ライフステージを生きる当事者とそこを取り巻く人や環境の両方に働きかけようとしているのも重要だと思う。また、実行性と継続性については、施策間の相互関連の有無にもよる気がする。	1	②
135	全般的に「人」を基本としている点が良いと感じた。ハード面はもちろん必要だが、それが実質的な意味を持つかは、そこに关わる人と人（支える側、支えられる側）との関係のあり方によってくると思うから。	1	②
136	全体的に課題に対応できるものだった。	1	②
137	若年層の大半は将来に明るい展望をできずにいると思う。そうした中で、若者にも目を向けた計画であったため、非常に肯定できる。	1	②
138	子ども時代の生活環境は未来に多大な影響をもたらすことが考えられるため、そこにフォーカスした政策には共感できた。	1	②
139	計画の趣旨に賛同する。取組を着実に進めていただくことを願っている。	1	②
140	目標としてはとてもいいと思う。 でもざっくりとしすぎていてもっと具体的な内容などが知りたい。	1	④
141	全ての取組を適用するには相当なお金がかかると思うので、できる範囲のことを何年かにわたって行ったほうが良いと思う。	1	④
142	計画がすべて成功すれば良いが、計画を実施するための費用などいくらかかり、どこから集めるのか気になる。	1	④
143	最初に各計画への位置付けが来るのはいかにも行政計画という感じがする。もっと興味を惹きつけるような導入にできないものか。概要版などで計画全体を分かりやすく伝えてほしい。	1	①
144	見にくいので、絵を使ったり分かりやすくしてほしい。	3	①

No.	御意見の内容	件数	対応分類
145	この計画の周知に力を入れてほしい。	14	①
146	全体的に分かりやすくまとまっているように感じた。若い世代が自分たちのこととして自覚できるよう、マンガ調に別途まとめたり、チャート式にするのも良いかもしれない。	1	①
147	もう少しシンプルに分かりやすく、京都ならではの計画をより明確にしてほしい。	1	①
148	大人たちが決める取組と子どもの感覚は一致しているかを考え、この取組をネットやTVなどで、もっと大きく報道することで、より多くの意見や、色々な方の体験を含めて集め、もっと充実していけると思う。	1	②
149	数多くのサポートやケアサービスがあるが、これらの存在は必要な人に届いているのか。	1	②
150	もっと社会全体が、正しい理解をする必要があると思う。また、本当に必要としている家族に届くためにはどうすべきか考えることも大切。社会全体がよく手本を示し、次世代へとつなげていけるようにしなければならない。	1	②
151	京都で計画を実現させて大阪や滋賀に発信して行ってほしい。	1	②
152	どうやって「推進」「促進」していくのか。SNSを使うのか、ポスターを貼るのか、具体的に教えてほしい。	1	④
153	年代別、重要課題、社会の在り方と分けてあるのはいいと思うが、どのようなイメージなのか一般の方々に理解してもらうことができるのか疑問である。	1	④
154	本当に必要な方に伝わる仕組みにしてほしい。	1	④
155	本当に支援が必要な人に支援が届くためにはどうすべきかも考えなければならないと思う。	1	④
156	5年間という期間では、政策を実行し検証するには短いと思う。分野も富んでいて大変だと思うが、京都の未来を想像してわくわくした。	1	②
157	計画の期間を2020年～2024年までという期間に限定せず、もう少し長い期間実施しても良いのではないかと。	1	④
158	なぜ計画期間が2024年までなのか。このような子どもに対する取組は永遠の課題であると考えて。	1	④
159	2020年～2024年の5年間という短い期間で実行し、本当に成果が得られるのか。	1	④
160	「次世代」や「将来」をうたった計画の割には5年間という期間は短いという印象がある。	1	④
161	計画期間はプランの成果によって変わるのか。	1	④
162	5年間の計画期間でこれらすべてを位置づけることができるかが正直分からない。	1	④
163	計画期間がなぜ5年間なのか理由を知りたい。	1	④
164	年ごと、月ごと、週ごとのように計画を立てたほうが実現しやすいと感じた。計画を少し減らし、5年間より短い方が実施しやすいのではないかと。	1	④
165	5年間で変えられるのかなと思うような内容ばかりであるなという印象を受けた。	1	④
166	計画期間をもう少し延ばすべきである。問題が解決されずに進んだり、混乱を招く場合もあるのでしっかり計画を立てるべき。	1	④
167	明確な年齢がなく、どこまで母親の支援をするのか疑問に感じた。	1	④
168	何歳～何歳までと対象の年齢を記載した方がいい。子どもと若者はどこで区切っているのか。	1	④
169	記載外の子の支援はどうするのか。	1	④
170	はばたけ未来へ！京プランについての補足説明がほしかった。はぐくみを掲げるなら、課題が明確にされていない子ども・若者についての状況も把握すべき。	1	④
171	「支援を要する子ども」と「要さない子ども」を完全に分けるのは違うと思う。区別をつけることにより、絶望するのではないかと。互いに交流の場を作り、理解を深めていくべき。	1	④
172	簡単に見ただけでどのようなプランなのか分かるページが必要だと思った。	1	④
173	京都市ならではの市民力・地域力・文化力とはどのようなものなのか分からなかった。「子どもが育ち合う」という言葉遣いがお互いに成長するというニュアンスが感じられて良いと思った。	1	①
174	京都市ならではの市民力・地域力・文化力は他県とどう違うのかが気になる。若い世代の育成にも力を入れることによってこれからの生産世代の力が強くなっていくと思う。病気や怪我については保険でしかカバーできないのか。	1	①

No.	御意見の内容	件数	対応分類
175	京都市ならではの市民力・地域力・文化力とあるが、具体的にはどのような市民性があり、地域性が施策を進めるうえで有効なのかを考えたい。暮らしを続けたいまちにするためには、施設の充実はもちろん、子育て家庭をサポートする意識を、市民全体で持たなければならないと感じた。	1	①
176	京都市ならではのとは、具体的にどのようなことなのか。	15	①
177	地域ぐるみや、文化（その地域の）は他都市でも取り入れていると思う。そういったこと以外に京都市ならではの何になるのか、計画する中で特別な役割を担ってる等の職種や何かあるのか。	1	①
178	子どもや若者を社会の宝としてはぐくんでいけるはぐくみ文化が良いと思う。	3	②
179	京都の伝統を受け継ぎ、健やかで心豊かな子どもを育む社会を築くため、京都はぐくみ憲章を長期に渡って実行しなければならないと思った。	1	②
180	京都市ならではの「はぐくみ文化」によって、子ども・若者、その家族を取り巻く社会問題に向き合い、笑顔あふれるまちづくりをすることは、これからの社会をより良くするために必要なことだと思う。	1	②
181	子どもを育み、命を守ることを大切にすることを大事にしていくことで京都市の子どもははぐくまれていくと思う。	1	②
182	私は生まれてからずっと京都に住んでいて、本当にめぐまれていると感じる。京都は人づくりの伝統があり、子どもを大切にすることがあるので、このような伝統を引きついでほしい。	1	②
183	市民力・地域力・文化力を礎とし、ひきこもり、育児、待機児童に力を注ぐべきと考える。	1	②
184	京都市ならではの文化は、伝統工芸や伝統芸能で多くの素敵なものがあるが、それが貧困や少子化にどのように関わるのか。	1	②
185	京都市の特色も含めてしっかり目指すべきまちの姿が想像できた。	1	②
186	大学が多い京都ならではの計画があっても面白いと思った。	1	②
187	住む地域によって、京都ならではの市民力・地域力はそれほど発揮できていないと考える。目指すまちの姿を実現していくには市の支援が大切である。	1	②
188	京都ならではの市民力、地域力、文化力を結集し、子ども・子育て家庭をはぐくむ姿勢に賛同する。	1	②
189	社会全体で子ども・若者、その家庭を温かく見守る「はぐくみ」というキーワードをプランの名称にぜひ採用してもらいたい。	1	②
190	地域社会の関係性が希薄化している現代で、市民力・地域力・文化力の結集を目指すことはとても良いと思う。	1	②
191	京都市ならではの市民力、地域力で子どもや子育て家庭を支えるということにより、京都が「共育の場」となり、暮らし続けたいと思えるまちになると思う。	1	②
192	「京都市はぐくみプラン（案）」によって、すべての子ども・若者・子育て家庭が大切にされ、よりよい社会となっていくと思う。また、社会全体がこのようなプランに意識を持つことが必要だと思った。	1	②
193	京都ならではの、京都でしかできないことも強みにしているのが、すばらしいと思う。	1	②
194	この計画は京都市という比較的狭い範囲なので実施しやすいと感じる。だから、ほかの県などがやっていないことをやってほしい。	1	④
195	解決しなければならない少子化の進行をはじめとした問題を、京都の特色から、理念、目指すべきまちの姿を述べているので、具体性があり、分かりやすい。子育てを重視しつつ周りの環境にも考慮した内容となっている。	1	②
196	子ども・若者、家庭で問題が多くあるのは分かっていたけれど、やっぱり問題自体増大しているのだなと思った。	1	②
197	子ども・若者、その家庭を取り巻く現状で、発達障害や不登校の問題も入るのではないかと、地域の特色を生かした子育てというイメージを受けた。	1	②
198	計画の趣旨では、家庭を取り巻く現状をなくしていけるような計画を考えて、人々の問題をなくしていけるような対策を考えていくことで問題は少なくなっていくと思う。	1	②
199	子ども、若者、その家庭を取り巻く現状の全てを改善する必要がある。全ては難しいのでどれか1つは絶対に改善するなど決めて、具体的な目標を掲げる必要があると思う。	1	②
200	京都市の特色からその地域の問題など、特に少子化や若者の将来の不安などの現状がしっかり記載されていて目指すまちの姿など具体的に目標があって良い。	1	②
201	高齢者に重点を置いた市の予算では「社会の宝」である子ども・若者は社会や自らの将来をポジティブに捉えることができず、未来に希望や夢を持っていない。例えば、統廃合で管理職を減らしてきた分の人件費を現場教員に回せば、減らした管理職以上の人数の教員を増やすことができ、現状よりも少人数教育を進めることができる。	1	②

No.	御意見の内容	件数	対応分類
202	現在の子どもや若者の現状をよく踏まえて計画が策定されている。	1	②
203	子育ては母親が大幅に負担すべきという風潮が残っていると感じる。	1	④
204	「長時間労働の常態化等により、仕事と家庭生活の両立困難」とあるが、子どもがいるかどうかは人それぞれだと思うので、ひとまとめに問題と言えるか。	1	④
205	この計画を参考に、自分のまちがどうなっているのか知りたい。	1	④
206	家族や地域社会の関係性の希薄化による孤立との表現がある。孤立の一要素には当たると思うが、因果関係があると限定した表現としても受け取れる。	1	④
207	経済の右肩下がりを負と捉えないための、豊かさについて認識されたい。	1	④
208	子ども・若者、その家庭を取り巻く現状は何も当てはまらない。	1	④
209	「学生のまち京都」なので、取り巻く現状には、大学生に関するトピックを入れてはどうか。	1	④
210	京都ならではの市民力、地域力、文化力を結集した「市民の生き合う力」を高めることはとても良いことだと思った。	1	②
211	基本理念を踏まえて取り組んでほしい。	1	②
212	「市民の生き合う力」を高めることにより京都で育った人は、京都での暮らしの素晴らしさに気付き、京都に住み続ける人が増えると思う。	1	②
213	趣旨には賛同。「生き合う力」という文言は、「共に生きる力」か「共生力」でよいのではないか。	1	②
214	現在の若者は将来を不安に思っている人が多いと考えられるため、いい基本理念だと思った。	3	②
215	基本理念にある、京都で育ち、学んだ若者が将来も京都で働いて暮らしたいと思えるまちを実現するというものは京都で育った私にとって嬉しいと感じる。	1	②
216	基本理念からこの計画で何をしていきたいのかが分かりやすかった。	3	②
217	基本理念の中に「結婚・出産・子育ての希望を持つすべての人の想いを叶える」とあるが、その想いを叶えるためには、職場の理解や、社会全体の理解が重要だと思う。	1	②
218	基本理念が長い。	1	④
219	基本理念の中に「結婚・出産・子育ての希望を持つすべての人の想いを叶え～」とあるが、そこに希望を持っていない人は必要ないということか。	1	④
220	若者を大切にしたいのなら、もう少し基本理念を考え、若者に合ったものにすべき。	1	④
221	基本理念「結婚・出産・子育ての希望を持つすべての人の想いを叶え」はこのプランだけで解消するような課題ではなく、日本全体の経済状況等も大きく関わってくる。若者にとって雇用の問題や景気、将来への不安等、結婚や出産へのハードルは大変に高いので、国へ働きかけてほしい。	1	④
222	多様な生き方や選択肢を選べるようになってきているこの時代に、結婚や出産が前提となった基本理念を掲げるのは古いと感じる。	1	④
223	基本理念が、子どもに焦点があまり当たっていない感じがした。	1	④
224	京都市ならではの市民力・地域力・文化力をはぐくみ、市民の生き合う力を高める基本理念に基づき、目指すべきことを明確にしていると感じた。	1	②
225	子どもの命、笑顔を守ることを一番に考えた取組をお願いしたい。	1	②
226	「子育て・「共育」環境日本一」のまちとなるようお願いしたい。	3	②
227	京都で育ち合い、学び合った子どもや若者が将来の展望をもって成長するとともに、京都に住み、働く人が幸せと希望を感じ暮らし続けたいと思えるまちにする。	1	②
228	生まれ育ったまちで、暮らし続けたいと思えるまちづくりを目指すのはすばらしい。	1	②
229	暮らしたいと思えるまちを作ることは一番大事なことでとても良い政策だと思う。働く若者だけではなく、働く父母世代や高齢者世代にもやさしいまちづくりも大切だと思う。	1	②
230	子ども、若者にとって暮らしやすかったり、暮らし続けられるようなまちというのは実現すれば良いと感じた。全ての子どもを大切にするという所が良いと思う。	1	②
231	子ども・若者が住みやすいまちづくりを日常としていることが分かり、良い計画となっている。全ての子どもへの支援は難しいことだと思うが実現してほしい。	1	②

No.	御意見の内容	件数	対応分類
232	私たちが住みやすい環境ができあがったり、将来を担う子どもたちが住みやすいと思えるような計画がたくさん見られたので、徐々に実現されていけばいいと思う。	1	②
233	基本理念について、「暮らし続けたいと思えるまち」とあったが、外部から住みたいと思えるまちにすることも取り組むべきことだと思う。	1	②
234	若者の成長とともに働く人の幸せと希望を感じ、暮らし続けたいまちを実現すると書いてあるが、どちらにも少子化という課題が当てはまる。大人だけでなく、子どもや若者にも少子化の課題を早くから教育すべきだと思う。	1	②
235	目指すべきまちの姿の部分のすべての子ども・若者・子育て家庭を大切に！というフレーズがすごく良いと思った。それにより、SDGsの理念である「誰ひとり取り残さない」を本当に具現化してほしいと思う。	1	②
236	京都市では、すべての子ども・若者・子育て家庭が大切にされ、まちに笑顔があふれる社会とするための計画を作成した。	1	②
237	「暮らし続けたいと思えるまちを実現」という基本理念はとても良いと思う。	1	②
238	「共育」は共に育て、育つの意味がありとても良い。	1	②
239	目指すべきまちの姿について賛同。よりよい京都を目指してもらいたい。	1	②
240	様々な人のニーズに応えるために、様々な計画があることに驚いた。目指すべきまちの姿に記載されているキャッチフレーズが明快で分かりやすい。	1	②
241	働く人が幸せと希望を感じ、暮らし続けたいと思えるまちを実現させようとしている部分が良いと思った。	1	②
242	「市民ぐるみで」「地域ぐるみで」という共育を目指す具体的な考えが簡潔に書かれていて理解しやすかった。市民ぐるみ、地域ぐるみの活動をより促進させるための、市民力、地域力を更に高める案がもう少しあっても良いと思った。	1	②
243	基本理念中の「暮らし続けたいと思えるまち」という視点は特に重要だと感じた。短期的な目標で完結させず、目先の利益ばかりに囚われない長い目で暮らしの場を構想していることが伝わってくる。	1	②
244	目指すべきまちの姿で「身近な地域」が、子ども・若者を「社会の宝」として大切に育むとあるが、全く知らない若者を受け入れなさいと地域に投げているように思われ、受け入れられる体制なのか、疑問。	1	②
245	「共育」や「真のワークライフバランス」が具体的に何を表しているのか分からない。	1	②
246	「子育て・「共育」環境日本一」のまちとあるが、日本一になる必要があるのか。	1	④
247	「共育」について、子ども（学童期）以上の世代、思春期や青年期は違った表現のほうがよい。	1	④
248	「共育」という言葉にして全体のテーマとしていること、京都の文化力は分かりやすくして良いが、市民力、京都力といった点では、具体的にどのようなものが明確になっていなく分かりづらい。	1	④
249	目指すべきまちの姿で、すべての子ども、とはあまり具体性がない。	1	④
250	基本理念の「暮らし続けたいと思えるまち」の実現が良いと思った。京都市は観光地のイメージが強いため、京都市民が観光客に魅力を発信することができると思う。全体的に支え合うという考えが示されているが、実際にどのように住民同士の関係を良好にして行くのか気になった。	1	④
251	目指すべきまちの姿がよく分からない。	1	④
252	「笑顔あふれる」のキャッチーな用語が少し不気味。笑顔はSDGsに必須なのか。	1	④
253	目指すべきまちの姿でSDGsに触れているのは良いことだと思う。	2	②
254	SDGsを実践し、一人一人が豊かに強くしなやかな「レジリエンス」のある社会の実現を市民が共有できるような施策があり、良好だと思う。	1	②
255	京都市が子ども支援・若者支援の先進都市となるように、このプランが進められていくことを期待する。SDGsを掲げている以上、「誰ひとり取り残さない」ということを改めて考えてほしい。	1	②
256	「誰ひとり取り残さない」ためには他の都道府県から移住してきた方の地域社会への参加の支援が必要ではないかと思った。	1	②
257	SDGsのロゴが上手く利用されている点分かりやすく、母親の立場を考えた内容がたくさん導入されていた。安心できるまちづくりの将来性を感じられたし、自身が母親になっても安心できそうだから、良いイメージがわいた。	1	②
258	SDGsの理念「誰ひとり取り残さない」というキャッチフレーズから、行政だけでなく市民も一緒になって取り組んでいくという姿勢がすごく伝わった。	1	②

No.	御意見の内容	件数	対応分類
259	子ども若者期は心身共に成長途中であるため、何がきっかけでつまずくかは分からない。つまずいた時に助けを求めることができるかどうか、孤独に陥るかを左右する要因であり、そこに必要なのは、多様な経験ができる場や、他者の価値観に触れる機会では。その機会を、課題のあるなしに限らず、すべての子ども若者にきちんと保障されることを明記してほしい。	1	②
260	京都はぐくみ憲章・SDGsは、大切なことなので、一番後ろでなく、1ページ目にあつた方がよいと思った。	1	④
261	SDGsがあまり浸透していないように思う。	1	④
262	京都市はSDGs調査で全国1位なので、もっと押しでもいいと思う。目指すべきまちの姿に関して、何を基準にしての日本一とするのか。	1	④
263	「レジリエンス」のある社会とはどういったものなのかがよく分からなかった。	2	④
264	切れ目ない支援をお願いします。	3	②
265	「妊娠前から子ども・若者までの切れ目ない支援」を推進は素敵なことだと思う。	1	②
266	妊娠前から子ども・若者まで切れ目ない支援を推進することで少子化などの課題に対応していくという理念はすばらしいと思う。現在、数少ない子どもたちを大切にすることで、京都市の地域力を底上げすることが、可能である。	1	②
267	「妊娠前から子ども若者までの切れ目ない支援」は、今生きている人だけでなく、これから生まれてくる子も支援してくれるので、親も出産や子育てしやすくなり、子どもの増加につながりそうなので、とても良い考えである。	1	②
268	「妊娠前から子ども、若者までの切れ目ない支援」という基本理念はすばらしいと感じた。	2	②
269	生まれてから20歳までの一括的な計画を立てるべき。	1	②
270	かなりボリュームのある意欲的な計画案となっているが、各取組が、真に「包括的」であってほしい。また、民間の力の活用やチームでの取組とともに、行政としての役割も盛り込んでいただけたら、「本気度」が表れると思う。	1	②
271	乳児から小学校、中学・高校、その親など、幅広い年代や人のサポートを同じ管轄で行っているのは、連携も取りやすく、すばらしいと思った。	1	②
272	「切れ目ない支援」というのは、結果が求められることでもある。はぐくみ局に一元化し、プランを一つにすることで、行政がまず一丸となれるか、そのうえで地域や関係機関と協働できるか、市民は見ているし、子どもや若者は求めていると思う。	1	②
273	母親のお腹にいるときから大学生年代まで市からずっとサポートを受けられるのはいいと思う。	1	②
274	”切れ目ない支援”が具体的にどのようなものかが分かりにくい。	1	④
275	地域で子育てできる環境の整備をしっかりと検証し、柔軟に対応してほしい。	1	②
276	子どもを中心にのびのびと育つ都市にしてほしい。ともに育ち合いたい。	1	②
277	子どもたちの未来のためになる内容を求める。	1	②
278	もっと子育てがしやすくなるような計画にしてほしい。	1	②
279	少しでも子どもが成長できるまちにしてほしい。	1	②
280	今後、子どもや子育ての問題が増えていくと、対策は必要になってくるので、力を入れるべきだと思う。	1	②
281	親と子のどちらもサポートする取組が多く、これを皆が知り、利用すればとても助かると思う。多感な時期にこのサポートや教育がしっかり行われ発展するべきだ。	1	②
282	近年、子育てに対して様々な政策が考えられつつあるが、まだまだ「妊娠」などに対して意見を持つ人がいるので、優先的に取り組む必要がある。また、親になるための心の支援や親教育などの方法も考えられる。	1	②
283	子育てを中心とした法律やルールができていく今の世の中で、「安心」できるような社会が一番求めるべきだと考える。	1	②
284	一時的に子どもを見守るのではなく、長期的に子どもを見守ろうという施策の体系は、子どもの将来に大きく影響する。	1	②
285	安心して妊娠・出産できる環境づくりと子どもの学びと育ち合いを優先的に行うことにより、京都で育った人は、京都での暮らしの素晴らしさに気付き、京都に住み続ける人が増えると思う。	1	②

No.	御意見の内容	件数	対応分類
286	子ども・子育てに関する支援は直接的・間接的支援の二面性であることが不可欠。間接的、つまり子育てができる環境がないでは母親のストレスが雲泥の差だと思う。それを含めて考えてある京都市の計画は少子高齢化に対して前向きに対応しようという気持ちが分かる。	1	②
287	子育てをする方達が少しでも助けを得られて、無理なく京都で子育てをできたらと思う。	1	②
288	子育てに関しては、仕事と両立したい母親もたくさんいるので重視すべき。	1	②
289	子育てにおいて、親と子がそれぞれに相談できる場所、人がいる社会が当たり前になってほしいと思った。	1	②
290	子どもに優しい市だということがわかる。少子高齢化の中で若い人に住んでもらうためには必要なことだ。	1	②
291	現在いる子ども、産まれる子どもも、安心して支援できるような体系を作っておくことが重要であると思う。	1	②
292	現計画と同様に、引き続き子育て支援の充実に資する取組をお願いしたい。	1	②
293	児童数の明らかな減少が見られるので、小学校入学前までの児童の支援、妊婦への支援を重視した方が良いと思った。	1	②
294	子どものことを優先したい。	1	②
295	女性の社会進出において、子育てがしやすい、安心できる環境づくりに取り組まれているところに感心した。	1	②
296	少子化に対応する施策が必要。	1	②
297	少子化が進行している原因として、やはり晩婚化や子育てしづらい環境が挙げられる。子育てしやすいまちづくりをしてほしい。	1	②
298	少子化が進行する中で、子育ての様式も変化しており、すべての子育て家庭が充実した生活を送るための施策を市は熟考しているのだと気がついた。若者や子どもが持続してまちに住みつけられる環境づくりを目指して、これからも最善策を検討していく必要があると考える。	1	②
299	少子化の進行が進んでいる中、どのような対策をしているのか知りたい。虐待などが最近ニュースで挙げられているが、解決策があるのか。	1	②
300	まず子どもを産むための環境や育てるための環境を整備することで、人口減少の問題に歯止めをかけることができると考える。	1	②
301	少子化が進んでいる現代において、子育て支援の施策は重要。	5	②
302	今後の少子化問題や、現在助けを必要とする人々にこの計画を提示することにより安心が生まれるのではないかな。	1	②
303	少子化が進行している中で、こういった計画が進めば将来自分が大人になってからでも安心して子育てもしていくことができると思う。	1	②
304	少子高齢化が進み、そもそも子どもをつくるのが負担と考える人々がいるが、それは将来的な経済面、生活面をふまえてのことであり、子どもを産む以前の問題ではないだろうか。	1	②
305	今の若者が子どもを産まない理由には将来への不安感がある。	1	②
306	少子化なので、子どもに対する策があると良い。	1	②
307	少子高齢化対策として重要な視点だと思う。	1	②
308	少子化や虐待など深く考えてほしい。	1	②
309	少子化が進んでいて周りに子どもがいないから活動を進めてほしい。	1	②
310	出生率を上げたいのであれば、もっと子育てのしやすい補助をしないとけない。	1	④
311	特に支援を要する子どもへの支援を進めてほしい。	1	②
312	子ども中心の計画が多く、貧困にも目を向けていて良かった。	1	②
313	虐待、貧困といった問題への対策はするべきだと思う。また、少子化が進んでおり、原因として、子育てなどへの不安もあると思うので、そういった人々を支援することで、問題の軽減につながるのではないかなと思う。	1	②
314	支援を要する子ども若者やその家庭の支援に関して、様々なサービスを使えるように、支援を必要としている人々に内容を知ってもらうことが大切だと思う。	1	②
315	京都市内に住む様々な問題を持つ子ども、またその親の支援をすべき。	1	②
316	児童虐待・貧困などの問題が増加している。この計画は市民や地域の人々が協力しないと成り立たない。	1	②

No.	御意見の内容	件数	対応分類
317	貧困家庭の子どもや児童虐待を体験した子たちが生活しやすい環境を作ってあげたいと思った。	1	②
318	ひとり親家庭や、学校に行きたくても行けない、明確な夢があっても実現するのが困難な人達を支援する取組、虐待など命を守る取組や子育てへの支援は、これから必ず必要だし、とてもすばらしいと思う。	1	②
319	親の負担が軽減するような具体的な取組が考えられている。医療機関の連携や幼保小が連携することで、子育てに対する不安が取り除かれ、親が子育てに余裕を持つことができ虐待などにつながらないと思う。	1	②
320	虐待とか長時間労働とか最近ニュースになっているので是非ましになってほしい。	1	②
321	表には見えないからこそ、拾わなくてはいけない声があると思う。生まれた環境によって生死に関わったりする差がうまれてはならないと切に感じる。	1	②
322	障害や課題のある人向けの施策・取組が主となり、そこにかからないグレーな人達への具体的な取組も掲げるべきでは。	1	②
323	二つ以上の問題(ひとり親でかつ、子どもが重い障害を持っているなど)を抱えている場合はどうなるのだろうかという疑問に感じた。	1	②
324	社会全体を押し上げるのには、まずは格差をなくしていくことが必要である。そのことを考えると特に支援を要するところを支援する優先順位を上げる必要がある。	1	②
325	課題や困りを抱える子どもや家庭を支援するというのはどこまで支援されるのか。	1	④
326	「課題や困りを抱える子どもや子育て家庭に対する支援の強化」とは、具体的にはどのようなことを行うのか。	1	④
327	子育て家庭や若者の孤立を防止してほしい。	1	②
328	子ども・若者への支援を行うことはとても有難いが、根本的な問題として、子どもの数が減少してきているので、若者を呼ぶ政策を取ってもらいたい。	1	②
329	子ども(幼児～小学生)に対しては手厚く予算や支援機関についても考えられていると思ったが、中学生以上の若者とのバランスを取ってもらえると、社会に出て一人ずつが力を発揮できるようになるのではないかと。	1	②
330	次の世代を担う若い人たちへの施策を含めた計画を希望する。	1	②
331	若者に対しての計画を充実させてほしい。	1	④
332	青年期のサポートがすべてにおいて手厚くされていない。	1	④
333	「子ども」が強調されており京都市に多く住む学生や中高生といった若者へのサービスの視点が弱く感じる。	1	④
334	京都市で暮らしておらず、学生なので、このような取組にあまり興味が無い。	1	④
335	将来の展望自体にはこだわらずとも、ビジョンが曖昧でも、人生の試行錯誤の過程により、進路が見えることもあり得る。	1	④
336	子どもとその親に関する計画・事業が多く、若者に関する計画が見受けにくい。	1	④
337	税金を先鋭化した課題に集中させるのは理解できるが、子どもたち、青少年たちが生きにくさを感じていることも忘れてはならないと考えるので、そうした観点に立った施策も重要だと思う。	1	②
338	子ども・若者が自立した生活を行うことができるようになるには、自ら考え、行動できることが重要だ。そのために最も必要な経験を積むということは、たくさんの失敗を重ねることだ。子ども・若者の失敗を許容する社会であってほしい。	1	②
339	子どもの権利条約をしっかりと実現してほしい。	1	②
340	「子どもの権利条約」踏まえたものにしていただきたい。日本一ということは、日本で一番子どもの権利を大切にこそだと思う。	1	②
341	子どもを大切にすることは、子ども一人ひとりの権利を尊重することだと思うが、なぜ、子どもの主体的取組を支援する計画はないのか。	1	②
342	「子どもの権利」の視点が弱く、方向性があいまいな印象。	1	②
343	子どもの権利という言葉が出てこない。子どもの権利を盛り込むべき。	2	②
344	予防的観点、世帯支援、子ども若者の権利について追記を。	1	②
345	京都市で生活すること自体が子どもとの時間を奪い、ゆとりある暮らしにつながらない。子どもや子育てをもっと重視し、子ども中心の市にしてほしい。	1	④
346	やっぱりお金はかかるかも知れないが、将来の人を育てることで、よりよいまちになるのであれば安いものだと思う。	1	②

No.	御意見の内容	件数	対応分類
347	子どもや若者支援を行うに当たっては、無駄を省き、現役世代の負担を軽減することが最も優先すべきと考える。	1	④
348	明石市のおむつ宅配の取組のように支援が必要な家庭へのアウトリーチに力を入れてほしい。	1	②
349	環境、制度を良くするためには、絶対周囲の人の声が大事。今の計画でも充実しているが、満足せず改良につとめることが、大人としての役割になる。	1	②
350	これだけ多くの計画を実施すると、質が落ちてしまわないか少し心配。	1	②
351	京都市として公教育（乳幼児も含めた）の責任や機能についての記述がないことが気になった。	1	②
352	既存事業の実施にとどまらず、子ども若者にとっての豊かさにつながる指針を。文化体験は重要視すべき。	1	②
353	幼保無償化よりも保育士の支援から始めたほうが良い気がする。学童もなり手がいないのに、どうやって充実していくのか分からない。教師もたくさん採用してすぐ現場に向かわせるのではなく、育てて講師的に扱うようにすれば教育の質も良くなるのではと思う。	1	②
354	行政は共助の推進よりも公助をしっかりとしてほしい。	1	②
355	課題を抱えていない普通の子どもや若者に対する働きかけが薄い。	1	④
356	日本一という言葉は使用しないでほしい。他府県市町村では給食副食費を無償化している自治体が増えている。障害児加配も京都に来て、民間保育園では、こんなに加配がつかないのかと驚いた。	1	④
357	社会を明るくするとやっているが京都だけで達成できるとは思えないし、よく分からない。	1	④
358	趣旨だけを見ると、地方行政が取り組むのではなく、国がもっと行うべきもののように感じた。	1	④
359	地域コミュニティを構成する一主体であるとの意識は、他市町村に比べ人口の多い京都市では他人事に思ってしまう人が多い気がする。	1	④
360	この計画自体の考え方などには共感するが、観光地の混雑問題や人口の集中している地域に偏りがあることなど、改善すべき問題はほかにも多くあると思う。	1	④
361	位置付けが枝分かれすぎて、どう違うのか分かりにくい。	1	④

第Ⅱ部 具体的方策

第2章 施策の体系（第1章 優先的に取り組む事項に対する意見を含む。）

1 ライフステージに応じた子ども・若者の成長

(1) 母子保健（計90件）

No.	御意見の内容	件数	対応分類
1	生まれる前からの施策はとても良い。	1	②
2	安心して妊娠・出産できる環境を作ってくれるところが女性の立場としては嬉しいと思った。	2	②
3	安心して妊娠・出産ができる環境を作ってほしい。	3	②
4	子どもが産まれた際にもっと多くの援助があればと思う。	1	②
5	医療機関との連携による妊娠期からの切れ目ない支援について、行政機関だけでなく、地域全体で行うのが魅力的である。	1	②
6	女性の出産など、心配なことについて寄り添って対策されているところが良いと感じた。	1	②
7	まずは出産の支援を最優先にし、次に育児支援がくると思う。子どもが生まれないことには、この計画はほとんど意味をなさない。	1	②
8	子どもを産みやすい環境を作るのはとても大事なことで良いと思う。	5	②
9	まず出産できないと子どもが増えないため、この方策を優先すべきだと思う。主にお金面の心配で子どもが産めないというのが多いと思うので、子育ての金銭面の援助や、幼児教育の無償化はすべきであると感じた。	1	②
10	子どもができてからの支援はよく聞かすが、妊娠しているときや出産するときの支援があるというのは少子化の解決にも良い。	1	②
11	妊娠に対する具体的対策として、母子に対する直接的支援、環境づくりによる間接的支援の二面性になっており見通しがついていないため、意欲的なことが理解できる。メンタル面での支援は非常に重要だと思う。保育士など周囲に対する策も重要なので、非常に良い施策だと思う。	1	②
12	丁寧に支援することが可能になって、妊娠後から支援するのではなく、妊娠前から支援を実施しているのは母子の負担が減るので素晴らしいと思う。	1	②
13	子どもは生まれた後も生まれる前も大切である。無受診妊婦が出ないためにも母子にやさしい京都を作ってほしい。	1	②
14	女性の一生で出産は大事なことで、子育ても大変だから安心できる環境があるのはいいなと思う。	1	②
15	妊娠前からの支援、出産から子育て全体に対する支援がうたわれているのは素晴らしいと思うが、対応する保健師の人員を増やしていただきたい。	1	②
16	出産は大事。	1	②
17	「子育て世代包括支援センター」が区役所・支所に設置されていることを初めて知った。医療機関との連携による切れ目ない支援により、安心して妊娠、出産できる環境になり、心強いと思った。	1	②
18	父親も支援すべき。妊娠前からの理解から、積極性や正しい理解等をもっと広げるべき。新生児等訪問指導事業の回数を増やすために、人員確保、専門性の充実を図ってほしい。	1	②
19	妊娠・出産できる環境づくりはとても重要なことだと思うので、保護者にとって子どもをしっかりと育てていける環境や、また妊娠やその家族が気軽に相談できる場などが多くあるといいと思う。	1	②
20	特に妊娠期の若い母親へのケアは重要で、地域で孤立した若年妊婦をいかに支援につなげるかは急務である。	1	②
21	妊娠してからB肝やH I Vの検査をするのではなく、大学入学時や婚姻届出時に感染症検査をすべき。	1	④
22	分娩取扱いのない施設にもレスパイト入院の枠を拡大し利用枠を増やしてほしい。	1	④
23	妊娠・出産に関する正しい知識の普及啓発を誰が教えられるのか。	1	④
24	胎児に影響を及ぼす飲酒や喫煙など、健康保持増進の教育支援は必須だと思う。	1	②
25	妊娠の正しい知識、子育て推進が主となるライフデザイン形成に危惧。	1	④
26	出生前診断について説明会などがあってほしい。軽い気持ちでするものではないから。	1	④
27	妊娠・出産に関する正しい知識とは、何をもっての正しさなのか説明が乏しいので理解しきれなかった。	1	④

No.	御意見の内容	件数	対応分類
28	「母親」という役割での呼称より、女性という表現の方が良いと思う。もっといえば、女性でない自認を持っている人でも妊娠・出産することがあるので、その点を考慮した方策・文言にしてほしい。	1	④
29	待機児童などの問題で少子化が進む訳でなく、まず始めに妊娠しやすい環境に優先して取り組むべきではないか。	1	②
30	不妊治療に係る助成が少ない。相談会が実施されているが就労していると平日には参加できない。	1	④
31	不妊の人への支援はどうするのか。	1	④
32	不妊に関しては、結婚するまでお互い気づかないなど、ナーバスな問題だと思う。	1	④
33	出産後1箇月外出できない時のサポート	1	②
34	出産ぎりぎりまで働き、産後の知識・情報がなく戸惑うことのないよう、産婦人科や母親教室等でできるだけ多くの人へ情報が届くように周知することが大事だと思う。	1	②
35	母親が孤立してしまうと、虐待につながってしまうかもしれない。外出を拒む人もいるかもしれないため、積極的に訪問して支援することが大切だと思う。	1	②
36	子どもだけでなく、妊婦への取組や産後のケアにも取り組むことがこれからの生活につながると思う。	1	②
37	母親が育児でうつになったときの、サポートがあることは魅力的に感じた。	1	②
38	誰もが不安と思う出産のケアはとても助かるものだと思う。また、出産した後のケアも行われているというのも母親に親身になってくれていると思う。	1	②
39	産後うつについて、少しでもなくす活動が多くの人に知られることが大切。	1	②
40	産後は大変なことが多いと思うので、産後ケアに力を入れてほしい。虐待などが減るかもしれない。	1	②
41	産科施設退院後、自宅での子育て開始時期は、多くの産婦は緊張や不安が高まる。この時期の育児の自立に寄り添い支援することで、思いに母親の抑うつ気分を軽減するなどより有効な活用を。	1	②
42	産後ケアと育児不安を軽減するため、家族写真などのプレゼントを実施すれば良いと思う。	1	④
43	スマイルママ・ホッと事業を充実してほしい。	1	④
44	新生児等訪問事業を産後できるだけ早期（退院後1週間以内）に実施することでアウトリーチ型の支援を行ってはどうか。	1	④
45	産後のケアの中に、職場への復帰をしやすいとすることが必要だと思う。	1	②
46	産後ケアは何が必要なのか、男性としては無関心だった。	1	④
47	妊産婦の健康診査は、体調がとても変わるので、強化していくべきだと思う。	1	②
48	妊産婦が受診する際には、交通手段、時間的制約、保育の問題及び金銭の問題など複数の課題があり、以下の内容について充実や構築を求める。 院内バリアフリー化に対する行政による補助金を充実。妊産婦手帳持参時に、優先的に治療を受けられたり治療時間を短縮できる制度の構築。妊産婦の税額控除の拡充もしくは医療費負担軽減制度を構築。	1	④
49	5歳児健診を実施し、発達障害やその疑いがある児童など、就学前に保護者も学校側も意識できるようにしてほしい。	1	④
50	妊婦健康診査への同行など医療機関と協働し、既存のこんにちはプレママ訪問の事業拡大（特定妊婦の支援継続 顔が見える関係性で支援の連携を）	1	④
51	検診の補助券も日数がずれると使えなかったりと不便である。予備で何枚かつけておいてもらえると助かるし安心できる。	1	④
52	家庭訪問による継続個別支援の充実を。	1	②
53	乳児家庭全戸訪問事業は、ひきこもっている母親が外に出て行けるきっかけになり、良いと思う。加えて、転居されてきた方のフォローも、是非お願いしたい。	1	②
54	乳児家庭全戸訪問事業は子どもはぐくみ室職員が訪問するとあるが人件費が多額になるのではないかと。乳児から入れられる保育施設を増やしたり、幼児教育、保育の無償化を実施した方が働く女性や共働きの家庭が増えているので、効率が良くなる。	1	④
55	児童福祉法に基づく乳児全戸訪問担当は社会の人的資源を活用し、新生児等訪問事業とは切り離してはどうか。	1	④
56	母親からしたら子どもの健康を願うのは当たり前。だから、母親が安心して子育てできる環境を作ることはずごく必要だと感じた。	1	②

No.	御意見の内容	件数	対応分類
57	早産児，低出生体重児，多胎児，疾患を持った乳幼児など特別なニーズを持った乳幼児のいる家庭に対する，個々のニーズに応じた育児支援内容の充実を。虐待のハイリスクでもあり，医療施設退院後，早期からの継続的な支援や医療機関との連携した支援が必要と思われる。	1	②
58	健全な心身の育成・疾病予防・早期発見・適切な養育支援のための乳児期から就学までの健診事業の充実と保健指導体制の強化について追記していただきたい。	1	②
59	双子や三つ子といった多胎の出産・育児について京都市にはすでに第三子以降および多胎の出産をサポートする産前産後ヘルパー派遣事業があるが，家事・育児が忙しい夜の時間のサポートが受けられないため，早急に改善を求めたい。	1	④
60	親へのカウンセリングがあってもいいと思った。	1	④
61	京都版ブックスタート事業でもらえる絵本について，絵本の選択幅を増やしてほしい。	1	④
62	ブックスタートが何かを知りたい。知らない人も多いと思う。	1	④
63	母親だけでなく，父親にも支援が必要なのではないかな。	2	②
64	母子保健はとても良いと思ったが，母だけが行きやすく，父親は行きにくそうな印象を持った。	1	④
65	妊婦さんのための「子育て世代包括支援センター」は支援が乏しかった現状脱却のためにとても良いと思う。	1	②
66	「区役所・支所子どもはぐくみ室機能の充実」とあるが，その情報を求めている人全員にしっかり知られるようにするにはどうしていくのか。支援するためには人が今までより多く必要になるが，支援する人の仕事の負担，残業やちゃんと妊婦と信頼関係が取れるのかが気になる。	1	②
67	「子育て世代包括支援センター」を設置することは非常に有益だと思った。知ってもらわなければ利用されないのだから，知ってもらうための取組が必要だと感じた。	1	②
68	役所に「子育て世代包括支援センター」が設置されていることを初めて知った。	1	②
69	「子育て世代包括支援センター」=子どもはぐくみ室とあるが，知る限りでは住民向けの周知はされておらず，共通認識となっていない。センターの位置づけや機能役割について，もう少し丁寧な説明が必要ではないかな。	1	④
70	子どもはぐくみ室の相談対応機能について，具体的に記載していただきたい。	1	④
71	区役所・支所子どもはぐくみ室の機能の強化充実について，具体的な取組はあるのか。相談対応とあるが，相談支援という表現のほうが良いのではないかな。	1	④
72	区役所子どもはぐくみ室に相談に行った際に，まず話が分かっていない職員に対応され，話の分かる職員は対応が上から目線だった。窓口の時点で安心できないということが軽減されることを望む。	1	④
73	妊娠，出産子育て一般の基本的な産前の健康教育の充実（未体験の事柄に対する漠然とした不安に対応する，医療費の削減につなぐ）と助産師の活用を。	1	④
74	助産師に妊娠から出産までずっと寄り添ってもらって，産後もずっと関わってもらっている。もっとマイ助産師制度が普及したらいいと思う。	1	④
75	地域で助産師に気軽に相談してケアが受けられるように少額でも公費負担していただけたら，より母子に安心して楽しく子育てができるのではないかなと思う。	1	④
76	継続支援でない切れ目のない援助とは。初対面の人に人は頼ったり，弱音を吐けるのか。母子健康手帳交付時，ハイリスクだったらすぐに，地域の助産師に継続的な支援を委託すべきだと思う。	1	④
77	妊婦訪問事業・新生児訪問事業・育児支援家庭訪問事業など，妊産婦母子訪問事業に，助産師としての専門性をもっと活用していただきたい。助産師は母子の双方を見ており，うつや虐待予防という観点からも関わりたいのに，現在の扱いは1指導員としてトラブルなく通り一編の観察・スクリーニングをしてきたら良いというような趣旨が感じられて残念である。訪問事業だけでなく，産前産後のサポート教室や，思春期教室なども含めて活用していただけないかな。	1	④
78	地域医療と市の関係を密にしてほしい。	1	②
79	受動喫煙防止は重要。ニコチンの代謝物質コチニンが子どもの尿に含まれないか検査し，検出された場合保護者に対し介入するのが良いと思う。	1	②
80	何らかの事情で国民健康保険に加入できていない人々が，医療機関にアクセスできるようにシステムや情報発信が必要だと思う。避妊や性行為の合意形成についての教育も必要である。	1	④
81	男性の視点では，独身である限りは産婦人科にお世話になることがないので，医療機関については無知であると思う。	1	④
82	連携をコーディネートする時間の確保，人材の保障について追記を。	1	④

(2) 乳幼児期の子育て支援（計57件）

No.	御意見の内容	件数	対応分類
1	子育て世帯の孤立防止の説明で、児童館を追記してほしい。	1	①
2	「子育て支援施設や・・・」の文章に「児童館等の子育て支援施設や・・・」と入れてほしい。	1	①
3	乳幼児や子育て家庭の健やかな成長のための場づくりの二項目に「児童館」を記載してほしい。	1	①
4	乳幼児期の子育て支援の開かれた施設運営について、児童館も追加してほしい。	1	①
5	つどいの広場の事業など、乳幼児の母親が少しでも助かる施策が進むと良い。	2	②
6	地域子育て支援拠点事業（つどいの広場）は、子育てをはじめたばかりで不安いっぱい母親に広がりが見られ、数多くの新しい方が来られる様になった。	1	②
7	以前、つどいの広場に行ったことがあるが、身近なところに素敵な居場所があってよかった。こどもみらい館より規模は小さい、つどいの広場や児童館の乳児サークルの充実をお願いしたい。	1	②
8	地域全体で子どもを育てるという視点が組み込まれており、具体的に施設の紹介もされていて、良かった。つどいの広場を年に1箇所新規に確保するという所で、本当に実現できるのか疑問に思う。	1	②
9	つどいの広場の多くが休みの日に利用したくても利用できない。休館日を平日にしてもらいたい。	1	④
10	大切な乳幼児期に親だけでなく地域・行政が一体となって育む環境づくりが大切である。	1	②
11	幼児の親の孤独感をぬぐうため、より支援すべき。	1	②
12	子育て中の親が孤立しないように、交流できる機会を設けることで、悩みや不安を相談しあえる関係を築ければ、親の負担を和らぐことができると思う。また、子どもが、学び、遊べる場所を提供することで、子どもの学力向上や、健康を保つことができると思う。	1	②
13	子育て中の親同士が共通の悩みややりがい共有する場として施設をつくるのは大変有効だと感じる。狭い地域にとらわれ孤立してしまわないよう、市単位で子育て中の親をサポートする取組が重要なのだと思う。	1	②
14	今後私が母親になる頃を迎えたとき、子育てすることに不安を抱いてしまいそうだと思っていたので、親子が安心して利用できる居場所があると、心の支えになると思うし、そこで他の母親さんの方たちともコミュニケーションの場があるのは良いと思った。	1	②
15	サロンの実施などは出産後の母親のストレス軽減が望め、メンタルケアが期待でき虐待も減らせると思うので、重視すべき。	1	②
16	乳幼児期の親子が利用する居場所の充実。	1	②
17	子育て拠点事業の推進とあるが、やみくもに増加するのではなく、「質」の向上も併せて行ってほしい。	1	②
18	子育てをするうえで、悩みを持つ人は必ずいる。自分だけがしんどくないと思えれば頑張れると思うので、交流の場は必要だと思う。	1	②
19	乳幼児を昼間、母親が1人で育てることは、とても孤独だと言う。気軽に助けを求めたり、情報共有したりできる環境作りは必要だろうし、求められる人も多くいると思う。	1	②
20	乳幼児を抱える子育て家庭が交流できる支援施策の充実についてすごく興味を持った。	1	②
21	子育てする親が孤立しやすい状況は親だけでなく子どもにも影響しやすいと思うので、居場所の充実は早期に進めるべきであり、良いと思う。	1	②
22	親子が利用する居場所も大切だが、子どもを預けられ、親が一人になる時間が取れるような場所も必要だと思う。	1	②
23	乳幼児期の保護者同士のコミュニティ、気軽に参加しやすい託児のあるイベントの実施。情報発信の強化をしてほしい。	1	②
24	乳幼児が参加できるイベントを提供するのは良いと思う。	1	②
25	2歳の子が参加できるイベントを増やしてほしい。	1	④
26	他の自治体では、新生児聴覚検査費用を助成する券がもらえるようである。費用が高いと検査を受けない人がいると思うので、京都市も子育て支援に力を入れるのであれば、検査費用を助成してほしい。	1	①
27	子育ての困難な時代にあって、乳幼児期にそのケアができることが、社会にとっても、京都市にとっても必要なことで一番効率のいいことだと思う。	1	②
28	保育園に通っていない親子を対象とした子育て相談・子育て広場等の充実を図る計画にしてほしい。	1	②

No.	御意見の内容	件数	対応分類
29	乳幼児期の支援は引き続き行っていくべき。子どもの預かりは親への負担減につながり、子育て不安もやわらぐと思う。	1	②
30	自分の親が共働きだったため、実際に「学童クラブ」に所属していた。そのおかげで私は小学生の頃悲しい思いもすることなく、親もとても助かっていた。それに比べて乳幼児はもっと大変だと思うので、支援の強化や援助活動支援事業を推進させることに賛成である。	1	②
31	妊娠前から育児期まで継続的なサポートがあって良いと思った。	1	②
32	乳幼児期は今後の生活に大きな影響を与えるため、手厚い支援が必要。	1	②
33	もっと幼児期の子どもを抱える親への支援があるといいと思う。虐待などが起こるのは親のせいだけでなく、親を取り巻く環境も悪いのだから、その視点での支援があるといい。	1	②
34	妊娠前から育児期は、金銭的不安も多いと思うので、その時期のサポート・支援は心強く、少子化対策としても良い。	1	②
35	施策が充実していることに気付いた。医療費も安く、市主催のイベントもある。子育ての分野については知らなかった。	1	②
36	子どもの誤飲やケガの際に気軽に相談できるホットラインを設置したり、ネットで相談できるようにしたら母親も安心できていいと思う。	1	②
37	乳幼児期の母親のケアを区役所でやるということだが、知らない人や、行きづらいと感じている人もいると思うので、もっとPRなどに力を入れるべき。	1	②
38	相談窓口が一枚で分かる資料があると良い。	1	④
39	子どもはぐくみ室が、行政区の「子育て世代包括支援センター」と位置付けられるなら、児童館を含む地域子育て支援ステーションは、小学校区の「子育て世代包括支援センター」としての役割を担う施設であることを明記していただきたい。	1	④
40	ベビーカーごとバスに乗れるようになり、楽になった。	1	④
41	地下鉄のエレベーターが遠く、ベビーカーでの移動が大変である。	1	④
42	人混みが多いところへの外出や、一緒に連れて行くのが困難な時のために、バギーの提供があると良い。	1	④
43	ベビーカーが使用できる外食のお店がもっと増えると良い。	1	④
44	京都は通常、通勤など交通の便は良い。観光客が多く、バスなどにベビーカーを持った親子などが乗りづらそうにしているのをよく見る。そういった部分も何か対策があればよりよいのではないかと感じた。	1	④
45	ベビーカーを押すようになって分かったが、公共施設のバリアフリーが少ない。歩ける人はエレベーターではなく、エスカレーターを使用してほしい。	1	④
46	子どもの事故や病気に対応できる体制を固めるのは個人的にはうれしい。子どものケガ・病気は命にかかわり、子どもの苦しむ姿は親にも非常にショックなものであるから、すぐ対応できる体制があればよいと思う。	1	②
47	乳幼児期から学童期の取組にある子どもの病気や事故に対応できる体制の充実がとてとも良いと思う。	1	②
48	事故予防対策についての普及啓発等は重要であるが、実際に事故が起こった際は、事故報告書の提出を求めただけなのか。啓発されても、人手が少ない中で対応が追い付かず発生する事故も予想される。そのような事故に対して、市は補償や責任を負わないように読める。	1	④
49	加熱式タバコの誤飲事故が多発している。この防止啓発をお願いする。保護者が卒煙するのが一番の解決策である。	1	④
50	公立保育所、民間保育所それぞれの子育て支援機能の役割区分の検討や多機能化、社会資源としての里親の活用ということも考えていただけたらと思う。	1	②
51	子育てにおいて母の休日も重要視されるべきである。子どもを預ける施設も充実させるべきだと思う。	1	②
52	静岡と比べて、支援センターの数が少ない。	1	④
53	乳幼児向け食品や乳幼児生活用品、産後の母親向け製品、知育教材などメーカーとコラボした体験会を開催してほしい。	1	④
54	「保育士のいる子育て支援施設には出張応援することはできない」との決まりを改善してほしい。	1	④
55	保育園を運営しているが、地域子育てステーション事業に対して、職員を派遣することは、保育園の仕事を抜けなければならない、フリーの地域担当を配置できる予算を確保してほしい。	1	④
56	「住民相互で行われる子育て支援活動」は学区社協や民協等の住民による「子育てサロン」のことと思うが、わかりやすく「子育てサロン等」と加筆していただきたい。また、主な取組の「地域子育て支援拠点事業」が分かりにくいので具体的な記載があれば良いと思う。	1	④

(3) 幼児教育・保育(計261件)

No.	御意見の内容	件数	対応分類
1	保育士の配置基準を引き上げてほしい。	28	②
2	保育士配置基準をもっと引き上げてほしい。保育に予算をもっとつけてほしい。	1	②
3	保育士の配置基準を引き上げてほしい。就学前教育も大事にしてほしい。	1	②
4	京都市は、保育士の配置基準が全国的にも高いと聞いたが、それでも3歳児以降の幼児数に対する職員の数は大変少ないと感じる。より丁寧な保育をする上でも、保育士配置基準を京都市独自で更に引き上げて頂きたい。また、国の未来を担う子どもを育てる保育士の能力に見合った給料の引き上げをお願いしたい。	1	②
5	京都市の保育士配置基準は、国を上回っていると言われていたが、11時間すべての時間で守られているわけではない。保育の質の向上に取り組んでほしい。	1	②
6	保育の無償化ではなく、保育士を多く配置するなど子どもたちによりよい環境を与えてほしい。	1	②
7	無償化に伴う保育士の人材不足が懸念される。保育の質を保つだけでなく向上させるため、保育士配置基準を市独自で引き上げてほしい。	1	②
8	保幼小の連携のために、保育園の保育者を加配してほしい。	1	②
9	保育士が足りないので職員を増やすこと。	1	②
10	様々な食物アレルギー児と宗教食など、安全に間違いなく提供することはとても大変である。働く人を増やし、労働環境を良くしてほしい。	1	②
11	幼児教育、保育を無償化する割に保育士が少ないため、1人で見る生徒数が多いと感じる。そのため、子どもがけがをする可能性が高くなるのではないかと。	1	②
12	長時間保育が保障でき、より丁寧な保育が実現できるように、保育士配置基準を引き上げていただきたい。	1	②
13	保育を、企業として考えないでいただきたい。保育の質を考えて、保育士配置基準を高い水準でお願いしたい。	1	②
14	京都市は国の基準を上回って配置しているが、国基準が国際的に見て最低レベルということ認識しなければならないと思う。安心して京都で子育てができるように配置基準を全国一にしてみたいか。	1	②
15	より丁寧な保育の実現のため保育士の配置基準を京都市独自に引き上げてほしい。	1	④
16	職員配置が本当に適切なのかどうか保育の現場を調査して、より丁寧な保育を提供してほしい。	1	④
17	小規模保育事業所等の職員を全員保育士にしてほしい。	1	④
18	「新規取得者の確保、潜在保育士の再就職支援及び保育士の就業継続支援」について、設定している配置基準を踏まえて不足人数等を算出し、具体的な数値目標を掲げてほしい。研修受講を推奨するのであれば、受講保育士が不在時の人員確保についても考慮が必要。	2	④
19	保護者も職員も安心できるようにするために、看護師を必置にすること。	1	④
20	保育園に事務職員を正規で置けるような補助金を。	1	④
21	保育士さんの給料を上げてほしい。また、成り手を増やしてほしい。	1	②
22	保育士の処遇を改善し、配置を増やしてほしい、	1	②
23	保育士の処遇を改善してほしい。	7	②
24	預けられる時間が長くない限り、目に見えた効果はない。そのためには、職員の増員や賃金の向上が必要だと思う。	1	②
25	子どもを保育する環境や保育士の給与改善は最も取り組むべきことだと思う。	1	②
26	待機児童ゼロも大切であるが、保育士の働き方と給与水準の見直しなども大切だと思う。	1	②
27	健全な子どもを育てるためには、保育士など子どもと直接触れ合う人々への支援をしっかりしないと成り立たない。	1	②
28	幼稚園や保育園における最大の問題は先生への待遇や給料であり、それを改善して人を増やすことができれば、大方の問題が解決できると思うので、子どもやぬんよりそっちを先に取り組むべきである。	1	②
29	保育士・教員の賃金を底上げして子育てに携わる人の量も質も高めるべきだと思う。	1	②
30	保育士の妊娠緩和、育児時間を安心して取れるよう京都市で予算をつけてほしい。	1	②

No.	御意見の内容	件数	対応分類
31	保育を希望する家庭が必要に応じて質の高い保育を利用できるよう、処遇を改善してほしい。戦後から変わっていない最低基準を見直し、豊かに保育できる環境づくりを市の責任で行ってほしい。	1	②
32	どこの園でも保育士を募集しても集まらないという話を聞く。給与を上げたり。休みがとれやすい職場にするために人を増やすなど、市が補助しないと働き手が減り、保育の質も下がる。	1	②
33	全ての子どもに等しく、質の高い保育を保障していただきたい。そのために職員の給料、休暇の保証をお願いしたい。	1	②
34	保育士にかかる責任の重さと、仕事内容のハードさから考えると、まだまだ賃金の安さが目立つ。保育士になりやすいように賃金を上げてもらいたい。	1	②
35	幼児教育・保育の無償化も大切だが、保育士や幼稚園教諭の給料を増やしていただきたい。	1	②
36	保育の施設拡大や定員を増やすことよりも、保育・教育の場で働く人たちの処遇改善を行っていただきたい。	1	②
37	小規模保育で働く保育士の処遇を認可保育所レベルにしてほしい。	1	④
38	保育士の処遇改善を認可保育園と同等にしてほしい。加えて、連携施設の確保を進めてほしい。	1	④
39	保育士のキャリアを生かした方々が活躍できる機会を増やしてほしい。	1	②
40	保育士の数を増やしてほしい。	1	②
41	保育士確保に力を入れてほしい。	1	②
42	子育て支援事業も、保育士が確保できなければ行えない。	1	②
43	保育施設を増設しても、保育士として働く教職員が少ないのではないかと疑問に思った。	1	②
44	保育園や幼稚園を増築するのはいいが、そもそも保育士などが足りていない。合格基準や労働の見直しをするべきだと考える。	1	②
45	保育の担い手の確保をするとともに、その数を維持するよう取り組むべき。	1	②
46	子育てをする人も大変だが、幼稚園で働く人の減少も問題となっているので、負担の軽減などを考える必要があると感じた。	1	②
47	保育士の数が足りないという問題があるが、免許を持っているけど、結婚して辞めたという人が多いと思うから、子どもがある程度成長した人がまた働こうと思える職場をつくると増えるのではないだろうか。	1	②
48	保育現場の人手不足が深刻である。資格を持つ人は多いのだから、就職先として保育施設を選ぶ気になるような給与や労働時間などの条件整備が必要である。	1	②
49	より丁寧に関わりたい子どもや配慮が必要な子ども、手をかけなければならない子どもが多くいるが、納得する保育をするには手が足りない、納得できる保育がしたい。	1	②
50	保育の専門学校を出ても保育士になる人が減っている。質の良い保育を守り続けるためには、人材育成と、保育士の待遇改善が絶対に必要だと思う。保育の仕事は本当にやりがいのある仕事である。未来ある子ども達が自主性を持って生きていけるように、京都市は1つでも「このことは取り組む」と改革していただきたい。	1	②
51	保育の担い手確保の総合的な取組の推進とは、具体的にどうするのか。保育現場ではかなり人手が足りていない。	1	②
52	保育士の確保のために、保育士の環境改善が必要。	2	②
53	子どもたちを支援する人材の育成や確保についての記述があると嬉しい。	1	②
54	多文化の方が保育園に増え、対応できるだけの余裕がない。事務職員増を望む。	1	④
55	市営保育所の今後の役割について、「市営保育所の今後のあり方に関する基本方針（改訂版）」を廃止するとされているが、すでに民間移管の方向性が示された保育所の民間移管は引き継がれるのか。	1	①
56	すでに民間移管の方向性が示された保育所の民間移管がどうなるのか不安なので、今後の方向性をきっちりと示してほしい。	1	①
57	民間移管について、具体的な計画があるのであれば、きっちりと保育所名を書くべきではないか。書かれていなければ保護者は不安になる。	1	①
58	市営保育所の民間移管について批判する人も多いが、民間保育園にも市営以上に質の高い保育サービスを提供しているところはあるのであり、民営化自体が悪いわけではないと思う。	1	②
59	市営保育所は公として果たすべき役割があり、2005年2月の社会福祉審議会により、今後民間に移ってゆく。	1	②
60	市営と民営で役割を分担することにより、市営にしかできないこと、民営にしかできないことを互いに上手く補い合えて万全であると思う。	1	②

No.	御意見の内容	件数	対応分類
61	市営保育所の位置づけを明確にしてほしい。民間移管には反対である。	1	③
62	市営保育所の民間移管が進んでいるが簡単に公立を減らすことが今後進まないようお願いする。	1	③
63	これ以上市営保育所を民間移管することが京都市全体の保育の質の向上につながるのかを熟慮してほしい。	1	③
64	市営保育所にしかできないものもあるのでこれ以上市営保育所を減らさないでほしい。	1	③
65	公営保育所を民間に移管する方針は間違っている。	1	③
66	京都は公立保育所の数が極端に少ないので、これ以上民間委託にしないでほしい。	1	③
67	市営保育所について、障害のある子や課題を抱えた家庭のこの受け皿になっているにもかかわらず、民間移管を進めていくのは妥当でないとと思う。	1	③
68	親にも子どもにも手間がかかる虐待のケースは民間園で引き受けるのは大変だと思う。他機関との連携や日常的に必要なので、各区に1箇所は公立保育園を残すべきだと思う。	1	③
69	全行政区に複数の市営保育所を設置し、障害児保育や困難な子どもの受入れ等を進めてほしい。	1	③
70	子育て支援の役割を担う行政直営の保育所がまだまだ必要であり、子育てに悩んだり不安を抱える保護者が増える現状がある中で、市営保育所の民間移管をどのように考えるか。	1	③
71	先駆的な保育実践や非常時への対応は日々の保育所運営のうえに成り立つものだと思う。これ以上民間移管をすれば、そういった対応はできなくなる。	1	③
72	今までの民間移管を検証してほしい。	1	③
73	これまでの移管や引継保育の現状、実態を市民に向けて知らせること。「公立の保育園」が引きつがれているのかも含めて示すこと。	1	③
74	「公」としてのセーフティーネットとしての役割はまだ必要であると思う。これ以上の民間移管には絶対反対である。	1	③
75	公立保育所を増やすこと。	1	③
76	市営保育所の民営化については、「不断の検証」がいつでもどこでなされ、情報公開や議論がどこで行われているのか全く不透明であり、あまりにもずさん。	1	③
77	市営保育所の民間移管は誰にどのようなメリット・デメリットがあるのか。	1	④
78	地域子育て支援拠点事業を市営保育所で今後も継続できるようにしてほしい。	2	②
79	保育所は、公立と私立でサービスの質はどのように変わるのか。勤めているスタッフが違うことで、特色も変わるはず。	1	④
80	地域への子育て支援は市営保育所が重要な役割を担っており、アウトリーチという意味でも保育所を通じた支援の充実が必要。	1	④
81	十分な経験がないまま所外に出て保育士としてと言われても自信がない。希望者を配置しないとやりがいにもつながりにくい。	1	④
82	地域子育て支援拠点事業を今までどおり市営保育所が担当してほしい。	1	④
83	拠点担当者は市営保育所から減らさないでほしい。	1	④
84	認可外保育所も無償化の対象になっているが、事故等が起きないように、保育の質の向上をお願いしたい。	1	①
85	土日に幼児教育のイベントがあると良い。	1	②
86	保育にもっと予算をつけて、人を増やして保育の質をより良くしてほしい。	1	②
87	幼児から小学生への成長は、人格を形成するのに大切な時期であるので、その支援が大切である。	1	②
88	幼児教育・保育の無償化によって幼稚園等の質はどうなるのか。	1	②
89	幼児期は、子どもの人格形成の基礎を培う重要な期間である。乳幼児期・保育の体制をこのまま改善し、続けていけば良いと思う。	1	②
90	小学校に入る前の年代の子たちがちゃんとした環境に入ることは絶対に必要だと思う。	1	②
91	保育の担い手の確保や待機児童ゼロというのは良い取組であるが、近年保育士による虐待などが増加しているので、質の向上が必要だと思う。	1	②
92	家族を持つ方々が増えれば自然にまちの人口も増加し将来活性化すると思う。幼稚園だけではなく保育園もよりよいものにする事でさらに暮らしやすくなると思う。	1	②
93	保育の充実や支援は必要なことだと思うので優先的に取り組むことが大切だと感じた。	1	②

No.	御意見の内容	件数	対応分類
94	私立、公立といった違いは関係なく、情報を共有し、協力して支援していけば良いと思う。	1	②
95	全国に誇れる世界に誇れるような京都の保育基準を作っていただきたい。	1	②
96	子どもを預かる保育士等の負担が気になる。数を受け入れるのも大切だが、質も大切だと思う。	1	②
97	待機児童ゼロの危険性に目を向けた取組が必要である。乳幼児や子どもに関わった経験が全くない人が職員として配置されることで、子どもの命にかかわる恐れがある。ボランティアやパートも研修や実習を義務化すべき。	1	④
98	妊娠期から小学校に入学するまで保育士を個別担当制にしてほしい。	1	④
99	園が様々な運営スタイルになるように感じられて不安。地域における子育て方法がバラバラであると情報共有が不安。	1	④
100	子どもたちが平等に保育を受けられて、幸せに暮らせる世の中を希望する。子どもを詰め込むだけでは何の解決にもなっていない。	1	④
101	詰め込んだ保育園、幼稚園、施設が多すぎる。子どものゆっくりしたペースも保障してほしい。	1	②
102	施設の広さは変わらなくても、定員は増えている。以前は広々と使えていたが、今では狭く感じる。	1	②
103	子どもを詰め込むんじゃなく、施設・人員を増やして安全でゆとりのある保育を。	1	②
104	保育施設を利用しやすくする支援は子育ての負担が減るので、良い結果となると思う。	1	②
105	保育所待機児童ゼロの達成は本当にすごいと思う。	1	②
106	待機児童数ゼロのための計画として緊密に考えられていて素晴らしいと思った。	1	②
107	保育所待機児童はゼロ。	1	②
108	待機児童とかの問題をよく耳にするので、そこが気になる。	1	②
109	待機児童の問題はいつまでもなくならないので、対策をしてほしい。これは京都だけの問題ではないと思う。	1	②
110	保育所待機児童ゼロの継続と書いているが、継続するためには、何をしなければいけないか具体例を知りたい。	1	②
111	待機児童問題について、施設を増やせばいいのではないと考える。保育士の「質」の向上が求められる。そのため、保育の現場の状況をしっかりと把握してほしい。	1	②
112	保育所待機児童ゼロの継続は意味があり、ぜひ継続を目指してほしいと思う。	1	②
113	6年連続待機児童なしはすごいと思う。このまま保育の質も含めて向上してほしい。	1	②
114	最近では待機児童問題も増えてきているのでしっかり対策していくべきだと思う。	1	②
115	保育園の数が増え、待機児童ゼロにならないと、働くお母さんは安心して子どもを産めないと思う。	1	②
116	保育所等も大変だと思うが、待機児童ゼロは働きたい人が働け、その他の生活の質も上がるので、より住みやすい地域になるためには重要なことではないか。	1	②
117	待機児童について国としても対策を色々取ってくれているようだが、まだ変化がよく感じられない。	1	②
118	地域によって待機児童が多いところ少ないところが極力ないようにしてほしい。	1	②
119	幼児教育・保育は、親にとって最も手がかかる時期なので、質・量ともに余裕のある体制を整えてほしい。	1	②
120	待機児童はどこかしの園に入れさえすればいいということではないのではないだろうか。	1	④
121	潜在的な待機児童、年度途中待機児童を解消してほしい。	2	②
122	待機児童ゼロを謳っているが、潜在的待機児童が多いように思う。	1	②
123	「潜在的待機児童」の解消、また、年度途中の待機児童解消を目指してほしい。	1	②
124	潜在的待機児童の解消を目指してほしい。	6	②
125	待機児童などが問題になっている中で、「質」と「量」を本当に十分にできているのか。	1	②
126	6年連続、待機児童ゼロと書いているが、希望する全員が、保育園を利用できるようにしてほしい。	1	④

No.	御意見の内容	件数	対応分類
127	「6年間連続保育所待機児童ゼロ」の基準があまりにも市の勝手な基準によるものではないか。「第1希望の保育所に入れたか」基準にするべき。	1	④
128	保育の必要量が0となっている地域でも、実際には待機児は多いようである。数字的には足りていても、兄弟が別々の保育園になるなどすれば、生活は大変である。年度の途中から入りたい場合も、なかなか大変である。計画の数字だけを見て、生活を見ないということのないようお願いしたい。	1	④
129	希望の保育園などに入園できると良い。	1	②
130	子ども全員が保育所に入れる状況にあるのかが不安。 預かり保育の利用者が増えているのに確保方策がないのが気になる。	1	②
131	共働きの家庭だけでなく、主婦（主夫）がいる家庭の視点でも考えてほしい。近くの公立幼稚園・保育園に通わせるのではなく、親の職場の近くも可能などにしたらいと思った。	1	②
132	幼児教育と保育を併記し、その「充実と支援の確保」を謳っているのだから、単に待機児童がないということから更に一步踏み出して、保育所等を利用する家庭にとって選択が担保されることがより望ましい。	1	②
133	保育園の入園の可否がもう少しはやく分かるようにしてほしい。	1	④
134	兄弟が一緒の保育園に入れるようにしてほしい。	2	④
135	保育園に通うための条件が色々とややこしく、厳しいので、もっと保護者に優しい条件になればと思った。	1	④
136	給食を無償化してほしい。	4	③
137	副食費も無償にしてほしい。	2	③
138	副食費の家庭負担について、京都市も他の自治体にならって補助してもらいたい。	3	③
139	幼児教育から義務教育まで平等に教育を受ける権利を保障するために給食費等その他費用についても無償化すべきだと思う。	1	③
140	副食費も無償化してほしい。無償化が無理なら、以前と同じように市が徴収すべき。	1	③
141	幼児教育・保育の無償化について、副食費も、無償化にしてほしい。食べる事＝食育は保育に含まれる。	1	③
142	幼児教育・保育の無償化は円滑に実施してほしい。	1	②
143	育児不安の解消や母子家庭であっても生活していくために必要。幼児教育・保育の無償化も京都市でできるなら行ってほしい。	1	②
144	保育の無償化を進めてほしい。	1	②
145	無償化という名もとの有料が発生することから、全額無償化にしてほしい。	1	④
146	0～2歳児の保育料も無償にしてほしい。	1	④
147	高所得層に対する保育無償化は不要だと思う。	1	④
148	幼稚園や保育園に任せるのではなく、市が中心となり無償化の事務手続き一本化を行う方が、円滑に実施ができるのではないかと疑問に思った。	2	④
149	幼児教育・保育の無償化においてどこから財源を確保するのか疑問に思った。	1	④
150	幼保無償化は余裕ある方への政策。本来なら0～3歳児を無償化すべき。	1	④
151	無償化についても、どの地域の子どもも、等しく恩恵が受けられるようにしてほしい。	1	④
152	児童福祉領域に携わる仕事についている場合は、保育士に限定せず、保育料及び保育の延長料金を無償化してほしい。	1	④
153	夜に働く親が少なからずいると思うので夜に子どもを預けることが可能な施設が必要となるのではないかと疑問に思った。	1	①
154	子育ての支援と親の働き方を改善することで家庭の支えになるため、ワークライフバランスを守る環境づくりを行うことが望ましい。柔軟な策があると良い。	1	①
155	一時預かり保育を充実してほしい。京都市運営の一時預かり保育は、秋以降になると登録すらできない。 多胎児育児で一時預かりを利用する場合、同時に預かってほしい。	1	②
156	小学校に上がるまでの幼児教育の段階において、子ども一人一人によって環境は異なるため、色んなニーズに合わせた保育ができるのが一番良いのではないかと疑問に思った。そのためにもより一層細やかな支援に取りくんでいくことが良いと思う。	1	②
157	施設や保護者の事務負担を減らしつつ、各地域の子どもの数に必要な保育施設を創設したり延長保育や一時預かりが可能な施設を均等に設置できればと思う。	1	②

No.	御意見の内容	件数	対応分類
158	親が子どものことを一人で抱えずに誰かに預けることが簡単になるのはとても良いことだと思う。	1	②
159	幼稚園、保育園（所）、認定こども園等における障害のある子どもの受入の推進を、環境整備の推進とし、より受入れを促進するための人的・物的環境の整備が必要ではないか。	1	②
160	子どもの有無によって夫婦の間での男女間の賃金格差が生まれてしまっていると思うので、女性の柔軟な働き方ができるように保育所が変化する必要がある。	1	②
161	京都市は比較的子どもの数は多い割には幼稚園や保育園などが少ない気がする。そのため、一時預かり事業などを増やすことはとても素晴らしいと思う。	1	②
162	時間外保育事業は保育士が少ない中でできるのか少し不安である。	1	②
163	幼稚園の預かり保育をもっと充実させ、利用しやすいようにするべきだと思う。	1	④
164	一時預かり事業には園舎の修繕費用がとてかかるのでやめたい。	1	④
165	延長保育料が高く、職場でもなかなか残業がしづらく肩身の狭い思いをしている同僚がいる。費用面の見直しも必要。障害のある子どもたちの行き場所として、看護師が常駐するところの確保。	1	④
166	病児保育事業の設定はよい。	1	②
167	病児保育をもっと拡張してほしい。実施箇所、受入人数ともに不足している。	1	②
168	病児保育の枠を増やしてもらいたい。	1	②
169	子どもは風邪を引きやすく、共働き家庭では仕事が休めない時に預けることができる病児保育をもっと増やすべきだと思う。	1	②
170	病児保育の充実。	1	②
171	子どもが熱を出したとき、仕事で迎えに行けない場合の支援がほしい。病児保育を利用するまでのサポートがほしい。	1	④
172	病児保育を18時半まで実施してほしい。18時まででは仕事があり、お迎えに間に合わない。	1	④
173	保育園に看護師を配置し、病児保育にかかる金銭的負担を下げるような取組をしてほしい。	1	④
174	幼稚園・保育園・認定こども園における障害のある子どもの受入れを推進してほしい。	1	②
175	障害のある子どもの入所への対応について、公・民で加配を統一したにも関わらず公への入所が多い。民の受入体制を整えていく必要がある。	1	②
176	幼稚園において、発達の凸凹や偏りも個性として捉え、全ての子ども達が安心して通える環境が整うよう、支援を充実させてほしい。	1	②
177	保育に無関心であったため、要保育児童に対して受入枠があることを初めて知った。「保育園落ちた」が一時トレンドになっていたが、京都市は6年連続待機児童ゼロを達成している。	1	②
178	障害のある子どもは、幼稚園・保育園等で受け入れてもらえるのか。専門性を持った職員が働いているのか。	1	②
179	医療的ケア児への一層の支援を行うため、看護師の配置や保育士等関係職員の資質向上研修の強化、保育体制の充実強化についても追記願いたい。	1	②
180	医療的ケア児の保育支援を推進してほしい。	1	②
181	医療的ケア児の保育支援事業に対する具体的な方策がない。	1	②
182	医療的ケア児保育支援事業で子どもだけでなく親への支援を詳しく知りたいと思った。	1	④
183	外国ルーツの家庭への保育園・幼稚園に係る情報提供、日本語以外の言語を理解できる保育士や幼稚園の先生の育成、小学校入学前のオリエンテーションが必要だと感じる。	1	①
184	障害・医療的ケア、アレルギーに加え、多様な文化的背景・宗教への対応も必要と思う。	1	①
185	外国籍市民については今後更なる増加が予想されるため、窓口だけでなく具体的な支援策が望まれる。	1	①
186	保育園の料金を安くしてほしい。	1	②
187	乳児の保育料が高い。働き出すと高くなる。	1	②
188	0～2歳の保育料が高い。所得の高い方（900万円台以上の方）も一律であることが納得できない。	1	④
189	幼稚園及び保育園等に対する多子世帯やひとり親世帯に対する利用者負担の軽減というのがどれほどのものなのかというのを具体的に知りたい。	1	④

No.	御意見の内容	件数	対応分類
190	認定保育園を増やしてほしい。	1	②
191	保育園を増やすだけでなく、小規模保育園の卒園後、次の園へ入園できる体制にしてほしい。	1	②
192	二年制保育からの持続等も大切。	1	②
193	職員、保育士の交流及び研修の充実とあるが具体的にどのようなものなのかが分からない。	1	④
194	保育士のキャリアアップ研修を受講することでどのような効果が見込めるのか。	1	④
195	小学校に入学したばかりの1年生は、まだ小学校の生活に慣れていないため、集団行動がとれなかったり、授業中に座ってられない、先生の話を受けないといった状態（小1プロブレム）が起こるので、小学校と保育園、幼稚園の交流は大切だと思う。	1	②
196	幼児教育・保育から小学校教育への移行がスムーズになるように取り組むのは大切なことだと思う。	1	②
197	就学前教育というのは、学力に大きく影響するので、乳幼児期における学びと育ちを小学校に円滑につないでいくというのはとても重要なことだと思う。	1	②
198	乳幼児期の教育・保育は生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なもの。この段階の学び・育ちが小学校に接続する。その後、中学・高校と連続し「知識技能の習得」「思考・判断・表現力の育成」「学ぶ力、人間性を育む」ことで「知・徳・体」の調和のとれた健やかな成長につながる。	1	②
199	こどもみらい館における共同機構とは、どのようなことをされているのか。	2	①
200	こどもみらい館は、使い勝手が良く、見守りも丁寧でとてもお世話になっている。このような施設がもっと随所にあれば良い。	1	②
201	こどもみらい館などで子育ての支援をすべき。	1	②
202	こどもみらい館があるが、非常に混んでいる。	1	④
203	保育園・幼稚園などその子にあった保育・教育が受けられるよう、子どもはぐくみ室に保育・教育の専門の知識を持ったベテランの職員を配置してほしい。	1	②
204	幼稚園無償化	1	②
205	幼児教育	1	②
206	安心して妊娠、出産できる環境があると、少子化の改善もできるし、やはり安心できるというのが大きな利点である。保育の確保ができるのであれば、働くことに集中できて、子育てもできるので子育てと働くことの両立がうまくいくようになることを願う。	1	②
207	子どもを預けるところが少ない中、この取組が実施されると、経済的に困っている若者でも生活がしやすいと感じた。	1	②
208	子どもの権利を最優先に考え、一人一人の子どもたちが平等に保育・教育を受けられるようにしてほしい。そして大人になった時、京都で暮らしたいと思えるように行政が責任を持って子どもたちを育ててほしい。	1	②
209	子どもの学びと育ちをどのように情報伝達しているのか。	1	②
210	子育て安心プラン	1	④

(4) 子どもの教育環境（計52件）

No.	御意見の内容	件数	対応分類
1	子どもや若者を成長させるには、学校の環境も大事。学校がきれいだと、生徒の思いやりの心が育まれると思う。	1	②
2	子どもの教育、子どもたちが夢と志を持って可能性に挑戦するために必要な力を育む。	1	②
3	教育事業が多く学校との連携も考えられるため幅広い展開が見込める。教育機関と連携して推し進めてほしい。	1	②
4	詰め込みの教育を見直し、どの子どもも楽しく勉強できるようにしてほしい。	1	④
5	学校に行くのを嫌がる子をどうしたら良いか困っている。	1	②
6	子どものいじめの問題が深刻だと考えるため、いじめに対する策を打つべきだと思う。	1	②
7	いじめ、不登校の未然防止と早期発見のための取組内容を具体的に知りたい。	1	②
8	いじめ・不登校に、社会や我々はどのように向き合えばいいか。	1	②
9	いじめ問題はいつも事件が起こってからしか対応できていない。先生が担っている日々の負担の重さなども含めて現場と協力しながら考えていく必要があると思う。	1	②
10	いじめや不登校の児童がいる現状で、母子揃ってケアすることなどできるのか。	1	②
11	私は学童期、思春期の心身の健康な発育が一番大事だと思う。小・中学生に多く見られる「イジメ」問題というのが私には一番注視すべきだと感じた。その年齢の子どもたちにとって「学校」というものは生活の一部となっているため、その場所を過ごしやすくすることが心身の発育に必要不可欠と感じた。	1	②
12	育成学級籍の児童・生徒が不登校になった時の公的な受け皿を作ってほしい。	1	④
13	いじめに対してしっかりとアプローチしている学校もあれば、そうでない学校もあるので、どのようにそれぞれアプローチをしているのかを学校同士が共有できる機会を充実させるべき。	1	④
14	塾に通わなければならないようなカリキュラムの見直しをしてほしい。詰め込みによって、勉強についていけなくなり、不登校になる子がいると思う。	1	④
15	「いじめ・不登校の未然防止と早期発見・解決に向けた取組の推進」について、更に具体的な対策を説明してほしい。いじめについても力を入れてほしい。	1	④
16	小学校での授業時間の確保が大変なので、先生方に行事などの要望を伝えても改善されない。PTAで主催した講演会を子どもに聞かせたいと伝えたが、学校は学校でやっていると言われ、残念に思った。	1	④
17	これからの時代に求められる学校の先生とは。どのような教育が社会に求められるのだろう。	1	④
18	生徒に何かあれば車ですぐに駆け付けている教職員に対し、車の使用手当等は支払わないにも関わらず、駐車料金だけ一方的に要求するのは不当。	1	④
19	生きていくうえでの基本として、食育・健康教育・体力向上はとても大切な取組だと思う。	1	②
20	全市立小・中・高等学校における非行防止教室及び薬物乱用防止教室の実施について、タバコの乱用防止教育もお願いする。生涯にわたって喫煙しない人材を育ててほしい。	1	②
21	子どもの規範意識を育む取組の推進とあるが、市内の中学校で薬物問題があったことを踏まえると、一層の強化をお願いしたい。	1	②
22	外国籍や海外にルーツを持つ若者が急激に増えている中、相談窓口の整備だけではなく、日本語教育の機会整備や支援をコーディネートする機能を強化する施策が必要と思われる。	1	②
23	多文化共生に向けた取組の推進（学校・地域における日本語・外国語指導等）の追記を希望する。多文化共生の取組は日本語母語児童にも必要。また外国系の子への母語指導も重要。	1	②
24	在留外国人の子どもに学習支援を試してみたらいい。学習支援の運営に校長のOBなどをいれてみてほしい。	1	②
25	外国人のお客さんが多いので英語の教育に力を入れることによって、海外の人との交流もできるようになり、若者が将来に働く不安を少しでも取り除くことが出来る取組が必要。	1	①
26	京都府教育委員会が策定した食物アレルギーの手引き書が活用されていない。京都市で作成されたものは当事者の意見が反映されておらず、京都府が作った手引き書8章（児童生徒への相互理解のための教材例）と同様のページもない。京都市の教職員の間でも当該資料を活用したいとの声があるが配布もされていない。京都府・京都市にかかわらず、良いものは共有して使用してほしい。	2	④
27	地域の小学校の老朽化が心配。	1	②

No.	御意見の内容	件数	対応分類
28	「持続可能で安全安心な教育環境の整備」を進めるためには、自然を積極的に取り入れることが必要。学校の中に植物や木で緑を増やしたり、木材を使って、木を身近に感じられるようにすることで、自然への興味が生まれ、小学校での山登りや遠足で自然と触れ合う前の土台になる。また、学校を整備するときに使う木材を地域の木材にすれば、地産地消になり、地域の産業もよりよくなるのではないかと。	1	④
29	教育は平等に受ける権利がある。高校、大学の奨学金制度をもっと充実してほしい。	1	④
30	少子化の状況が改善されればいろいろな問題も解決すると思うので、就学援助費の支給額などを上げる必要があると思う。	1	④
31	安易な小中一貫校の設置には反対する。小規模の良さを発揮できる小学校を維持してほしい。	1	④
32	小中一貫校を推進していくのは悪いことではないと思う。学校統合において新しい施設を建てたり改装しなければならぬが、費用面において小中一貫を推進していくことはプラスなのか資料があればと思った。	1	④
33	インクルーシブ教育の理念に基づく一人一人のニーズに応えた教育の推進は近代的で新しいと思った。	1	②
34	子どもの教育環境や居場所づくりを行うことで子どもはとてもうれしいと思う。	1	②
35	京都に生まれたからこそその教育をすべきだと思う。	1	②
36	「知・徳・体」という独特な見解ではなく、国際的にも確立している子どもの権利を中心に置いた方策にすべきである。	1	④
37	義務教育を高校まで伸ばすとともに、授業料を無償化することで、社会で生きていくための力を身につけ、子どもたちが自分自身の持っている能力を伸ばすことで自立心を身につけ、大学では自分で考え解決する力を発揮することができる。	1	④
38	少人数教育を進めるべき。	1	②
39	学校のパンフレットができるが、これは楽しい。	1	④
40	京都市は大学進学率が高く、学力的に大学進学が難しい人も進学していく傾向が強い。1人1人の希望に沿った進路指導や学力の強化、専門学科教育を京都全体の企業の協力を得ながら進めてほしい。	1	②
41	社会的・職業的自立に向けた生き方探究教育は、とても大事だと思うし、これは学校を卒業してからも必要になる。	1	②
42	中学校も弁当ではなく、給食にしてほしい。	2	④
43	中学校の完全給食を実施してほしい。	2	④
44	子どもたちの成長のために、中学校給食にしてほしい。	1	④
45	子どもたち、働く親のためにも中学校給食実現も目標にあげてほしい。	2	④
46	中学校での温かい自校給食を実現させて欲しい。 せめて校区内の近隣小学校からの輸送などでも良いので対応してほしい。	1	④
47	中学校での自校方式の給食を実現してほしい。	1	④
48	子どもの教育環境についての意見を多く集めるべき。	1	④

(5) 放課後の子どもたちの居場所づくり(計108件)

No.	御意見の内容	件数	対応分類
1	共働き家庭が増加している中、学童クラブ事業等の充実はとても良い取組である。	3	②
2	学童クラブ事業や放課後の居場所の確保はとても大事で、特に親が家庭にいる時間が短い家庭には欠かせないものである。ひとり親の負担を軽減することにもつながる。	1	②
3	最近、共働きが増えてきているので、児童館などを充実することはいいことだと思う。	1	②
4	放課後の子どもたちの居場所を作ることによって、子ども同士の人間関係も良くなると思う。	1	②
5	共働き家庭の増加により、小学生の学び・遊びを軸とした放課後等の居場所提供のニーズ増大が見込まれる。	1	②
6	近年「鍵っ子」と呼ばれる子が増えてきていると思うので、学童クラブ事業の活動に関しては良いと思った。	1	②
7	学童保育などのアフタースクールサービスがあるのはとても良いことだと思う。	1	②
8	未設置学区に学童を作ってほしい。	39	②
9	全小学校区で学童クラブ機能を確保してほしい。	1	②
10	またそれに向けた職員配置基準の引き上げ、職員の処遇向上を進めてほしい。	1	②
11	全学区で学童クラブを実施してほしい。また、職員の数も増やしてほしい。	1	②
12	子どもたちが安心して放課後を過ごせるような居場所としての学童を作ってほしい。各学区に1つは必要だと思う。	1	②
13	小学校と隣接して学童を作ってほしい。	1	②
14	学童クラブを校内で実施することは、子どもたちにとっても非常に安全であると考えている。	1	②
15	学童のニーズは今後も増えると思われているが、実施場所の確保は校区内であることや、暗い時間は危険なので大人が見守っている必要がある。	1	②
16	自転車がないため、徒歩圏内に児童館があると良い。	1	④
17	学校の中や近くに学童があると良い。	1	④
18	学童クラブの実施場所について、空き教室の利用だけでなく、落ち着いた遊びのできる空間を確保してほしい。	3	②
19	児童館に学童クラブが設置されているが、小学校区から遠い場所も多い。保護者や地域住民が運営主体となる学童に対する助成金があれば、親や地域住民のコミュニティづくり、空き家対策、地域の活性化につながる。	1	②
20	学区に公立の学童保育所がないため、遠い児童館まで通っているにも関わらず、待機児童ゼロというのは実情を表していない。	1	④
21	保育園は19時まで開いていたが、学童は18時半までのため、仕事の都合上お迎えが間に合わない。夏休みの学童は助かっている。	1	②
22	学童保育を充実してほしい(時間の延長、受入可能人数の増加)。	1	②
23	親が共働きの場合など、小学生の放課後などの居場所を充実させることは、とても重要だと思う。土日などの保障もしてあげたらよいのではないか。	1	②
24	学童の施設を充実させてほしい。	1	②
25	親が本当に安心して預けられる学童クラブを1日でも早く確保してほしい。	1	②
26	人数が多い学区は分散できるような学童クラブ事業を実施してほしい。	1	②
27	学童保育は子どもたちで溢れていて増設が必要。	1	②
28	狭いスペースに押し込まれた学童クラブや児童館は、あまりに子どもの発達のための環境として不適切ではないか。	1	②
29	放課後の子どもたちの居場所づくりには特に力を入れてほしい。今、外に出なくても楽しく過ごせる環境があるので、学童クラブ事業の実施場所確保をして協調性などを育てる環境を作してほしい。	1	②
30	放課後の子どもたちの居場所づくりはとても重要だと思う。土地もあまりないため、子どもたちに安全な場所をぜひとも提供してほしい。	1	②
31	学童や居場所づくり事業により多く予算をつけ、児童が遊んだり勉強したり豊かな経験ができる場所があれば良いと思う。	1	②
32	保育園と比べて学童の預り時間が短い。小学校へ上がる際、仕事の壁になる。	1	④

No.	御意見の内容	件数	対応分類
32	学童がいっぱいであり、子どものストレスになる。	1	④
33	学童クラブなどの利用者増によって無理な増築や、職員の方々の負担が増えているのでは。	1	④
34	学童クラブの無償化を希望する。	1	④
35	希望する学童すべて入所できるようなクラス数を確保してほしい。	4	②
36	本当に子どもを児童館に入れられないから仕事にいけないという親が増えてきていると聞くため、自分が親になり将来のことを考えると、まなび教室などの場を増やし、安心して仕事をしたい。	1	②
37	放課後の時間を有効活用し、教育プログラムを立てるのもよいと思った。	1	②
38	放課後まなび教室はどのようにして希望児童全員の登録の維持をしていくつもりか。	1	④
39	学童クラブ事業や放課後まなび教室等が連動した小学生の放課後等の居場所の充実について、学童クラブの利用希望者の全ての受入れを行っていることは大変嬉しく思う。	1	②
40	学外で運営している学童クラブと、学内で運営している放課後まなび教室の連携と言うが、どのような事業の可能性を想定しているのか。	1	④
41	両親が仕事や病気で子どもの面倒を見ることができないときの民間サービスは高いので、公的な制度があればよい。すでに存在していても、周知ができていないと思う。	1	②
42	ファミサポの支出が負担である。母子家庭のため困ることがある。	1	④
43	ファミサポは慢性的に提供会員が不足しているため、利用者からの利用料だけではなく、行政からも賃金のサポートをした方がより多くの提供会員を確保できる。	1	④
44	ファミサポ登録を登録会でなく、各支部事業所で随時行えるようにしてほしい。	1	④
45	ファミリーサポートの充実をお願いしたい。実際、地域の一部のお母さんには好評でもある一方、提供者が少なくお願いできない、窓口が不親切などのマイナス意見も多々ある。このサービスは需要も高く、必要なサービスだと思う。	1	④
46	学童保育の職員の処遇改善を進めてほしい。	3	④
47	学童保育の指導員の地位と給与を上げてほしい。	1	④
48	学童などについて待機児童ゼロ、希望者全員登録の維持も大切なことであると思うが、受入を増やせばいいだけではない。そこで働く人の声にもっと耳を傾けていただきたい。	1	④
49	学童保育の職員配置基準を引き上げてほしい。	4	④
50	学童クラブ事業をボランティアに頼ることがそもそもケアを軽視しているのではないか。正規職員を増やすための手当を創出するなどすべきでは。	1	④
51	まなび教室や学童クラブの運営に関わる人たちはボランティアなのか、市から賃金が発生するのか気になる。	1	②
52	学童クラブや児童館には、どのような人が働いているのか。児童館における学生ボランティアの確保とあるが、特別な免許や資格、専門性はなくとも問題ないのか。	1	④
53	放課後の子どもたちの居場所づくりについて、児童館等を通じて地域の行事、清掃活動などのまちづくりに貢献したり、歴史上知っておくべき施設への見学を学びの一環として取り入れると更に良くなると感じた。	1	②
54	学童クラブやまなび教室において交友関係も築くことができ、子どもにとっては「所属する」「居場所がある」という気持ちが安心や自信にも繋がっていくと考える。	1	②
55	学童のおやつを食べることを強要しないでほしい。16時頃におやつを食べるため、夕食が食べられなくなる。おやつの有無を選択できるようにしてほしい。	1	④
56	少子化なのに児童館などが足りていないのが不思議だ。	1	④
57	学童クラブの6年生までの受入で、児童の自主性が失われ、保護者もお任せになっているように感じる。	1	④
58	学童クラブや放課後まなび教室でする活動は何があるのか。	1	④

(6) 思春期保健(計17件)

No.	御意見の内容	件数	対応分類
1	中・高、大での健康や性に関する教育を徹底してほしい。その時点での本人たちにはその知識の大切さが十分には分かっていないことが多く、保健の授業も適当に終わったりする。	1	②
2	秋田県が実施しているような性教育を参考に、正しい性教育が行える模範都市となるべき。	1	④
3	子ども・若者へ避妊を教えるのは重要なことだが、一般的な健康な男女でも1度あたりの機会に20%程度の確率でしか妊娠しないことや、高齢出産のリスクをもっと教えるべき。	1	④
4	就学前から高校までの間において、年齢に応じた性教育の充実を図ってほしい。	1	④
5	性教育の取組も強化すべき。	1	④
6	児童館における中高生と赤ちゃんの交流事業は、身近に触れあえる赤ちゃんのいない中高生にとって近い将来の親になった自分の姿をイメージしやすい体験となると思う。	1	②
7	思春期保健、私も他者も大切にする尊厳教育を。ライフデザインは多様性の観点を入れるべき。	1	②
8	思春期・妊娠・出産のことについて学ぶだけで社会の一員としての「自己肯定感」を育むことになるとは思えない。多様な人との出会いや交流から養われるのではないか。	1	②
9	思春期の子どもたちにはまわりの目がもっと必要だと思う。声かけもより細やかにすべき。	1	④
10	「成人式の歯科検健診」の実施を提案する。現在の若者は、むし歯が少なく、歯科での治療歴がない等の理由から、有事の際の歯牙鑑定による身元判明が困難となる可能性がある。成人式出席者の歯牙状態を口腔内スキャナ等を用いて一律にデータ化することで、事件や災害時の身元判明に役立てることができると考える。	1	④
11	「大学生や青年期の若者等を対象とした妊娠・出産に関する正しい知識の普及啓発」を行うのであれば、大学生に対する歯科健診事業を行ってほしい。国は生涯を通じての歯科健診を目標に掲げている。また、健診を行うことで知識の普及啓発にも繋がる。	1	④
12	思春期教育や妊娠・出産に関する正しい知識の普及啓発に助産師の活用を。	1	④
13	乳幼児と中高生世代等との触れ合い体験に助産師も協力可能。	1	④
14	主な取組が思春期保健教育の範囲のみとなっていることは残念である。例えば、情報化社会を謳っているのであればメディアリテラシー教育も並列に明記するなど、変化する社会を複合的に捉えることができる視点を学べるような言い回しにしてもらいたい。これでは、結婚や妊娠に対する若者への押し付けに見えるように感じる。	1	②
15	少子化対策のためにも、思春期健康教育にしっかり取り組んでほしい。	1	②
16	特に小学校4年生から6年生までの心の問題が大切だと思う。	1	②
17	思春期健康教育や妊娠・出産に関する知識というだけでなく、そこに人権的な視点、ノーマライゼーションということが明記されていれば、多世代・多文化交流の取組との連携を感じることができる。	1	④

(7) 若者の自己成長と社会参加(計167件)

No.	御意見の内容	件数	対応分類
1	「ユースサービスの理念」という文言は、京都市特有なので、絶対に外さないでほしい。	1	②
2	様々な分野に挑戦し活躍する若手への支援というのはこれからの世代への多様な将来を提供するという点ですごく良いものだと思う。	1	②
3	思春期の子どもたちへの支援やサポートに力を入れてほしい。	1	②
4	ハイティーンの時期の子どもを育てる家庭への行政サービスを増やすことは、安心して子育てができる市として意味のあるものになると思う。	1	②
5	高齢化社会である今こそ、若者への支援が重要であると考えられるため、こういったことを実行していくことができれば、いい事業計画だと思う。	1	②
6	思春期というのは、その人の今後が決まってしまう大事な時期だと考えている。こういった政策に頼る若者は少ないが、そういった場所があるというのは大事なことだ。	1	②
7	若い世代が重視されていていいと思う。	1	②
8	思春期～青年期はとてもデリケートで重要な時期だと思うので、その間の支援はとても大切だと思う。	1	②
9	これからの核となる若者へ目を向け、それらへの手厚い支援などの必要な部分がしっかり書かれていて良い。	1	②
10	これからの社会を担っていく若者に焦点を当てて支援することは大切だと思う。	1	②
11	若者の問題に対して、丁寧に寄り添う支援は現代の内向いた課題にアプローチしていくために優先すべき。	1	②
12	青年期の支援は疎かにされがちなのでプランとしてしっかりと明言してくれることは喜ばしい。	1	②
13	青少年育成計画について、切れ目ない支援の名のもとに、本来あるべきもの、培ってきたものを消さないための明文化を。	1	④
14	主な取組が抽象的で、若者の私にもあまり響かない。イメージができない。孤立防止や特に支援を要する若者やその家庭への支援の方がもっと重要だと思う。	1	④
15	若者の様々な挑戦を支援していただけるのは嬉しいが、具体的にどういった支援を行っていただけるのかがいまいち掴めない。	1	④
16	思春期・青年期の課題は見えにくい。	1	④
18	ライフスタイルの多様化について触れられていて良いと思った。	1	②
19	若者へのライフデザイン形成に関する支援をしてほしい。	2	②
20	若者のライフデザイン形成への支援を明記されたことは意義深いものだと思う。	1	②
21	若者のライフデザイン形成への支援があるということを知らなかった。もっと多くの若者にこの活動が普及してほしい。	1	②
22	キャリア教育や社会体験の実施は、学校教育の中でされており、社会教育の場では、キャリア相談や適性の把握機会の提供、社会体験だけでなく様々な分野の人と出会う機会や経験の創出などさらに一歩進めたものが必要。	1	②
23	キャリア教育や異世代・多文化交流をはじめとした社会体験の実施、中・高等学校等における思春期健康教育の推進を挙げているという視点も好感が持てる。京都市の計画・事業であるならば、公教育での取組や役割というところも加えていただくと安心感が与えられる。	1	②
24	若者が将来や進路等に対して不安を持つのは自分が何をしたいのかが分からないからであり、そのきっかけを作ることが大切だと思う。	1	②
25	今自分自身将来に対して不安しかないもので、様々な経験をさせてもらってから社会に出られるのはいいと思う。	1	②
26	キャリア教育や異世代・多文化交流をはじめとした社会体験は、社会を広く知るうえでやった方がいいと思う。	1	②
27	若者が多様な人と出会い、自己肯定感や自己充実感が高まる体験の機会がライフデザインを描くきっかけになると思う。	1	②
28	将来を担う若者のための施設や体験・出会いの機会を増やしてほしい。	1	②
29	将来に展望を持った社会人になるための教育は良いと思った。仕事や子育てについての知識がないまま社会に出るのはかなり難しいことだと思う。	1	②
30	就活前及び就活後において、自身のやりたいことや得意なことが決まっていない人は少なくないと思う。そのような人たちが将来の進路を決定するための一助となる取組は良いと思う。	1	②
31	将来の生き方のロールモデルと出会えるような、学生と社会人をつなげる機会があればよい。	1	②

No.	御意見の内容	件数	対応分類
32	仕事や結婚、子育て等に関わる教育でジェンダーについて扱うことが、多くの選択肢を持ってもらうために大切だと思う。	1	②
33	若者が京都で暮らし続けてもらうよう促す上で、居住支援など物理的な支援サービスが有効と考える。	1	④
34	「仕事・結婚・子育て等将来に展望を持った社会人になることへの支援」として主な取組に「先輩の話を聞く場」や「先輩に相談する場」を設けたら、より具体的に、的確な意見が得られ、将来の展望を抱きやすいと考える。	1	④
35	ライフデザインの形成において職業、収入に関することは避けて通れない。ブラック企業、ブラックバイトの被害を受けた若者に対する政策にも取り組むべき。	1	④
36	「仕事・結婚・子育て等、将来に展望を持った社会人になることへの支援」で仕事への支援に関連する「主な取組」が記載されていない。	1	④
37	将来に展望を持った社会人になることへの支援で、妊娠・子育てに比重が置かれすぎているのではないか。	1	④
38	ライフスタイルや人間関係、結婚等を文章中に挙げているのに、主な取組として妊娠、出産に関係するものだけなのか。	3	④
39	ライフデザインを考えるにあたり、結婚への展望がない。学生同士での恋愛面での交流の場がもっとあると良いと思う。妊娠、出産以前に恋愛をしたことのない男女への取組を優先させてほしい。	1	④
40	学生の時に出産・結婚した人の学業と育児の両立を支援する施策はあるのだろうか。	1	④
41	若者が今よりも更にライフデザインが描きやすくなるように、様々な進路、年齢の方から経験談を聞ける会、または場所がほしい。	1	④
42	若者の孤立防止は若者のライフデザイン形成への支援に入るのではないか。	1	④
43	成年年齢が引き下げられ、より早く社会活動に参加することとなる若者に対し、成長を促すのではなく、社会の状態等について学べる場を提供するべき。	1	②
44	「20歳」を社会全体で祝う取組の拡充や「18歳」に成人の自覚を促す取組の実施とあるが、具体的に何をしていくのか分からない。	3	④
45	比較的時間に余裕のある大学生が地域に関わることができるよう、ボランティア活動等への参加機会が増えると良い。	1	①
46	若者の地域コミュニティへの参加がもっと進んでほしい。このままでは地域社会が維持できなくなってしまう。	1	①
47	主な取組に地域ボランティア活動や地域交流の機会を入れたらいいと思う。	1	①
48	若者のボランティア活動の促進。ボランティアに興味があっても情報の集め方が分からない人が多いと思う。	1	①
49	子どもと触れ合えるボランティアを増やしてほしい。	1	①
50	小さい子どもや親についての案が多いのはいいが、若者に対しての項目が少ないと感じた。	1	①
51	若者のボランティア活動の促進とあるが、若者が道具として消費されず対等なパートナーとして活躍できるようになってほしい。	1	②
52	最近では地域におけるつながりが薄い傾向にあると思うので、若者の地域交流事業の推進はとても良い取組だと思う。	1	②
53	自分は大学で京都に来てから、地域との関わりが地元よりも極端に少ないと感じており、支援があれば、少しでも関わりが増えると思うので、とても良いと思う。	1	②
54	近年、若者の地元離れが増えており、別の県に就職したり、後継ぎ問題がある。若者にとって良い環境作りの取組が、そういった問題を改善するだろう。	1	②
55	地域との関係性の希薄さは、地域行事の参加度合いだけではないのでは。地域そのものが変わりつつあるので、もっと多様な地域との関わり方があるはず。	1	②
56	地域住民が関わるイベントの運営に若者を参加させることで、多世代交流ができ、関わりが少しずつ深くなっていくのではないか。	1	②
57	確かに若者の地域参加が希薄になっているため、地域交流事業の推進はきっかけづくりに良いと感じた。	1	②
58	最近、昔と比べて若い人が行事等に参加することが少なくなっているように感じる。	1	②
59	「地域コミュニティは若者にとって参加しづらい。」ことから、伝統の維持と時代に合わせ若者を取り込むべく多少の流行性を取り入れるなどして変化があると良い。	1	②
60	ボランティアに参加する理由が多様化しているので、その中でボランティア活動をどう促進していくかというところが大事。	1	②
61	若者の地域交流事業の推進や若者の発信はどのような若者が発信していくのか。	1	④
62	「若者が地域の行事等に関わるのが難しくなっている」とあるが、参加することにより何を得的なのか。	1	④

No.	御意見の内容	件数	対応分類
63	若者が地域活動等を通じて、コミュニケーションを取る機会を作ることは良いことだが、地域活動において何をやるのかをもう少し明確化すべき。 SNSを通じた若者の犯罪についても見直すべき。	1	④
64	「若者の地域事業の推進」は若者が行う地域事業の推進か、地域事業への若者参加推進か。	1	④
65	ボランティア活動はやってもやらなくても自由だと思う。	1	④
66	若き市民への共汗強要はやめていただきたい。若者が主体となる自主活動を支えていく認識を。	1	④
67	ボランティア活動の促進とあるが、単発のボランティアはただの地域のお手伝いのものが多い。自発的な活動こそボランティアと呼べるのではないか。	1	④
68	若者に地域交流事業を推進するといっても、身近にきっかけがないと参加しない。大学の授業に強制で組み込んで、人との繋がりを感じる楽しさが知れるようにしたらいいかと思う。	1	④
69	「若者のボランティア活動の促進」について、ボランティア活動ができる場所と大学の連携を強くしてほしい。どこに行っても何から始めたらいいかわからない場合が多いので。	1	②
70	地域の行事に若者が入るという視点は、若者の便利使いでは。地域に必要なことを入れていかないと地域発展はないのではないか。	1	④
71	若者支援について、体験や機会の提供等が主な取組に入っていないことが分らなかった。	1	④
72	地域と若者の共汗について、なぜ地域と若者の接点を持つことが大事なのか言及がない。	1	④
73	若者が積極的に地域に関わりたいと思っているとは限らないので、なぜ地域と関わるべきなのか、関わることのメリットを伝えていくことも大切だと思った。	1	④
74	若者が持つ多様な力が発揮できる環境づくりの促進。人とのつながりは家庭や学校だけでないと知れる機会は大事だと思う。	1	①
75	若者が主体性を持って取り組まなければ効果というのはいらないと思う。分かりやすい取組や多くの若者が参加しやすい取組であってほしい。	1	①
76	地域の高齢者や、子どもと将来関わった仕事につきたいと思う若者を多数集めて子どもたちの見守る活動をするなど計画していけたらいいと思う。	1	①
77	若者の意見を市政に反映することが掲げられているが、単に意見を聞く「広聴」の枠を超えた市政参加に期待する。	1	②
78	ユースサービス協会が主体となり、「多文化共生×若者」など、様々な分野に強い機関とのつながりが生まれ、若者が主体的に活動できる機会が多く生まれればいいと思う。	1	②
79	都市を良くするためには若者の力は絶対に必要なので、とても良いと思う。	1	②
80	「若者の意見を市政に反映する機会の提供」という取組は良いと思うが、どのような若者の意見を取り入れるのが重要。	1	②
81	ちょうど私たち大学生に大きく関係していることだと思った。これからの京都を作っていくのは若者だと思うので若者が意見を発信しやすい環境が作られることは大事だと思う。	1	②
82	若者へ貢献するのが良いと思う。	1	②
83	若者たちへ貢献する機会を与えることは、素晴らしいことだと思う。	1	②
84	「若者が持つ多様な力が発揮できる環境づくりの促進」が今後の京都市／日本を支える若者への支援だと感じる。	1	②
85	「いかに分かりやすいか、いかに確実であるか」を明確にすることで、より若者の関心を引くことができるのではないか。	1	④
86	「若者が持つ多様な力が発揮できる環境づくり」の部分で「発揮できるようにする」と言い切ることができないか。	1	④
87	若者が参加しやすい環境にするため、スマートフォンの正しい使用方法を広めたい。	1	②
88	若者自身がつながり共感できる組織の創出。 子どもに対する大人目線の施策ばかりでは新鮮味がなく若者には響かない。	1	②
89	京都は学生も多く、外国からも多くの観光客が訪れるため、異世代・多文化交流は、ぜひ多く取り入れてもらいたい。	1	②
90	人と人とのつながりの希薄化は否めない。近所との交流は生きていくうえで非常に大切だと思う。春夏秋冬それぞれで何かイベントを設け、交流の場を作る必要がある。	1	②
91	これから京都で就職した時に助け合える人がいるか、関係を持つ場が設けられると嬉しい。	1	②
92	若者は学業や仕事などで交流する時間や日数が限られるため、少しでも機会を提供してもらえるといいと思う。	1	②
93	高齢者を若者がサポートできる環境や仕組みがあると良い。	1	④

No.	御意見の内容	件数	対応分類
94	若者の孤立防止が大事だと思う。子ども同士の関係を深めるのも大切だが、学童クラブをそもそもなくすために大人が子どもの近くに居続けることをすれば、子ども自身の孤立化はなくなるのではないかと。待機児童という問題もなくなる。	1	④
95	若者や特に障害のある若者に対して文化芸術に触れる機会等支援体制に幅を持たせてはどうか。	1	②
96	若者文化の発信とはどのようにしていくのが気になった。若者の成長をより一層促す取組とはどのようなものか。	2	④
97	若者文化の発信に対して、若者以外に受け入れてもらえるような具体的な方法はあるのかと思う。	1	④
98	若手アーティストの支援に賛成する。文化庁も来るので盛り上げてほしい。	1	②
99	2022年への対策など新しい時代に向けて取組が進んでいるのがいいと思った。しかし、若手アーティストの支援というよりは、共同で何かをすることの方がどちらも成長できて良いのではないかと。	1	②
100	若手アーティストの支援を行っていることは知らなかったのが驚いた。やりたいことがあるのにできない環境にいる子どもたちの可能性を広げることは、まち全体の可能性を広げることにもつながると思う。	1	②
101	若手アーティストの支援というのはよいと思った。ストリートミュージシャンたちを邪魔者扱いするのではなく、もっとやりやすい環境を作ってあげてほしい。	1	②
102	若手アーティストの支援だけではなく、もっと広い(青少年)若手の活動のサポートをしてほしい。	2	②
103	どのように若者の地域交流事業を推進していくのか、若手アーティストの支援としてどんな取組を実施したり、制度を活用するのかといった、具体策を示してほしい。	1	④
104	多くの職業がある中で、なぜ若手アーティストのみの支援が取り上げられるのかが分からない。	9	④
105	若手アーティストの支援とあるが、どの範囲を「若手アーティスト」として捉えるのか。	3	④
106	若手アーティストの支援は、なぜアーティストだけなのか。若者全般に言えることの方が望ましいと思う。	1	④
107	地域と若者を結ぶ拠点として青少年活動センターのような場所が大小問わず増えていくような取組を考えてほしい。	1	②
108	青少年活動センターのような社会資源が、もっと若者の身近に必要。	2	②
109	青少年活動センターは老若男女の様々な世代の人々が集まって、憩いの場となっている。また、家で勉強をする以外に、勉強の雰囲気を変えることもできる。気楽に通うことができ、学校以外での話す場にもなっている。	1	②
110	体験の場として青少年活動センターの役割は大きいと思う。	1	②
111	親や学校ではサポートしきれない所を青少年活動センターのワーカーに支えてもらったことがあり、一人で悩む前に、誰かに話をきいてもらえる場があるということは大変ありがたいと思う。	1	②
112	青少年活動センターが実際に使われているかと言われると必ずしもそうではないのだろうか。だからこそ、その場所にずっと留まることなく、学校まで出張してその取組をすればいいと考える。	1	②
113	青少年活動センターが近くにない地域は、若者と結ばれず、地域特性も活かさない。京都市西部にセンターと同等の機能を持つ施設を作るか、大きめの児童館にセンターから職員を常時配置したり、民間の同様の施設に人件費や運営費の補助を出すなど既存施設でセンターの機能を代替できるようにすべき。	1	②
114	「身近な地域における若者の居場所や気軽に相談できる場所の確保」で、青少年活動センターがない区の若者にとって「地域の身近な場所」「気軽に相談できる場所」が近くになく、遠くまで行くのは「気軽」ではない。青少年活動センターがない区に青少年活動センターと同等の機能を持つ施設を作るか、大きめの児童館に青少年活動センターから職員を常時配置したり、民間の同様の施設に人件費や運営費の補助を出すなど既存施設で青少年活動センターの機能を代替できるようにすべき。	1	②
115	大学生が多く府外から引っ越してきている人も少なくないので、青少年活動センターを通じてはじめて京都市という地域に関わる人もいるのではないだろうか。	1	②
116	青少年活動センターのようなコミュニティーセンターを中心に、専門的サポートを介して地域と若者を結んでいく必要がある。そのためには、コミュニティーセンターの増設と職員の増員が必要だと思われる。	1	④
117	青少年活動センターがない区にセンターを作るべき。	1	④
118	「青少年活動センター」がどこにあるか知らない。	1	④

No.	御意見の内容	件数	対応分類
119	若者の活動を必ずしも地域の取組と連携させる必要はないと思う。それよりも、若者が自由に使えるフリースペースのような収益の見込みにくい事業こそ公共に担っていただきたい。	1	②
120	人が悩みを気軽に相談できる場所は重要だと感じる。	1	②
121	若者が気軽に相談でき安心して過ごせる居場所を各々がどのように見つけるかは課題だと思う。	1	②
122	家庭、学校や職場に、居場所や頼れる人がない人への具体的な取組を記載いただきたい。地域を取り込んだ幅の広い取組が必要。	1	②
123	今の若者が過ごす環境について語られていることはとても良いと思う。	1	②
124	地域の身近な場所で若者の居場所や気軽に相談できる場所について、場所を確保しても、相談体制が整っていなければ難しいと思うがどのようなところをイメージしているのか。	1	②
125	貧困層や孤立している人は情報弱者であることが多いので、若い時に居場所があると知って頼ることができれば、年齢が上がってからも孤立せずに済むと思う。	1	②
126	一時的なつながり、関わりだけでは「孤立」の根本的な解決にはならないから、ある程度継続的に頼ることのできる「居場所」という視点は必要だと思う。ただし、「居場所」は形の決まったものではないから、提供する側される側双方のコミュニケーションがないと形骸化してしまう。	1	②
127	若者の居場所や相談場所の確保にとどまらず、そういった場があるという情報の発信に関するところまでを主な取組に取り入れるべき。	1	②
128	若者支援の取組に児童館を追加してほしい。	1	②
129	「児童館における居場所の確立」を記載してほしい。	1	④
130	主な取組に「児童館での中高生の活動支援」を記載してほしい。	1	④
131	中高生世代の自習の場所・居場所づくりと活動の支援を希望する。	1	④
132	若者文化の発信は支援していただきたい。	1	②
133	若者の交流も大切だと思う。個人応募だとなかなか集まらないと思うので、高校、大学を通じた方が良いと思う。	1	②
134	大学のまちとも言われるくらい、大学生が多い京都市なので、大学生に向けた取組が書かれていないことに違和感を持った。	1	②
135	京都の高校と大学にも呼びかけをしても良いと思う。	1	④
136	若者を育てる存在である親や教師への支援から始めるべきだと思う。	1	②
137	実体験の場と若者を支援する専門職を配置してほしい。いるなら明示すべきでは。	1	④
138	若者の自己成長や社会参加を支援する担い手の確保や処遇の改善も必要ではないか。	1	④
139	まちの活動などの情報を入手できる手段が増えると嬉しい。	1	①
140	若者世代に応じた様々な取組をもっとたくさんの人々に知ってもらうために、ツイッターやインスタグラムなどで情報発信することでより手軽さが得られると思う。	1	②
141	補助する場合の条件をどのように設けるのかが気になる。公平性をいかに取るのが難しい。	1	④
142	住んでいる区によって若者支援にバラつきがあるように思う。	1	②
143	学校教育という文脈から離れることでさらに若者支援の幅が広がるのでは。	1	②
144	子どもの思春期や青年期に別れていて、分かりやすい。	1	②
145	思春期から青年期にかけての取組が少ない。	4	④
146	児童や保育を必要とする子ども、幼児教育に関する取組と比べて、中学生・大学生といった若者に対する取組が少ないように感じた。思春期から青年期に焦点を当てた取組の強化や施策を展開してほしい。	1	④
147	これまで行ってきた支援で終了してしまうものについて、若者への説明はどうなっているのか。	1	④

(8) 子育て家庭の生活の安定や子ども・若者の健やかな成長に資する継続的な取組(計73件)

No.	御意見の内容	件数	対応分類
1	子育て世代包括支援センターとしての子どもはぐくみ室の機能は相談対応だけでなく、妊産婦や乳幼児及びその家族の視点で切れ目ない支援となるよう、その中心的役割を果たすべく、子どもはぐくみ室の機能を強化されたい。また、医療機関はじめ関連機関との連携と調整のみならず、子育て世代、家族に寄り添いながら協働した支援が継続してできることを希望する。	1	①
2	子ども支援センターの機能をさらに充実させ、経験豊かな職員による見守りを進めることが必要。現在のはぐくみ室の体制では難しい。子どもはぐくみ室は地域の状況を把握し、子育て世帯を見守る地域への支援を考えなければいけない。障害を持つ子どもへの支援について、居場所作りなどの課題もある中で、地域での受入体制をつくることも必要。	1	①
3	区役所・支所子どもはぐくみ室と学校・地域が連携してほしい。	1	①
4	子どもたちの抱える問題や不安を気軽に相談できる窓口を設けることで問題解決につながるのではないかと思う。	1	②
5	子どもを育てることは絶対に変で、しんどくなり虐待などにも撃りかねないため、みんなで支え合うような取組はとても良いと思う。家庭訪問などは、寄りそってくれている感じがありとても良い。	1	②
6	切れ目ない支援とは、支援される人にとって(断続的であっても)どのような時期においても支援が必要なときに、適切にピックアップされ、適任の専門家や支援機関にスムーズに連携・支援されることと考える。この連携調整役の中心を子どもはぐくみ室が担っていただきたい。	1	②
7	はぐくみ室機能を充実しても、市民に周知されていなければ意味がない。	1	④
8	乳児健診時以外のはぐくみ室には気軽に相談できる雰囲気を感じない。職員が地域の子育て支援施設を頻繁に訪問し、利用者になじみのある存在になれば、窓口にも行きやすい。	1	②
9	子育てを支援してもらう人が一番に求めているものはお金だと思う。経済的に安心できるような状況になれば子育ての安心につながる。	1	①
10	少子化が進んでいる現在の社会で安心して子どもを妊娠・出産できる環境づくりが大切で、今後の社会を担っているのは子どもなので、優先的に取り組むべきだと思う。特に金銭面でも子育て支援を積極的にするべき。	1	①
11	収入やスキル及び職場の都合で働かないといけない親への医療・学費の補助が必要だと思う。	1	①
12	子ども医療費を計画にきっちり盛り込むべきでは。	1	①
13	子どもを育てるのに金銭面の問題が生じるので、その支援をすることによって子どもを安心して産むことができる環境になる。	1	①
14	出産後、育児などでお金が多くかかるイメージがあるため、出産をするのをためらってしまうのではないか。そのため、育児支援をすることにより出産しやすい環境になるのではないかと考える。	1	①
15	子どもをはぐくむ大人たちの心が豊かでなければ心の豊かな子どもは育たないだろう。だから、心の豊かさを持つような余裕が必要だし、それを金銭的な面でもサポートしてもらえよう体制が整うと良いと思う。	1	①
16	子ども医療費制度を拡充いただき、大変ありがたい。	1	②
17	医療費がかからないので、助かっている。	1	④
18	ひとり親や共働き家庭の負担が減ること、幼稚園から小学校など学校が上がるときにできるだけ子どもの負担が減れば良い。	1	②
19	医療費について他都市では無料のところがあるが、京都市は高く病院を選んで行かないといけない。	1	④
20	子ども医療費について、すぐ1500円を超えるため、申請が面倒である。	1	④
21	子ども医療費(1,500円/月)が高い。他都市は中学3年生まで無料である。	2	④
22	子ども医療費をもっと安くしてほしい。期間も2歳までではなく、高校または中学校卒業までにしてほしい。	1	④
23	小学生は歯医者料金がかからないが、幼稚園の年代の子どもは対象外のため、無料にしてほしい。	1	④
24	幼稚園に入って集団生活を始めると病院に行くことが増えるため、医療費負担をもっと少なくしてほしい。	1	④
25	子ども医療の上限額が高い。中学校卒業まで無料にしてほしい。	2	④

No.	御意見の内容	件数	対応分類
26	子ども医療費は3歳以上も200円/月を適用してほしい。	4	④
27	他府県では子ども医療費が高校まで無料などの政策を行っているにもかかわらず、京都市では3歳から負担が始まる。市政全体の見直しを求める。	1	④
28	成人するまでの間や入学するまでの間など毎月いくらかの奨学金的な制度がある方がよい。	1	④
29	本気で子育て家庭を支えるのであれば「子どもを産んだ人に一律〇万円」と例外なくシンプルに現金で渡してしまう方が効果があるように思う。	1	④
30	大学の費用が高過ぎるので、補助してほしい。	1	④
31	医療費を下げしてほしい。京都市は府の中でも子どもの医療費が高く、他の市に引越しをしたいと言っている人もいる。	1	④
32	児童館がメインであり、小さい子どもが遊びに行く場所が少ない。	1	①
33	子どもの遊び場が少ない。老人と子どもが触れ合う機会がもっとあれば良い。	2	①
34	児童館以外で子ども同士が遊べる場所が少ない。	2	①
35	近郊の都市（大阪、兵庫及び滋賀）と比べると休日に遊べる施設が少なく困っている。子どもの楽園くらいしかない。	1	①
36	家の近くに遊べる公園がない。以前は小さな公園があったが、今年なくなった。	1	①
37	ボール遊びのできる公園を整備してほしい。	2	①
38	「子どもたちの地域の居場所・遊び場」に対する内容が考えられていないのではないか。	1	①
39	子どもを取り巻く物的環境の整備も重要であると考えたとき、都市や公園などの公共空間の計画はなぜ明記されないのか。	1	①
40	子どもの成育に遊びは非常に重要な要素だが、遊び環境の整備に関して全く触れていないのは何故か。	1	①
41	京都市は、公園などの施設が少なく感じられるが、そこについての対策はあるか。	1	①
42	公園など子どもが遊べる場所を残す必要があると思う。	1	①
43	放課後の子どもたちの居場所づくりについて、子どもたちの欲しているものは、自由に遊べる公園などの施設だと思う。	2	①
44	京都市内にはのびのびと運動できるようなグラウンドなどが無い。環境整備のために、どのような策が挙げられるのか、具体的に書いて欲しい。	1	①
45	最近では子どもの遊び場の不足が問題だと思う。	1	①
46	公的な居場所を作ってほしい。	1	②
47	子どもたちの遊ぶ場所を確保していただきたいと思うが、この計画では、ソフト面を重視して、本当に京都市で子育てしてよかったと思えるような取組を進めていただきたい。	1	②
48	体育館を子育て広場として開放してほしい。室内でハイハイさせるとぶつかるため、広いところがよい。	1	④
49	室内で遊べる場所がほしい。お店の使っていないスペースで子どもが遊べると良い。	1	④
50	子どもが無料で遊べる施設が少ない。有料で遊べる場所も西部にはない。	1	④
51	公園で球技や花火が禁止されており、遊ばせにくいように思う。	1	④
52	区役所以外の子育て世代がもっと利用できる場所がほしい。	1	④
53	雨が降った時に、遊びに行ける場所があると良い。	2	④
54	子どもがバンド演奏や演劇等をできる居場所を整備してほしい。	2	④
55	現代はネット社会になってきていて、外で遊ぶ子どもが自分の小さいときに比べると減少していると思う。そんな子たちにイベントなどを開催するだけでは誰も来ないのではないか。ときには電子ゲーム機を用いるなど今の子どもに合ったイベントをする必要があると感じた。	1	④

No.	御意見の内容	件数	対応分類
56	アレルギーや持病を持つ児童の安全対策には、医療的な支援が必要だと思う。	1	②
57	アレルギー疾患対策基本法における京都府が設置予定の「拠点病院」・「医療連絡協議会」において、実務を実施する京都市においては、京都府と連携したアレルギー児・者への生活の質の向上のための相談体制（福祉との連携）の整備をお願いしたい。	1	④
58	アレルギー疾患医療拠点病院は都道府県単位の施策だが、京都市では選定されておらず、拠点病院を決定するための協議会もない。拠点病院の選定のために予算をあててほしい。	1	④
59	妊娠期から小学校入学までの7年間について、保健師の個別担当制としてほしい。	1	②
60	共働きのため、子どもが体調不良の際の対応が難しい。小学生でも体調不良時に預けられる場所があると大変助かる。	1	②
61	子どもたちの家庭環境は本当に様々で、家庭環境によって子どもの成長は大きく変わる。一人一人の子どもに目を向けどのような支援ができるか考えるべき。	1	②
62	ライフステージに応じた支援が一番内容が充実していて、全ての年齢の市民を対象にできるため効率も成果も良いと思う。	1	②

2 特に支援を要する子ども・若者やその家庭への支援

(1) 貧困家庭の子ども・若者への支援（計45件）

No.	御意見の内容	件数	対応分類
1	貧困家庭の子ども・若者への支援，児童虐待対策・少年非行対策，社会的養育の推進，困難を有する若者への支援，障がいのある子どもへの支援，ひとり親家庭支援といった主な取組はとてよい施策の体系である。	1	②
2	貧富の差は今後増加していくので，貧困家庭の子どもに対しての取組はすばらしいと思う。	1	②
3	子ども食堂など子どもの居場所づくりはとても良いと思う。	5	②
4	地域や民間団体による子ども食堂など子どもの居場所づくりの取組への支援も大切であるが，最近ではそもそも子ども食堂を利用することをためらう親も多いので，利用してもらえよう促進することも事業の1つとして取り入れても良いと思った。	1	②
5	子ども食堂などはもっと増えるべきだと思うが，地域住民がその支援を行うために行政等からのサポートはあるのか気になった。	1	②
6	子ども食堂はニュースで聞いたことはある。	1	②
7	子ども食堂など子どもの居場所づくりの取組をどうして公営で行わないのか。	1	④
8	「地域や民間団体による子ども食堂などの子どもの居場所づくりの取組への支援」とあるが，実際は人手不足が深刻で，効果を感じることはできないと思う。	1	④
9	貧困であれば，すべて給食にして，無償にしたらいいと思う。	1	④
10	貧困対策の一つとして中学校給食を小学校と同じ形で実施してほしい。	1	④
11	教育費を行政等が負担することで，将来への展望がより広がり，貧困の連鎖を止められると思う。地域住民等がひとり親家庭に対し協力することも，ひとり親家庭にとってはとても助かることだと思う。	1	②
12	塾に行くことが難しい子どもたちへの学習支援はとても効果的。	2	②
13	子どもの貧困対策において学習支援を実施しているようだが，普及しているのか疑問である。	1	④
14	貧困家庭への学習面・子育て面・経済面への手厚い支援が今一番必要だと思う。その中でも，幼児教育・保育の無償化，就学援助費の支給はとても助かる支援事業だと思う。児童虐待が問題となっている今，対策を推進すべきであり，特に非行から守る活動を地域団体の取組として行っていくのが良いと感じる。他にも，ひとり親家庭には，金銭的支援が大切だと思う。	1	②
15	やはり親の負担を減らすことが最優先で，幼児教育，保育の無償化，就学援助の支給はあるとないとでは大きく違うように感じるため，優先して考えを突き詰めていく必要がある。	1	②
16	経済的に厳しい家庭では，子どもにも少なからず負担がかかってしまうので，支援することはとても賛成。豊かな環境の中で子どもを育てることが大切だと思う。	1	②
17	子どもの貧困対策も重要であるが，すでに取り組みされている生活困窮者の相談窓口のようなものを，さらにきちんとやっていった方がいいと思う。	1	①
18	子どもの貧困は深刻。ほかの福祉施策の活用や様々な主体との連携を通じて支援を充実してほしい。	1	②
19	あんしん支援員のような，困っている方に寄り添ってくれる制度はとても重要。ぜひこれからもやってほしい。	1	②
20	生活保護をもらっている若者も多くいる。生活保護をもらっているとなかなか人と接することができない。もっと課題を持った人たちが一緒にできる場所がほしい。	1	④
21	妊娠中にお金に困ったことがあるが，その時の支援が何もなかった。入院したりするとお金がまわらない。出産後は問題なかった。	1	①
22	支援が必要な妊婦への支援の充実をお願いしたい。	1	①
23	市営住宅及び府営住宅が市内中心部に少ないので，もう少しあると良いと思う。通勤が大変である。	1	④
24	市営住宅優先入居だけではなく，家賃の援助も必要な場合もあるのではないかな。	1	④
25	子育て世帯を対象とした市営住宅優先入居とあるが，市営住宅は何のためにあり，どんなメリットがあるのか。	1	④
26	物質的・金銭的な面から捉えられがちだが，精神的な貧困にも目を向けるべき。ベビーシッターなど第三者が支援できる制度が必要だと思う。	1	②

No.	御意見の内容	件数	対応分類
27	子どもや若者たちにとって原体験となるような経験をどれだけ作れるかが大事だと思う。地域やNPOにあるようなノウハウを買い叩くことのないように活かしてほしい。	1	②
28	スクールソーシャルワーカーは鍵となってくるような気がしており、その専門性を発揮できるように制度を充実させた方がいいのではないか。	1	②
29	スクールカウンセラーの活用をもっと推進してほしい。	1	②
30	京都市ではスクールソーシャルワーカーがケース会議に参加するのみで実際に子どもや保護者と関わっていない。本当の意味で連携できるような制度を考えてほしい。また、多様な文化的背景がある人々へのソーシャルワークを行えるような人材の育成に力を入れてほしい。	1	④
31	支援を要するような状況にある若者が市内にどれくらいいるのか。押付けの支援ではなく、ニーズを汲んだうえでの取組をお願いしたい。	1	②
32	貧困家庭の洗い出し方法は。	1	④
33	ヤングブザーについての視点が抜けているように感じる。	1	②
34	若年妊娠は子どもの貧困につながる傾向にあり、苦しんでいる若者に支援が行き届いてほしい。	1	②
35	少子化が進んでいる背景には家庭の貧困化が大きく関わっており、子どもへの支援を強化することで、この問題を解決すると同時に少子高齢化への対策にもなる。	1	②
36	貧困に喘ぐ家庭環境では、親が仕事からなかなか帰って来ず、子どもと顔を合わせる時間が減りがちである。そして子どもは孤独感や自己否定感を持ってしまい、悩みを打ち明ける場所をなくすため、親との時間を取れるようにひとり親家庭などを特に支援すべきだと思う。	1	②
37	貧困の子どもを助けるために他人の協力は必要になってくるが、ボランティアでは多くの人参加しないと思うため、市から協力したい人へ少しのお金を支給すれば参加してくれる人も増えると思う。	1	②
38	貧困等の課題を抱えた子どもが希望を持って活躍するための支援には、具体的に何が必要か。	1	②
39	繁華街で夜に働く方は、貧困や孤立等の問題を抱えているにも関わらず、支援を受けることが可能であることも知らない。	1	②
40	支援を要する子ども・若者やその家族への支援について、普通の子とは違う支援がないといけないんだと思い込み、孤立するケースがあるのではないか。	1	④

(2) 児童虐待対策, 少年非行対策, 社会的養育の推進(計61件)

No.	御意見の内容	件数	対応分類
1	虐待を受けている子どもをいかに早期にピックアップするかという点も必要であると思う。虐待をマスキングするような方法も必要ではないか。	1	②
2	保育施設を充実させたとしても、親の虐待を受けて家で放置されている子どもも少なからずいると思うので、そういった子どもたちを救う機関を設けて、一人一人救うことが大切。	1	②
3	最近、児童虐待のニュースなどをよく見るので、事前の対策、その後のケアをしっかりとできたら良いと思う。	1	②
4	児童虐待対策は今特に日常でのニュースで流れていてとても重大な問題となっているので虐待をなくすための対策を推進させることはとても大事である。	5	②
5	虐待はその家庭が抱える問題や不安を除かないと、減っていかないと思うため、少しでも、相談しやすい場所を作り、地域間で作り上げていく必要があると思うので、この計画を進めていき、実現してほしいと思う。	1	②
6	家庭訪問による継続的個別支援に特に期待したい。昨今実際に家に行っても会えずほったらかしにしていたら子どもが亡くなってしまう事件が多発しているように思うので、必ずあきらめず訪問し子どもたちを守ってあげてほしい。	1	②
7	生まれてくる子どもは家庭を選ぶことができないため、生まれた時点で他の子と差ができてしまうのは仕方のないことだと思う。しかし、その差を少しでも埋めてあげることで虐待の防止にもつながり、また、子どもの未来を明るいものにするのが重要である。	1	②
8	虐待が発覚してからの取組でなく、児童虐待が起きる前にする対策はあるのか。	1	②
9	最近児童虐待の事件が増えており、取組についてもう少し改善する必要があると考える。虐待をなくすためには、誰かが気づいてあげないといけないし、安心感を子どもに持たせてあげる必要があるのではないかな。	1	②
10	児童虐待対策の機能強化は、近年虐待によってこの世を去ってしまう子どもが多数存在しているため、しっかりと介入して行ってほしい。	1	②
11	虐待を受けている子が、自分から助けを求める手段がもっと分かるようになったらいいと思う。	1	②
12	若年の妊婦が支援につながるような取組（訪問とか、トワイライトステイなど）と、地域で子どもを育てる、子どもを死なせない取組、啓発が必要。	1	②
13	欧米では病院（医療従事者）や教育機関が関わった子どもの虐待の兆候を通報しないと罰せられると聞く。大人としての責任を育むには、こういったものも必要なのかもしれない。	1	④
14	児童虐待対策の推進で、親によって「しつけ」の基準が違うので、ある程度の基準を決め、それを親に発信することが大事。	1	②
15	0歳児への虐待予防のため、性教育を充実してほしい。	1	②
16	虐待が増加の一途をたどるとあるが、これまでに何も対策を取らなかったのか。	1	②
17	児童虐待について、対策推進の具体例が想像していたよりも明確に挙がっていて良かったと思う一方で、具体度が異なり、あまりイメージできない項目もあった。	1	①
18	児童虐待対策を強化してほしいが、具体的にどのようなことを実施していくのか知りたい。	1	②
19	近年問題となっている虐待対策は、児童相談所と警察や学校や地域の連携を強化することは良いことだが、具体的に何をしているのかが重要ではないか。子どもたちが児童相談所へ相談することも難しいので、教師の支えも必要だと思う。	1	②
20	児童相談所とも連携を組んで、虐待等から子どもを救いやすいまちにすると、より良いと思う。	1	②
21	地域に里親家庭が増えていくことも考えられるため、児童相談所と子どもはぐくみ室との連携が欠かせない。施設退所者のアフターケアの必要性があり、妊娠期からの支援を考えると保健福祉センターとの連携も今後必要になる。自立支援コーディネーターの常勤化を求める。	1	②
22	支援施設から保育所、幼稚園から学校と、途切れない支援のために必要な情報交換がスムーズではない。 警察と児童相談所、はぐくみ室と地域支援機関の連携も不十分。	1	④
23	児相・警察・学校・地域の連携について、立場・視点の違う機関同士の調整をどの機関が行うかを明確にしていくことが必要。	1	④
24	子育て援助などに、虐待に関する親子のケアの機関は入っているのか。	1	②
25	虐待を受けた子どもたちへの精神的・身体的ケアの対処法を細かく明記する方が良いと思う。また、大人になってからのケアも大切にすべきだと思った。	1	②

No.	御意見の内容	件数	対応分類
26	児童虐待・少年非行対策の政策において、両親、子どものどちらの相談にも乗ることができる施設を作るべきだと思う。顔を見られたくないなどプライバシーも大切にしたい人などに向けてSNSで相談室を作り、存在を知ってもらうよう広報を行う必要がある。	1	④
27	児童相談所の職員を増やしてほしい。	3	②
28	虐待を受けた子どもたちやひきこもりの子どもたちへの支援の専門家の確保に力を入れてはどうか。	1	②
29	児童虐待に対して支援の専門性を向上させることは、被害に遭う子どもを減少させ、安心させることにとっても良いと思う。どのように専門性を向上させるのか、もう少し詳しく知りたい。	1	②
30	各行政区に児童相談を専門的に行う正規職員を複数配置してほしい。	2	②
31	地域で子育てする世帯が気軽に利用できる児童館で虐待を早期発見し、必要な関係機関へつなげる役割を果たしている。	1	②
32	児童虐待の連携先に児童館を追加してほしい。	1	④
33	児童虐待相談で扱う子どもは、場合によっては学習支援で扱っていいかもしれない。	1	④
34	児相の発達検査や療育機関に相談しても3、4箇月待ちになることもある。	1	④
35	新しい社会的養育ビジョンに記載されている、「家庭養育の支援」や「在宅からの支援」が全く記載されておらず、内容は「代替え養護」の「家庭的養育」についてのみ記載となっているので、家庭養育支援の充実について記載する必要がある。「京都市においては、家庭養育支援の充実を図るとともに、児童虐待対策の機能強化、里親依託の推進、児童養護施設等…」に変更すべきだと思う。	1	②
36	養護施設の子どもの生活の安定・保証を充実すべき。	1	②
37	「京都市社会的養育推進計画」では、文章の追加と共に並び替えが必要と思う。	1	④
38	社会的養育の現場に対する研修の充実や専門職の増員。	1	②
39	児童養護施設等で子どもたちに「安心感」「自己肯定感」をはぐくむには、現状の職員数で不足していないか、地域分散化も費用がかさみ継続できるのか。	1	②
40	乳児院・児童養護施設等の高機能化、多機能化、機能転換の具体的内容とは。またそれによっては限界があるのでは。施設の退所児童のアフターケアを十分にできる体制作りを強化してほしい。	1	②
41	全国的に里親が足りていないとの新聞記事を見た。「京都市社会的養育推進計画」に書いているようなことを実現するのなら、本気で里親の確保に取り組むべき。	1	①
42	現在登録している里親への支援だけでなく、新たな里親の開拓にも力を入れてほしい。	1	①
43	里親制度のバックアップと推進を図るべき。	1	①
44	「子どもの最善の利益」を実現していくためには、社会的養育の担い手の質の向上が欠かせない。特に家庭的養育環境の保障を担保しつつ、子育て支援を行うならば、虐待の予防という観点からも、支援機能を持つ施設・社会資源としての里親がチームで、子どもと家庭の支援に取り組めると良いと思う。具体的にはレスパイトやショートステイ事業だろうか。	1	①
45	「里親・ファミリーホームへの支援の推進」とあるが、里親とファミリーホームは支援が必要な人・ところ、というネガティブな色合いがあるため、里親のリクルート、ファミリーホーム立ち上げ助成と、質の向上を図るといような書きの方が、前向きで受け入れやすいと思う。	1	②
46	社会的擁護の推進とあるが、養子や里親についての記述があると嬉しい。	1	②
47	里親「支援」という言葉に違和感がある。上から目線に感じるとともに、これから里親を始めようとしている人にも、支援が必要なほど大変なのかという印象を与えてしまう。	1	④
48	どれも良いと思うが非行問題は学校単位で悪いところが多いので、そういったところを重点的に改善してほしい。	1	②
49	何らかの事情で家に帰れない子に対しての支援をしてほしい。	1	②
50	少年非行対策の推進内にある、立ち直り支援プロジェクトが気になった。	1	②

No.	御意見の内容	件数	対応分類
51	サポートセンターで行う相談とあるが、非行少年はそういった場所に行かず、また、社会を明るくする活動をして周りが明るくなるだけで本人は変わらない。また、受け入れる場所を設けるのではなく、助けに行く姿勢を持つ団体及び活動が必要である。	1	②
52	非行・薬物乱用を抑止するためには。	1	④
53	さびしさから援助交際走る十代女子が多大なリスクを負っている。子どものさびしさに気付けない親や、買春する人への教育の中で生きていくことを教えられるような方法を模索してほしい。	1	④
54	少年非行対策として少年サポートセンターで行う相談、薬物乱用防止教室の配置など、皆が進んで取り組むとは思えないし、まじめに聞き入れるとも思わない。元の原因はその児童の両親に問題があると思うので、直接子どもにではなく、その両親の育て方を変更させる必要がある。	1	④

(3) 困難を有する若者への支援(計28件)

No.	御意見の内容	件数	対応分類
1	ひきこもり支援について、現在社会福祉審議会専門分科会で議論されている内容は今回のプランに反映されないのか。	1	①
2	「切れ目ない支援」の実現に向けたひきこもり支援の充実にぜひ取り組んでいただきたい。	1	②
3	ひきこもりの問題については憂慮している。支援の充実に期待。	1	②
4	ひきこもり状態にある子ども、若者への支援の充実に力を入れるべき。小・中学校で職場体験などの地域との交流があるように、高校生以上になっても、必然的に地域と交流できる機会を設けるべき。	1	②
5	居場所づくりの推進だけでなく、当事者の方知ってもらわなければ意味がない。外部から情報を得る機会が少ないひきこもりの方たちにどのようにして知ってもらおうか。	1	②
6	予防としての施策、やり直しや社会と再接合できる施策を含めた、子ども若者支援を作ることが切れ目のない支援になるのでは。	1	②
7	ひきこもりの課題は多岐に渡るため、一つにまとめて「切れ目」をなくすために形を変えるよりも、「維持」し継続していくことの方が重要であると思う。	3	④
8	地域・民間団体との連携による支援の強化は、支援の方法を老若男女が交わってできる場にするべき。一部の団体だけが今までどおりの支援をしても何も変わらない。	1	④
9	ひきこもり対策は予防の部分も必要と思う。	1	②
10	ひきこもりの早期発見について、具体的にどのような計画や取組がなされるか知りたい。	2	②
11	問題なのは、孤立している子よりも周囲の人たちの目が行き届かないことではないか。	1	④
12	ひきこもりにはいろいろ事情がある中、どこまで踏み込んでいけるのか。	1	②
13	子どものひきこもりについては保護者に問題がある場合を除いて、過剰に介入しない方がよい場合もあるのではないかな。	1	④
14	ひきこもりについては、本人のみの力では負の連鎖状態から抜け出しにくいのではないかな。衣食住の生活環境を整えることと、理解者によるサポートがあると心強いかもしれない。	1	②
15	将来に夢や希望を持ったライフデザインを描けることもそうだが、困難に出くわしたとき、自らで選択できる力を養うために、多様な経験の機会を通して、自らを内省する時間を保障することが謳われてほしい。	1	②
16	支援を要する人を生まないため、さらには、困り事に対する支援がなくなった後も社会で生きていくためにも、圧倒的に支援が少ない青少年に対するユースサービス提供の拡大を期待する。	1	②
17	「身近な地域における若者の居場所や気軽に相談できる場所の確保」に記載されている「気軽に相談できる場所」が実在するとよい。家族、友人、先生にも話しにくい悩みごとや困難を抱えている若者は多い。	1	②
18	不安や困難を抱えていない若者に対しての居場所や応援されるような仕組みが乏しいと思う。「気軽に悩みや新たな挑戦を行いたい若者に応える相談支援の推進」は具体的にどのような内容なのか気になる。	1	④
19	ひきこもりだけではなく、社会的な生活を営む上で困難を有する子どもや若者への支援とすべき。	1	②
20	学校から社会、施設から社会への移行を支える施策が弱いと感じる。中高の卒業・中退時などにハイリスクな若者にサービスが届く具体策がほしい。	1	②
21	「児童館等の施設でのボランティア活動や利用することにより施設でのボランティア活動や利用社会とつながる足がかりとする支援の交流場の充実」を記載してほしい。	1	④
22	若者の自殺への対策をすべき。	1	④
23	困難を有する若者支援の取組は抽象的で分かりにくい。	1	④
24	学習に困難を抱える成人の青少年の教育支援・就職支援をもっと手厚くしてほしい。	1	④
25	どこからが困難を有する若者と定義づけられるのか。	1	④

(4) 障害のある子どもへの支援(計13件)

No.	御意見の内容	件数	対応分類
1	障害のある子どもの配慮がいいと思う。	1	②
2	障害児相談支援を充実してほしい。就学後に相談支援事業所を利用するには、放課後等デイサービスを使用して受給者証をもらう必要がある。学童も使用する場合、学童と放課後等デイサービスの同時利用は、発達障害児にとって負担が重く、保護者にとっても環境が大きく変化するタイミングで支援が煩雑化することは負担である。 学童利用中はモニタリングが受けられないため相談先を確保できず、不安である。発達障害児について、児童発達支援終了後も相談支援事業を受けられるようにしてほしい。	1	②
3	障害のある子どもの積極的な受入れを今後も充実した体制のもとにできるようにしてほしい。	1	②
4	重症心身障害児・医療的ケア児への支援の仕組みづくりの検討にとどまらず、推進が必要ではないか。	1	②
5	発達段階におけるつまずきの早期発見まではかなり細かな目が注がれるようになったが、発達診断を受けるまでの待機を早急に解消しなければ意味がない。早期対応のための施設やシステムの充実をお願いしたい。	1	④
6	障害児が外出した際に声を出したりするが、周囲の理解が必要と感じる。	1	②
7	私たちが当たり前に行えることが、障害のある子どもには、当たり前ではないことだということを地域全体が理解し、バリアフリーの取組を意識付けることが必要だと思う。障害の子どもたちと関わる活動を行う必要があると思う。	1	②
8	障害のある子どもへの支援は書かれているが、障害のある子どもを育てている家庭への支援、地域での共生ということが書かれていないのはどうしてか。	1	②
9	発達障害の子がいるが、遊べる所があると良い。	1	②
10	医療的ケアが必要な障害のある子どもへのニーズがある。個人的には小児のリハビリテーションや特別支援教育に関心があり、今後の進路・キャリア形成次第で地域社会のニーズに貢献できるかもしれない。	1	②
11	障害のある子どもの受入について、特別支援学校に行くまでは、どのような生活を送っているのか。	1	②
12	障害のある子どもへの支援は、どのように発見し、どのように支援につなげているのか。	1	②
13	障害のある子どもへの支援においては障害だけで見るのではなく、その子どもを見ることが大切。	1	②

(5) ひとり親家庭支援(計40件)

No.	御意見の内容	件数	対応分類
1	ひとり親の相談支援を充実させてほしい。	1	②
2	ひとり親家庭の支援に焦点を当てているのはよい取組だと思う。	4	②
3	現在は昔と比べてひとり親家庭が増加していると思うので、積極的にひとり親家庭の負担を軽減していく必要があると思う。また、最近では地域のつながりが希薄化していることもあり、周囲に相談する環境がないのは、親子ともに苦しいため、「ゆめあす」という支援センターの存在は大切だと感じた。	1	②
4	子ども・若者やその家庭への支援はとても大事なことであり、特にひとり親家庭に対しての支援策を実施することで、貧困問題を解決させ、子どもや若者が健全に学べるようになると思う。	1	②
5	ひとり親家庭の支援、貧困問題は、子どもの将来の夢や希望の妨げになり、子ども自身にも将来引き継いでしまう問題であると考えられるので優先的に取り組んでいった方がよい。	1	②
6	ひとり親、望まない妊娠による出産など経済的社会的困難を抱える方の相談支援は深刻に感じる。	1	②
7	近年、片親による子育ての負担が多く経済的、社会的問題を招いているのは、注目すべき問題だ。少子高齢化が進行している日本にとって子育て環境の充実というものは最優先事項といえる。高齢者の選挙率が高く、比較的政策が若者に向かないというのも難点の一つだと思う。	1	④
8	ひとり親の家庭では、一般家庭に比べて育児・経済面など様々な面で十分なことができないと思うので、支援は必要だと思う。	5	②
9	ひとり親の支援はとても良い施策だと思う。ひとり親の家庭は、増加しつつあるので、より多くの人に知ってもらいたいと思った。特に、経済面での支援は、とても助かっていたのを実感した。	1	②
10	ひとり親家庭の就労支援に、職業訓練などの経済的支援があることに納得がいった。	2	②
11	ひとり親家庭が子どもを養うことはかなりの困難であり、そこから虐待につながる場合もあるため、ひとり親への負担軽減は優先的に取り組むべきだと思う。	1	②
12	保育園から中学校までは義務教育で、ひとり親の収入でも子どもをあずけることは可能だが、高校から大学までは高いお金がかかり、教育を受けたい子どもを学校に行かせてあげられないケースも多いので、改善が必要だと思う。	1	④
13	「母子父子寡婦福祉資金貸付」は、「母子父子寡婦福祉資金の貸付」の方が良いのでは。	1	④
14	離婚後の養育費未払い問題の解決案についてもあればいいと思う。	1	②
15	ひとり親家庭への経済的な配慮がしっかりしているように思えた。いじめや人権問題への対策がないことが気になった。	1	②
16	ひとり親でも特に母子家庭を支えられるような取組を行ってほしい。	2	②
17	私は母子家庭で育ったため、母親の大変さを近くで見えてきた。周りの支援がすごく大きいものとなると思う。	1	②
18	母子共に支援し、精神的に自律した関係を目指す取組があれば良いと思う。	1	②
19	ひとり親世帯のうち母子世帯の数が父子世帯の数と比べて圧倒的に多く、どうしてもコミュニケーション、体力面でも違いが出てくると思うのでそういった点の対策も必要だと思う。	1	④
20	母子家庭だけでなく父子家庭の支援もするべき。	2	②
21	父子家庭への福祉制度の充実が必要。	1	②
22	父子家庭の父親が家事をするための情報交換の場があると良いので、サポートしてほしい。	1	④
23	十分サポートはあるが、土曜日に仕事がなくとも子どもを預かってもらえる所がほしい。ひとり親の場合、近くに預けられる身内がない場合に、少しでも預かってもらえる通院の際などに助かる。	1	④
24	近年、増えているひとり親家庭は、やはり金銭的な余裕がないことが多いので、子どもたちが親が帰ってきていなくても安心できるような場所づくりをすることが優先すべきではないかと感じた。	2	②
25	ひとり親の支援について、周囲の目を気にする親が多い。また、食堂などもいいと思うが、いじめの原因になるので、同級生には知られないように行うべきだと思う。	1	④
26	ひとり親でお世話になっており、非常に助かっていて感謝している。良い取組のため、ホームページではなく分かりやすく伝えると良いと思う。	1	④

No.	御意見の内容	件数	対応分類
27	ひとり親家庭への経済的支援や、若者の就労支援など生活困窮者の早期把握をし、相談の窓口を一元化するべき。さらに、家庭や個人に合わせたプランの作成で多様な支援を組み込み、当事者の主体性・多様性に配慮し、生活困窮からの脱却を目指しフォローアップすることが必要。	1	④
28	ひとり親の支援の量を決める際、親の収入だけでなく他の視点からもみる取組がほしい。	1	②
29	学習支援の欄に高等学校卒業程度と書いてあるが、高卒よりも大卒の方を雇う率が高いと思うので、大学卒業程度にすれば良いのでは。	1	④

3 子ども・若者とその家庭をみんなで支え・はぐくむ社会

(1) 次代を担う子ども・若者をはぐくむ地域共生社会の推進(計65件)

No.	御意見の内容	件数	対応分類
1	地元の大人との交流が多くなるような取組が必要だと感じた。	1	②
2	地域で子どもを見守る、はぐくむというのは良いことだと思うが、町内会に入らない家庭が非常に多くなり、地域の力が弱まっていると思う。町内会の在り方を考えていく必要がある。	1	④
3	地域との関わりが少なくなり、子どもや親が孤立している場面をよく見る。地域との関わりがないと、犯罪にかかわることも多くなると思う。	1	②
4	近年、地域の繋がりが薄くなっているため、色々な世代が話をできるようなイベント等に力を入れてほしい。	1	②
5	ネットワークづくりやひとり親世帯を対象とした地域学区で実施できるホットステーションづくりを企画されたので、はぐくみとしても参画する。	1	②
6	子育ては個々の家庭がベースとなるが、家庭同士のつながりや地域のつながりの重要性をもっと明確にすべき。	1	②
7	区役所は、学生の勉強や息抜きの中としての役割を担っており、お年寄りや、子どもを見かけ、母たちの憩いの場となっている。	1	②
8	京都市などの都会では、地域など関係ないイメージがあったので「ゆとりある環境づくり」を促進しているのは初めて知ったし、それにより地域への愛が深まり、さらに良いまちになると思うのですばらしい取組だと思う。	1	②
9	実際に支援を求めている親子は地域行事にも参加する余裕がないと思う。地域の結束が固まると反対に溶けこめていない親子がもっと地域との関係がなくなっていく恐れもあると思うがその場合どうするのか。地域に助けを求めることができない場合の対策が気になる。	1	②
10	ひとり親などの社会との接点が限定される家庭に対して、地域社会全体で支える必要がある。地域にはボーイスカウトやスポーツ少年団などの活動があるが、それらの参加費を支援することによって、家庭が地域とつながり子どもの成長機会を得ることができると思う。	1	①
11	定年退職してやりがいを探している人に、見守り隊になってもらう、昔のあそびを子どもと一緒にするなど、地域で支え合ったらいいと思う。	1	②
12	ネット社会になってきた今、地域のつながりを拡大できるのか。	1	②
13	子どもの目線から、地域とつながりたいか、地域が準備したプランの下で生活していきたいか捉えるべき。	1	②
14	「家庭」「地域」によっても様々なことを学ぶ。これら「家庭」「地域」の2つを合わせた「近所の親戚」というボランティアを募集し、子どもが自立し出て行った家庭などに地域の子どもを見てもらうことを提案する。	1	②
15	プランに沿った乳幼児から高齢者まで集えるコミュニティセンターの施設建設を夢見ている。	1	④
16	母子の孤立から起こる虐待が多くなっている。また共働きなどで子どもの温かい居場所が失われつつある家庭も多い。地域の連帯感が上がり、地域で子育てする意識は必ず必要である。	1	②
17	近年、地域交流が少なく、子育てで困っている保護者のために、支援事業を運営したり、必要な支援につなげたりするのはいいと思う。	1	②
18	地域の取組は、生活に関わるので進めてほしい。	1	②
19	昔、子育ては、家庭の他に地域という共同体が加わることで、やってはいけないことを学んでいたが、近頃の子どもはそういったことがない。	1	②
20	実現のために住民の理解が必要。自己中心的な大人がいることも事実。	1	②
21	通訳人材を正規の職員として雇用してほしい。今後なり手がいなくなることが危惧される。	1	④
22	支援のニーズを把握するため、外国籍児童および外国ルーツがある子どもに関するデータが必要だと思う。また、多様な背景がある人が就労しやすい職場環境づくりのために、どのような企業でどんな在留資格を持った人が働いているのかデータを収集する必要もある。	1	④
23	定期的に異文化に触れる催しがあるので、グローバル社会において、異文化を受け入れることもできる。	1	④
24	外国にルーツのある子どもたちも重点課題となっているので盛り込むべき。	2	②
25	外国人の子どもたちも、このプランにおける対象なのか。	1	②
26	多文化共生が成り立つのか。公共の場での言語は統一されるのであれば、日本語になり、学校で扱うのであれば特定の国に偏ることがあってはならない。	1	④

No.	御意見の内容	件数	対応分類
27	多文化ルーツの子ども・若者は、特に孤立しやすい状況にあるように思う。支援に到達できない人も多いので、情報提供にも工夫と努力が必要だと思う。民間の力も活用して、ルーツが尊重されながらも京都市民として共生していける風土を創りたい。	1	②
28	性の多様性についての文言がないが、ジェンダー平等への取組はしないのか。	1	②
29	はぐくみ憲章を見直し、子どもの権利条例を制定してほしい。	1	④
30	はぐくみ憲章の啓発が重点というが、これにどんな意味があるのか。もっとほかに取り組まなければならないことがあるのでは。	1	④
31	「京都はぐくみ憲章」を一人でも多くの市民に知ってもらったうえで実践してもらい、子ども達の健全育成に大人達が自発的に楽しく活動できるようになってほしいと思う。	1	②
32	京都はぐくみ憲章をこれからも保証して行ってほしい。	1	②
33	京都はぐくみ憲章についてはじめて知った。	1	④
34	最近小学生でもSNSで他人と出会ったりするような危険が多く、高校生からでは遅いので早いうちからSNSの使い方についてしっかり教育していくべきだと思う。	1	②
35	町内会、民生委員レベルで「ご近所づきあい」を見直し、ひきこもりや虐待に対して、早期から提供できる支援を教えてあげてほしい。市のHPも、市民目線ではない。	1	②
36	ネットワークに「子ども・若者支援地域協議会における取組の推進」を再掲する必要があるのではないかな。	1	④
37	ネットワーク機能の充実について賛同するが、機能が重なっているところもあると思うので、いっそのことスクラップ&ビルドをしてはどうか。	1	④
38	地域の乳幼児から中高生までを利用対象とし従来から「切れ目のない支援」を実施している児童館では、どの項目においても関係団体と協力・連携して推進していくことができる。	1	②
39	児童館は、地域子育て支援ステーション機能のうち基幹ステーションとして、小学校区における関係団体や地域住民と共に、地域の子育て家庭について情報共有し支援を行っている。基幹ステーションについてもいづれかに記載いただきたい。	1	④
40	特に若手の支援者たちは苦しい経済事情の中、子どもや若者に関わっている。彼らの生活もしっかり保障してほしい。	1	②
41	NPOや民間団体の話が出てくるが、市の手の届かないところを任せるのであれば、団体が不安なく運営できるように、市が支援をする必要がある。	1	④
42	今時の若い子育て世代の常識と、支援したい高齢者の子育て常識とのギャップを埋め、より良い関係性を作れるような、「支援したい高齢者向け講座」を開催してほしい。	1	④
43	子どもや若者が「社会の宝」であると社会から大切にされていると目に見えて実感するには様々な補助などがあれば良いと感じた。	1	④
44	具体的方策の中で「地域」の位置づけが不明瞭ではないか。地域組織である自治会・町内会、民生児童委員、社会福祉協議会が行っている「世代間交流」や「子育てサロン」「見守り」「子ども食堂」「居場所」などを含む、地域組織・住民等が主体的に行っている取組についても位置づけと推進が明記されると良いのではないかな。	1	①
45	集団登校時、地域の方のサポートで安全に歩けるようにしてほしい。	1	②
46	大津で起こった保育園での園外での散歩中での事故について、京都で発生しないように、各保育園等にも未然防止の観点に立った注意喚起を行ってほしい。また、地域の関係機関とも情報共有するなど、社会全体で子どもを守る仕組みとして、改めて検討してもらいたい。	1	②
47	子どもの目線に立った時、歩行空間が歩きながら自然に行う遊びのための空間として安心・安全であることを確保すべき。	1	④
48	私はまず安全なまちにしてほしい。	1	④
49	「地域の…歩行空間の安心安全の確保」と限定するより「子育てサロンや通学時見守り、子ども食堂等、地域（住民）による子どもの見守り、子育て支援活動」など地域の役割に広がりを持たせた方が、柱の趣旨に合い、住民の主体的な関わりを得やすいのではないかな。	1	④
50	学校運営協議会に民生委員として参加しているが、学校は、学校がどのような様子なのか等、詳しいことを説明するなど、学校運営に地域の声を生かすという目的を果たすよう努めていくことが必要であると思う。	1	②

No.	御意見の内容	件数	対応分類
51	子どもを社会全体で育むための基本である学校と地域の連携をきちんとうたってほしい。	1	②
52	「地域」と「学校」，地域が主体で動くことができればいい。	1	②
53	地域の見守り活動は近くの大学と連携し，教育の方面に興味のある学生が授業の一環として取り組んではどうか。	1	④
54	地元で受けられる支援を充実してほしい。助成金やお知らせをあちこちで実施してほしい。	1	②
55	まずは小さなコミュニティがある地域内で子どもたちに向けた活動を行い，「地域力」を上げてから，市全体で「市民力」に向けた活動を行う方が良い。	1	①
56	子どもが活動できる民間団体を紹介してほしい。	1	①
57	ネットワーク機能や享受できるサービス，資源など地域間格差が大きいと思う。	1	②
58	京都市はぐくみネットワークによる地域に根差した活動について，各行政区での取組に温度差があるように感じる。	1	④
59	親戚や家族が近くにいたら子育てがしやすいと思った。共働きで周りに子どもを見てくれる人がいたら，若者も仕事をして経済的に苦しまない暮らしができるのではと思う。	1	④
60	すべての子ども・若者・子育て家庭を支援するためには膨大な人とお金が必要だと思うが，どこからまかなうのか，補っていくのかが目標が漠然としすぎて現実味がない。	1	①
61	子育てのための施策等の確保をしてもらえるのはありがたいが，その時の費用がどのようになるか気になる。	1	①
62	京都市は税収が少なく予算の配分が難しいと聞いているが，もっと考える余地はあると思う。	1	①
63	施設を増やすにはやはり資金が必要であるため，募金の呼びかけ活動を行ってもいいのではないかと思う。	1	①
64	特に支援を要する子ども・若者やその家庭への取組をしようとすると，金銭的に出費が大きくなると思われるがそのお金はどこから出るのか。	1	④

(2) 親育ち促進(計30件)

No.	御意見の内容	件数	対応分類
1	親教育を充実してほしい。	1	②
2	京都市はぐくみネットワーク、PTA、おやじの会を通して、親も学び、育つ取組をしっかりと進めて行く必要があると思う。	1	②
3	親の力を引き出す取組を支援施設は心がけるべき。	1	②
4	児童だけでなく親を交えての活動を増やしてほしい。	1	②
5	親育ち促進：親として責任をつけ、頼れる所があるということを理解してから親になれることは良いと思った。	1	②
6	子どもの成長だけでなく、子育てをする親の成長を推進することはとても効果的であると思う。親としてのふるまい方は誰からも教えられないことがないため、子どもと一緒に成長していくことができれば効率が良いと感じる。	2	②
7	子どもの支援だけでなく、親育ち促進をすることはとても良い案だと思う。こういった取組があることで少子化の改善につながると思う。	2	②
8	「子どもを共に育む『親支援』プログラム」とあり、子育てしやすいまちとして取り組んでいるのが分かる。	1	②
9	親世代が子育てに関して未熟であれば、良い子育てを行うことが難しい。経験者の知恵を共有することが大切であると思う。	1	②
10	若者・子どもに希望を持ってもらうため、まず大人が希望を持てるような姿を見せないといけないので、大人への支援もしっかりとしていかなければならない。	1	②
11	子ども、若者を支援する計画は、環境、関わる大人、親に対しても、支援しなければならぬと感じた。地域、国全体が協力し合い取り組む意識が大事だと思う。	1	②
12	母親だけでなく、父親に対する支援に関しても取り組んでほしい。	1	②
13	健診時等に親のモラル教育やふれあいネットワークのような事業を子どもはぐくみ室で義務化して実施すべき。 対処療法だけでなく予防にもう少し力を入れるべき。	2	④
14	ニュースを見ていると自分の子どもを殴ったりする虐待のニュースを見るので、親自身が子育ての楽しさを知れたらそのようなことがなくなると思う。	1	②
15	地域の子育ての楽しさや素晴らしさを感じることができる環境を作っていくという取組が、とても素敵だと思った。	1	②
16	地域や関係機関との協働による「子育て応援」に資する情報発信には、子育て世代に有用と判断される支援を行う団体、任意団体など幅広く、合わせて情報発信を。	1	②
17	ネットの機能の強化は良いと思う。	1	②
18	乳児を持つ父親として、改めていろいろな施策が充実していて、安心できると思う。	1	②
19	子どもについて相談する施設などがすぐ分かるような京都市の施設マップみたいなものがあればいいのでは。	1	②
20	無料の遊び場の情報をまとめてみるができるアプリがあると良い。イベント情報もホームページやポスターなどの分散している情報を見ないとわからないため、まとめて分かるものがほしい。	1	④
21	インターネットなどで子育て家庭が情報交換できるサイトを作れば良いのではないかな。	1	④
22	インターネットで保育園や育児の情報を入手しづらい。	1	④
23	区役所に行けないため、どこから情報を入手したらよいかわからない。	1	④
24	京都市はぐくみアプリは利用者を増やす方法を考えるべき。	1	④
25	はぐくみアプリでイベント情報を入手しているが、子育てサロンやサークルがどのような活動をされているのか、正直分からない。	1	④
26	アプリがあるが、情報が少なく使い勝手が悪い。	1	④
27	京都市はぐくみアプリが重たいため、結局ホームページを見ている。	1	④

(3) 「真のワーク・ライフ・バランス」の促進(計74件)

No.	御意見の内容	件数	対応分類
1	現在の若者が地域の人々と関わる機会を増やすためにも、まずは「働き方改革」に重点的に取り組んでほしい。	1	②
2	「働き方改革」は大切だが、波及・浸透はまだまだだと考えるので、企業だけでなく、学校や行政でも行うべき。	1	②
3	直接的なサポートだけでなく企業などへの呼びかけや子育てのための職場の支援をサポート（働きかけ）するようにすべき。	1	②
4	長時間労働が常態化する中、市としてどのように対応していくのか。	1	②
5	長時間労働の常態化等による、仕事と家庭生活の両立困難は力を入れて取り組むべきだと思う。	1	②
6	日本の人は仕事に時間を使いすぎているイメージがあるので両立が困難になるのも分かる。また、働く時間が多いのに貧困が増大しているのはなぜか気になった。	1	②
7	現在の日本では、女性の社会進出が積極的に行われており、妊娠、出産をすることが難しくなっている。市から積極的に民間企業などに制度を推進することが重要。	1	②
8	仕事がブラックだったりすると、子どもを産み育てる時間が作れなかったり、労働状況のせいで生活環境が変わることもある。市民に過ごしやすい環境を提供するために市民の生き合う力を高めることは大切である。	1	②
9	親の働き方の見直しも必要だと思う。	1	②
10	働く人の支援も同時に考えることに留意する必要がある。	1	②
11	子育てと仕事の両立が困難であるため、時短勤務を小学校6年生まで取得できるよう市が推進していくべき。また当該制度を希望者が必ず取得できるようにすべきである。	1	④
12	フルタイム勤務かつ共働きのため、サポートがないと大変である。	1	④
13	育児休業などで子どもと向き合える期間が1年程度と短くなっている現状への支援が必要。	1	④
14	労働者個人の力で真のワーク・ライフ・バランスや働き方改革を実行するのは不可能である。賃金の向上や終了時間の短縮を実現するために企業が努力する必要がある。	1	④
15	企業の大きさに関わらず、有給休暇や看護休暇を男女分け隔てなく取得できるよう企業側から働きかける態勢であってほしい。 有給休暇取得度アップは一部の大企業だけでなく全体に行き渡るよう、体力がない零細には、インセンティブや補助を出すか、雇用、経営存続の安定を図る施策をお願いしたい。	1	④
16	京都市は中小企業の割合が高いが、働き方改革が零細企業にまで行き届いていると思えない。	1	④
17	例えば、福利厚生をもっと重用視したり、労働時間の短縮を義務化したりすると、企業での働き方改革の内容も若い世代の可能性が広がる。	1	④
18	子どもの居場所をつくるより先に共働きでないと生活していけない現状を変える必要があるのではないか。	1	④
19	「長時間労働の常態化」は働く会社の状況によるので解決は難しいのではないか。	1	④
20	労働環境や働き方をどのように整えていくのか詳しく知りたい。	1	④
21	非正規雇用者への保険等のサポートを行ってほしい。	1	④
22	「働き方改革」「ゆとりある環境づくり」という点は、他の取組とは趣旨が異なる印象が与えられ、計画としての力が弱いようにも思う。	1	④
23	雇用側の理解、雇用主への支援がないと実現しにくい。 議会や役所、学校での導入と実現を。	1	④
24	「働き方改革」は就業時間の短縮だけでなく、タスクの取捨選択や若い層、養育世代の賃金増加、福祉分野に携わる人の賃金保障の面からも整えてほしい。	1	④
25	現場の実情を無視した働き方改革を押し付けられても困る。子どもや若者に関する仕事をしている人の生活がまずは保障されるべきである。	1	④
26	まず、市役所職員が実践し、見本を見せる必要があるのではないか。	1	④
27	対処策も必要だが、抜本的な解決のために親世代の雇用の安定に向けた政策こそ必要だと思う。	1	④
28	子どもの施設と教師の労働とのバランスをとることが必要。	1	②

No.	御意見の内容	件数	対応分類
29	学校、幼稚園教職員の働き方もこの際に見つめ直すことができれば良いと考える。	1	②
30	子育て支援の充実は必要不可欠。保育無償化が導入されれば、親の負担は減るが、合わせて職場環境、職員を支援できるようになればいいと思う。	1	②
31	子育て中の親の悩みを決めつけているイメージがある。現場の声をもっと聞いてほしい。親の支援も大事だが、保育事業側の支援もしてほしい。	1	②
32	子どもたちと関わっている職員の方々の負担が増えてはいけない。増えるのであればせめて処遇を改善し、人手不足にならないよう取り組んでほしい。	1	②
33	幼稚園の預かり保育の利用者数が増加傾向にあり、ニーズの高まりがみられる。保育園や幼稚園側の負担も増加すると思うので、教育者側への支援も必要。	1	②
34	子どものことを守る職員のことを考えていただきたい。	2	②
35	子育て支援施設の職員にも働き方改革を進めてほしい一方で、子どもたちの世話をお願いできる施設がなくなると正直厳しいと思った。	1	②
36	支援者の雇用体制（正規職員を増やす等）を整えるのも必要だと感じた。	1	②
37	アルバイトだからと専門職の保健師なのに時給1,300円レベルで働くのは納得いかない。	1	④
38	産休育休を取得した職員の代替となる臨時的任用職員の給与が少なすぎるため、なかなか人が集まらない。	1	④
39	京都市の職員で残って頑張る方のために事務のシステム化を進めてあげるべき。	1	④
40	働き方改革のためにも、ソーシャルワーカーなどの専門家との連携の在り方を見直す必要がある。	1	④
41	学校・幼稚園の働き方改革がそんなに簡単にできると思わない。	1	④
42	保育園で働く職員のワークライフバランスを整える必要がある。	1	②
43	保育士の働き方改革が必要。保育士不足、保育所不足の問題には低給与が要因の1つだと考えられるため、給与の改善が迅速に求められると思われる。	1	②
44	保育所等においては、監査のための書類が多く子どもに目を向ける時間が奪われている。	1	②
45	産休・育休に力を入れていくという社会のしくみというものも「共働き」による経済的な安定に比べれば政策として弱いのかと感じた。これから保育所のしくみ、保育士の「壁」というのも社会的に大きく求められる存在だと気づいた。	1	②
46	「真のワークライフバランス」について、実践している人の例をインターネット等でたくさん掲載してほしい。	1	②
47	真のワーク・ライフ・バランスを促進してほしい。	1	②
48	「真のワークライフバランス」はとてもおもしろい考えだと思う。しかし、ワークライフバランスすら満足にできない現状に+αのような試みは時期尚早ではないか。	1	②
49	仕事場で預かってもらえる場を作ってみたり、子育てしながら働く家庭をもっと支援する必要があると思う。	1	②
50	京都の強みである文化を推進して子どもの人間性を育むことはすばらしいと思うが、女性の仕事と家庭生活の調和として女性の働きやすい環境を創出し、京都から全国に発進できればよりすばらしいと思う。	1	②
51	大人がいきいきと輝いていると、子どもや若者は、なりたい人間像やビジョンが明るくなるような気はする。	1	②
52	子育てと地域との時間や関係のゆとりがあるのは良いと思う。	1	②
53	ワークライフバランスとはどういう意味か。	1	④
54	真のワーク・ライフ・バランスが息づくとは一体どういうことなのかわからない。	1	④
55	家庭生活や仕事は各々の生き方に関わる。柔軟な働き方が実現できる労働環境とは。	1	④
56	ワーク・ライフ・バランスについて、「働く世代」に関する取組も増やしてほしい。	1	④
57	「ほんもの」の文化や伝統に触れる機会はあまりないのでお願いしたい。	1	②
58	京都の年中行事などに触れる機会を作ることにより、促進と継承にもつながり、良いと思う。	1	②

No.	御意見の内容	件数	対応分類
59	京都にしかない文化や伝統があるので、良いと思う。しかし、地域活動に参加することだけが心豊かな人生を送ることにつながるとは思わない。	1	②
60	京都市はすごく伝統のあるまちだと思っているので、そのような伝統文化教育などをすることはいいことだと思う。	1	②
61	小学生ぐらいの時期に文化・芸術の楽しさを伝えることが大切だと思う。	1	②
62	京都ならではの伝統文化を学ぶことで何が得られるのか。	1	②
63	地域活動に京都の歴史や文化の視点を組み込むことは、孤立防止という点でも文化の継承という点でも有効かつユニークだと思った。	1	②
64	文化や芸術に触れる余裕が欲しい。特に、ひとり親や貧困家庭の子どもは参加費がかかるイベントや保護者同伴のイベントに参加しづらい。機会の均等を図ってほしい。	1	②
65	文化芸術に関する取組に期待する。京都には様々な文化施設があるが、老朽化したイマイチなものも多いのでは。そうした施設の維持管理にお金をかけるよりも、ここにある児童館のように、既存の社会資源を活用すべき。	1	④
66	もっと具体的に書いてほしい。「文化」とは何をさしているのか分からないし、どのようにして参加者を集めるのか分からない。	1	④
67	伝統文化に触れる機会は、博物館・美術館と連携してもいいかもしれない。	1	④
68	昨今、働きたい女性が世の中にたくさんいる中、待機児童問題が非常に多くなってきている。母親が安心して働きながら子育てできる世の中にしてほしい。	1	②
69	働く母親をサポートできる場（話がお互いに自由にでき開放的な場）も必要になっていると思われる。ひきこもりの母親も、同じだと思う。	1	②
70	父親として、育児参加は大切と思う。育児中の父親同士のグループにも入りたいが、母親グループのようにできない。	1	④
71	女性（母親）の支援ばかりに重点を置くのではなく、男性が育児休暇の取得などを考えられるようにできないか。	1	④
72	学費や来日にかかる費用のために、規定の時間を超えてアルバイトをせざるをえない留学生がいることを雇用側や日本語学校、大学などに知ってほしい。また、留学生の就職活動支援があればいいと思う。	1	④
73	外国人労働者の支援をもっとしていただきたい。日本語力が不十分で、就労ビザを取ることでできない方々も多くいて、働きたくても働けない親もいる。	1	④

第3章 京都市子ども・子育て支援事業計画(計123件)

No.	御意見の内容	件数	対応分類
1	京都市が数値目標を掲げ、良い方向へ進むよう考えてくれていることが分かった。自分たちの子ども世代には、もっと良い環境になるよう京都市に期待したい。	1	②
2	人数の見込みと確保数が書いていて良いと思う。	1	②
3	京都市子ども・子育て支援事業計画により支援することはとても重要である。	1	②
4	現状から考えると、京都市子ども・子育て支援事業計画は良い取組ではないかと思う。無償化なども更に多く取り入れ、充実を求め、周囲の人々に多く協力してもらうことで、5年後、10年後、更に良い方向性につながれば良い。	1	②
5	地域ごとに特定教育・保育施設の量の見込みや提供しなければいけない必要量が詳しくデータにまとめられていて今の現実をしっかりと理解することができた。実際に、この案が上手くいけば、少しでも社会は良い方向に進んでいくのではないかと考えた。	1	②
6	幼稚園・保育園(所)・認定こども園などをそれぞれの区域に設定するのはとても重要だと思う。それによって母親の負担が変わる。子ども・子育て支援事業にも色々な種類があり、時間外保育事業や一時預かり事業など選べるのは良いと思う。	1	②
7	数を分かりやすい表で把握して取り組むのは皆に分かりやすくて良い。ニーズに沿って必要に応じた支援ができる。	1	②
8	内容や、実施時期がしっかりしており良いと思う。	1	②
9	量の見込みをはっきりと数字で示すことにより、具体的になり、より政策の実施に向けて取り組める。区域を設定することでより考えやすくなると思う。	1	②
10	ニーズの調査を踏まえ、見込みを行っている点が非常に良い。	1	②
11	とても良い事業だと感じる。これをすべて行っていたら日本で一番暮らしやすくなると思う。 しかし、京都市は広く、人口も多いと思うのでなかなか難しい。	1	②
12	具体的な数字も示されていて良かった。現場の声を聞かないと実感は湧かないと思う。	2	②
13	単なる少子高齢化を解決するための事業計画ではなく、子どもの健全な心身の発達を図る内容であり、素晴らしい。関係団体との連携をとることで市の発展、活性化にもつながるのではないかと思う。	1	②
14	子育てに適する市は今後も住みたいと思う人が増えるはずなので、丁寧な支援事業計画は良いと思った。	1	②
15	令和6年度まで考えられているのはすごい。	1	②
16	区域ごとに量的ニーズを把握するなど、より効果的かつ合理的な支援を行おうとしていることが伝わってくる。数字から分かることと、それ以外から分かることの両方を検討することも重要。	1	②
17	このようなデータを出して、現状を知らせてほしい。	1	②
18	うまく進められると良い。	1	②
19	数値目標に沿って、確実に支援を進めて行ってほしい。	1	②
20	確保必要量がまだまだ足りていないことが数字からよく分かった。これから現実的な政策が必要だと感じた。	1	②
21	安心して子どもを預けられる場所がもっとほしい。	1	②
22	小学校区単位で計画してほしい。	1	④
23	70区域が京都全域なのかどうか分かりづらいように思った。	1	④
24	第二次区域～第四次区域の分け方に平等性を保つためにすることはあるのか。	1	④
25	広域では病児保育や妊婦の健康診断など誰もが必要とする支援がある。身近では放課後児童健全育成事業や地域子育て支援拠点事業などがある。	1	④
26	第一次区域の「広域」とは何を基準に決めているのか。第一～四次の区域はこの地域がその区域に当たるのか明記してほしい。	1	④
27	子どもの数が減少する中で、将来的に保育施設の数が頭打ちになることも考えられるため、保育施設の充実とともに、施設数の増減や保育の質向上に焦点を当てた施策を実施してほしい。	1	②
28	どこの地域も安心して子育てができるようにしてほしい。	1	②

No.	御意見の内容	件数	対応分類
29	行政区によるサービス量のバラツキをいかにならしていくか。	1	②
30	京都市中心部の方が施設の確保必要量が多いと思っていたが一概にそうとは言えないことが分かった。	1	②
31	地域によっていろいろなことがある。	1	④
32	保育の施設や体制について書かれており、良い。	1	②
33	保育提供体制の確保方策について、既存の保育園の増改築や分園設置は新しい施設を一から作るよりも良い案だと感じる。	1	②
34	保育施設をむやみに増やすのではなく、地域のこれからのニーズを考え、どの形の施設を増やすか、そもそも増やさないのかを分析しつつ進めていくのは賛成である。	1	②
35	現代社会では既存のもので利用者のニーズに応えることが大事なことでありと考える。利用者の増減がまばらであるため、特に集中しているところに優先的に支援の整備することは大事であると思う。	1	②
36	しっかりニーズ調査の結果等を踏まえた上で、今後5年間の「量の見込み」及び提供体制の確保の方策とその実施時期を設定しており、住民の望むものを提供できるという点でとてもすばらしいと思う。また、保育提供体制の確保方策では、既存施設の活用が第1に検討されており、真っ先に施設を創設するのではなく、活用を先に考えるのはとても良いと感じた。	1	②
37	保育提供の見込が甘い。子どもが保育園に入れず生活できない。当事者である働いている親への意見を聞いて、支援を実施してほしい。	1	②
38	既存の保育園に必要な以上の受入れを行わず、認可保育園を新設してほしい。	1	②
39	認可保育園を中心とした事業計画を立ててほしい。 0～6才が預けられ、かつ有資格者が働く保育園であることが必要。	3	②
40	企業主導型保育や小規模保育、認可外保育施設に頼るのではなく、認可保育所を中心として保育施設の過不足を判断してほしい。	1	②
41	子どもの保育利用率が上がっていくと思うし、保育できる環境をもっと増やす取組が必要。	1	②
42	日本では保育需要に供給が追いついていないので、保育ができる環境と人員を増やし、改善していく必要がある。	1	②
43	基本的には保育がいきわたっていると思われるので、地域別の出生数を考えながら対応していく必要があると思う。	1	②
44	小学校入学児童数の見込が減っているのでも、保育所などの施設増加などを行い、児童の数を増やしていかなければならないと思う。	2	②
45	平成30年度から令和6年度にかけて児童数は減少するが保育利用率は増加する見込みなので、保育園、幼稚園の増築は必要である。	1	②
46	保育園を増やすことは賛成だが、これから子どもが減っていくのにどうなるのかは気になる。	1	②
47	確保方策の考え方のうち、保育ニーズが地域によって減少すると書かれ、結果的に保育ニーズの増加に対応できない地域のみ創設する、とあるが、その地域に創設する時、保育（教育）に合った土地（庭が広く遊具が置けるなど）を費用の面でも無理なく用意することができるのか。	1	②
48	保育園などは、健全な心身の発達を図るためや、体格形成に必要なものであると思う。数値としては需要が年々増えてきているが、少子化が進んでいるため、少しややこしい問題になっているように思えた。	1	②
49	早急に保育園などの子どもを預けられる施設を作らないといけない。	1	②
50	保育施設などには地域別に大きな増減のバラツキがあり、この問題を改善することが必要なのではないかとと思う。	2	②
51	要保育児童数は地域によって大きくばらつきが出ないように近い地域で多い方から少ない方へと移動させるシステムを考えなければならない。	2	②
52	地域によって必要量の差が大きい理由を知りたい。	1	②
53	ここまで地域差があると思っていなかった。このバラツキを保育事業はどうフォローしていくかの具体案が分からなかった。	1	②
54	地域により差があるのは不公平感がある。	1	④
55	しっかりと調査をとって推計を出しているのが良いと思った。見込みでは児童の数がどんどん減っていて、要保育率も上がっているのでも、減らなくても保育率が上がれば良いなと感じた。	1	②
56	教育・保育提供区域の設定を今後5年間計画していることは良いことだと思う。様々な施設利用給付の円滑な実施の確保のため、施設や保護者の事務負担の軽減や利用性の向上等のためにも大切に動いていることがすばらしい。	1	②

No.	御意見の内容	件数	対応分類
57	今後5年間の目標をしっかりと立てて、現在問題になっている保育施設において、地域別にばらつきがあり、隣接提供区域を設け、調整するなど、問題にしっかりと対応できており、良いと思う。	2	②
58	保育の無償化に伴い、令和5年に向けて要保育率が上がっていくと思われるので、このはぐくみプランにより安定すれば良いと思う。	1	②
59	計算法やグラフ、数値もすべて公開されていて良いと思う。小さい子の保育利用が少ないのが気になるが、2章の施策で増えて、交流が深まれば良いと思う。	2	②
60	保育提供体制の確保方策について、既存施設の活用や施設の増設など、地域のニーズに合った体制を作るべき。保育ニーズの事前調査を重要視しなければならない。	4	②
61	小学校入学前の児童数が年々減少する一方、保育の量はほとんど変わらないので、保育を必要とする家庭が増えているのが分かった。	1	②
62	保育提供体制の確保方策や考え方を見て本当に変えようとしているのだなと感じた。地域ごとにどの施設が適しているのか検討するのは良い。	1	②
63	保育施設・特定教育などの見込みを見ると小学校入学前児童数が平成30年の10,321から令和6年には9,099と減ることが予想されることから少子高齢化の影響が見られ、これを機に少子化対策についても考えていきたい。	1	②
64	保育提供体制確保の方策で保育園などを創設や増改築するための費用の出所が地域住民からなのか知りたい。大きく市や府、国が負担するのならば良いと思う。	1	②
65	保育所等の定員は増やすべきだが、母親の立場からすれば認可保育所に入れたいと思うので、未認可が増えるだけでは具体的な解決にはつながらない。	1	②
66	教育・保育提供区域の「設定の考え方」にはまらないがその区域の対象となり得るという特別なパターンもあると思うので面談を受け付けたりなど、柔軟に対応できたら良い。	1	②
67	女性が働きやすい環境づくりには、子どもを安心して預けられる環境が必要であり、近年待機児童など問題になっており、ニーズにしっかりこたえていると思った。預ける保育園などの施設が整備されたらより安心と感じた。	1	②
68	令和6年度末時点の保育提供体制を確保するため、定員を増やすのはとても良いと思う。	1	②
69	就学前児童数(推計)×要保育率(推計)=量の見込み(年度末要保育児童数)の式が分かりやすい。	1	②
70	京都市全体での保育ニーズは今後横ばいとなり、地域によって減少に転じるとは知らなかった。既存施設の活用が大事となり、ニーズの増加に対応できない地域においてのみ施設の創設が検討される。	1	②
71	今後全市的保育ニーズの横ばい化、地域格差への対応においては、全市的でなく細やかな視点と、「数」だけに頼らない形を模索していただきたい。	1	②
72	幼児教育・保育に関する記載に占められているのが残念。要保育児童数は地域別に大きな増減のバラツキがあり、特に増大傾向の地域における保育提供体制の確保は喫緊の課題である。	1	②
73	行政区単位でなく、身近な小学校単位で保育が足りているか判断してほしい。	2	④
74	幼児教育・保育の量の提供区域ごとの確保必要量について地域によってかなりバラツキがあるように感じたが、失敗した後の方策は何か考えているのか。	1	④
75	女性就業率80%にするという目標があるが、男性への就労支援とはどう違うのか。なぜ、男性は対象ではないのか。	1	④
76	既存施設の活用にある既存の保育園等の増築・増改築は周辺住民の理解を得られているのか。	1	④
77	ポジティブに考えるなら、保育所を増やして未来に投資するのはだめなのか。	1	④
78	プランが実施される5年間では保育ニーズが横ばいになるため、既存の施設を活用することで体制を確保できる。しかし、ニーズが増えてしまうと新しい施設の増設が求められるため、それを見据えて補助金をたくわえておく必要がある。	1	④
79	特定教育保育施設、特定地域型保育事業の量の見込みの表が見にくく、あまり内容が分からなかった。	1	④
80	これから子どもは減っていく一方で、だからといって施設を減らすわけにはいかず、難しい問題だが、増設することによって、京都市は子育てしやすいと知ってもらったら人口が増えて活性化しそうだと思う。	1	④
81	保育所を増やすよりも保育所に行く手段を強化して、子どもが少ない保育所に子どもが入れるようにすれば良いと思う。	1	④
82	保育の量を上げるなら保育士になる人間の量も数字として出すことはできないのか。施設を増やそうとしても、保育する人が集まらなければ実行不可能だと思う。	1	④
83	需要の変化に合わせて施設を整備していくのは効率的に見えるが、人材(保育士・職員)の流動性が高くなってしまわないか。そこで働く人のサポート体制がしっかりと作られるとさらに良いと思う。	1	④
84	保育施設と学童保育をたくさん作ってほしい。	1	②

No.	御意見の内容	件数	対応分類
85	学童クラブ事業についても数字だけではなく、確保方策の考え方を記載していただきたい。	1	①
86	一時保育の実施場所が少ないので、増えてほしい。待っている人が多く、利用が難しい。	1	④
87	教育・保育提供区域の設定の第三次区域「対象となる給付・事業」の一時預かり事業の（一般型、幼稚園型）の違いは何か。	1	④
88	一時預かり事業に着目したところ、保育所と幼稚園の量が全く違うため、保育所と幼稚園が均等になるようにしていく必要があるのではないか。	1	④
89	待機児童がどんどん増えていく中で企業が経営している保育所をもっと増やしていくべき。	1	④
90	ニーズ調査により、計画を実施しやすくなると思う。企業主導型保育事業所の地域枠について京都市に設置権限がないため、今後の動向が不明なところは検討する必要があると感じた。	1	④
91	企業主導型保育事務所の地域枠について確保方策が見込めないと書かれているが議論等はしっかりなされたのかが気になった。	1	④
92	預り保育の利用者が増えているにも関わらず、今後の3～5才の保育需要が減少することにより、確保方策を見込めないということは良くないと思う。	1	②
93	幼稚園の預かり保育についての策を見込めないのはいかがなことかと思う。	1	②
94	「幼稚園の預り保育」では、今後児童の保育需要が減少するため確保方策は見込めないとあるが、児童が減っても共働きやシングルマザーは今後も増え続ける可能性があるため、確保方策は見込んでいたほうがいいのか。	1	④
95	時間外保育事業の各年度の量の見込みと確保方策について、平成30年度実績に対して令和以降の想定が少なすぎるのではないか。	1	④
96	母親の金銭面のこともしっかり考え、年4回払いなど利便性を高めるように考えられており利用しやすく良いと思う。	1	②
97	家庭訪問による継続的個別支援と、新生児等訪問指導事業の人数は、平成30年実績より見込み人数が減少しているが、子どもが減っている今こそ増やすべきなのではないか。	1	②
98	ショートステイを利用しており非常に助かっているが、預け先が満室で利用できなかったり、家から遠いところしか空いていないことがある。預け先が増えて近場にできれば良いと思う。	2	①
99	ショートステイとトワイライトステイがイメージしにくいのでその説明を入れた方が良いと思う。	1	①
100	目標が全体的に大きすぎるのでもう少し細かく設定してもいいのではと思った。	1	①
101	事業計画は数量的に捉えられる所から展開すべきものと、本質的なものがあると思う。	1	②
102	地域によって提供体制を変えることは良いことだと思うが、本当に必要な提供体制か、本当に支援が行き届いているのか確認するべきだと思う。統計では数えられていない子など。	1	②
103	子育ての環境が良くなっていても底上げしない限り私は良いとは思わない。増築などがされてもお金の関係で入れない子もいるので母子家庭などは無償などでも良いと思う。	1	②
104	量の見込みの設定は大変。	1	②
105	グラフが多く何を書いているか分からず、見方も分からなかった。	2	④
106	量の見込みが難しくて分からないところがあった。	1	④
107	区域別確保必要量に関するグラフで、地域のことを知らない方もいると思うので、地図も載せると、さらにわかりやすいと思う。	1	④
108	子ども・子育て支援事業計画がはぐくみプランとどの辺りが一体なのか少し分かりづらく感じる。	1	④
109	見込みとしてはそうだと思うが、実数が見合ったのかの結果が早く分かるように仕組みを作ってほしい。	1	④

計画の推進・その他(計110件)

No.	御意見の内容	件数	対応分類
1	いいことが書かれていると思うが、この計画をしっかりと進めることが重要。進捗状況を示す指標などを設けてはどうか。	4	①
2	具体策が何一つない。もっと簡潔にわかりやすく、定量的に目標設定を掲げるべき。	1	①
3	前3つの計画について、質的評価が見えてこない。	1	①
4	少しわかりづらかった。文字ばかりでなく、現状がわかる写真や表、グラフなどを入れるといいのではと思う。	1	①
5	多くの政策を実行するとなれば、相互のコミュニティというものが重要になってくると思う。それこそ学校・家庭・京都市・地域の関わりが大事になってくると思う。	1	①
6	地域とのつながりや連携を密にした子育て支援を先駆的に果たしてきたことを今後も継続し充実させてほしい。	1	①
7	はぐくみネットワークを充実してほしい。	1	①
8	「はぐくみ文化」の醸成が必要である。	1	①
9	若者への関心が低いのではないかと懸念している。子ども・若者をはぐくむ文化がしっかり醸成されていってほしい。	1	①
10	若者に対する取組について、出産に対する正しい知識を知るだけでは足りないと思う。地域や企業、行政、医療機関等ももっと一体になるべき。	1	①
11	地域と連動して子育てできるような環境を作ってほしい。	1	①
12	様々な機関の協力のもと、施設の負担も軽減することで豊かな生活になると思う。	1	①
13	とても立派な事項で心から同感するが、個人的に実行するとなった場合は少々疑問を感じる。	1	②
14	計画は十分だが、これからどこをどんな人たちに任せるかが大切だと思う。	1	②
15	この計画どおり、実行していてもらいたい。	5	②
16	市民の方々との協働を通して、計画を一つ一つしっかり実現させてほしい。	1	②
17	京都に住む人が一体となり、子どもや若者を取り巻く環境、将来への不安や負担を減らし、子どもと若者が明確なビジョンと京都に住むことで希望を得られるような活動を行う。それが、計画の位置付けに挙げられている計画を実行していくこと。	1	②
18	方針は良いが、どのように、どの機関が行うのか。	1	②
19	趣旨はよく考えられていて立派なものだと思う。ただの理想にならないようにしてほしい。	1	②
20	このプラン(案)を実行するだけの費用は本当にあるのか、無駄がないか再確認が必要。	1	④
21	取組をしなければならぬことは理解したが、具体的にどういった順序で取り組んでいくのかを疑問に思った。	1	④
22	一つの項目に対して色々なことが書かれていて素晴らしいと思ったが、多すぎて全部しようと思うと全体の実現率が少なくなりそうだなと思った。	1	④
23	計画に書いてあることを実際に全て実現できるのか。予算がいくら必要で、その予算をどこから捻出するのか。実現に際してどのような問題が考えられ、それらの問題をどう解決するのかが分からない。	1	④
24	いつかは誰もが守る側になるとすると、やらねばいけないことが多すぎて破綻しないか心配になる。守る側のすること・しないことをはっきりしたい。	1	④
25	計画における一つ一つの課題が非常に重く多岐に渡るため、限られたリソースで全てをカバーすることが難しいという印象。何か軸となる計画が必要。	1	④
26	期間中にこのプランを実行して、京都市に効果があれば良いと思う。	1	②
27	計画期間5年という時間で「位置付け」に記載されている内容の計画は実行することが可能なのか。	1	②
28	計画期間は5年あるが、毎年振り返る機会があったら良い。	1	②
29	計画の趣旨は良いと思ったけど、計画は実現しないとただの理想でしかないので実現してほしい。5年で実現できるものでは到底ないと思うので、改良を重ねてよりよい京都にしていってほしい。	1	②
30	5年で本当にできるのか。理想だけでは何もならないので、少しずつでいいので市民のために実現してほしい。	1	②

No.	御意見の内容	件数	対応分類
31	全体的に掲げている目標が大きいので、実際に具体的にプランを執行していくためには小規模なものから進めるといいと思う。	1	②
32	分かりやすかった。	2	②
33	多様な事情・背景のある人が情報にアクセスできるよう、可能な限り、ルビをふる、分かりやすい言葉を用いる、用語の説明を加える、白以外の用紙で配付するなどの取組が必要であると思う。	1	②
34	よく分からない。	12	④
35	「子育て世代包括支援センター」「地域」「市民」「地域住民」等用語の意味や言葉の使い分けが分かりにくく、用語説明があると良いと思う。	1	④
36	実施時期や導入方法が分かりにくい。専門的な内容を後ろに記載するのは見やすく、全ての人を対象にすると考えると分かりやすいが、導入方法を具体的に知りたい。	1	④
37	専門用語や、施設・団体名等が挙げられているが、知らないことが多く、補足説明が必要だと感じた。	1	④
38	これから先のことを計画してくれ、私のような学生の意見や感想を聞いてもらえる機会があることはとてもありがたかった。	1	②
39	基本計画を策定する際などに、高校生を交えた方が良いと思う。小中学生の意見もアンケート等で取り入れるべき。	1	④
40	パブコメ冊子の文字が多く堅苦しい。バス車内に簡単な見出しを書いたポスターを掲示するなど、子育て世代がもっと身近に感じるような意見の集め方をすべき。	1	④
41	意見募集とあるが、一般人としては、理解が難しいと思う。	1	④
42	意見箱などを設置したり、各家庭に意見を求めることにより、直接的かつ具体的に市民の声を反映できると思う。	1	④
43	女性、母親ならではの意見があると思うので、決める際に多くの女性が参加できるようにしてほしい。	1	④
44	子育て支援に関するニーズ調査など、大変な調査をされたと思うが、ニーズを把握するために、毎年簡単なアンケート調査をするなど、市民の声を聴いてはどうか。	1	④
45	「京都市はぐくみプラン（案）」に対する御意見記入欄の場所が分かりにくい。	2	④
46	ニーズ調査だけでなく、フィールド調査をすると見え方が変わってくるかもしれない。	1	④
47	ライフステージに応じたこども	1	②
48	小中学生の問題	1	②
49	もっと勉強する。	1	②
50	子どもの成長はすごい。	1	②
51	子育て支援イベントでお母さん方がどんなことで悩んでいるのか知るきっかけとなって大変勉強になったので、こういうイベントも京都市の中でもっとやってもらいたい。	1	②
52	結果が出ているのはすごい。	1	②
53	京都ならではの新しく生み出すような取組を考えてほしい。地域や伝統以外でないのか。	1	②
54	京都市民ではないので分からない。	1	④
55	推進という言葉が多数出てくるが、実現に変えた方がいいのではないかと。	1	④
56	子どもや若者を中心とした計画が多い印象で親世代や高齢者向けの計画はないのか。また、子ども・若者と高齢者を繋げる活動を取り入れてみては。	1	②
57	色々な世代に目を向けるべき。	1	②
58	高齢者にも目を向けた方が良いのではないかと。	2	④
59	今回集めた意見を一般市民が閲覧できるように開示していただきたい。他にどのような考えを持っている方がいるのか、またプランにどのように反映されたのか確認したい。	1	④
60	区ごとに子育てに関する施策を統一してほしい。	1	④
61	子育てに関して特に困っていない。	1	②

No.	御意見の内容	件数	対応分類
62	親の分まで無料であるのは、とても助かっている。	1	②
63	スポーツの体育館が開放されており、運動の機会が増えている。	1	②
64	現在里子を育てているが、保育園に入れたい。また、検診を受けられていないにも関わらず、何の催促も来ない。公務員が、課題解決に向けて責任感を持って仕事をしてほしい。	1	②
65	市会議員の給与を出来高制にすべき。落選しても退職金が出るのは税金の無駄遣いだと思う。	1	④
66	取組は、網羅的になっているが、優先順位や目標達成する部局など明記するべきではないか。	1	④
67	府と市の連携を試みてほしい。	1	④
68	京都市だけでなく、日本海側の地域など、京都府下の地域とも、こういう活動を連携した方が良くと思う。	1	④
69	全ての施策に十分見合う予算を付けてほしい。	1	④
70	幼児教育の無償化など次の子どもへの支援は大切であるし、取組内容は非常に良いと思うが、お年寄りへの若者の税負担、子どもも若者が負担、となると給料も安いのに大変である。だから、京都の強みである、観光客へ税を課して、それを充てると大きな助けとなるのではないかと。	1	④
71	市内の土地をどのように活用するのかを書いてもらえると分かりやすかった。	1	④
72	地球温暖化対策や使い捨てプラスチック、食品ロスなどの環境教育にも取り組んでいただきたい。	1	②
73	生ごみも燃やさずにリサイクルすると良い。	1	④
74	容器包装が多い。プラスチック問題をなんとかした方が良い。	2	④
75	最低賃金を1,200円にすべき。自分らしい生き方と、社会への貢献のバランスをうまく選択していくであろう若い世代を、最低賃金を上げることで応援してほしい。	1	④
76	まちがもっと活性化してほしい。	1	④
77	民泊の規制に対して、住民と一体になるような宿泊スタイルを生み出してほしい。ホームステイのように有人の宅にも来てもらえるようにしてほしい。	1	④
78	朝にコンビニ前でたばこを吸っている人が多く、子どもが危ない。登校時間は灰皿を撤去してほしい。他の地方と比べても歩きタバコが多いと友人から聞いた。相談窓口はどこか。	1	④
79	タバコは社会にあってはならないものである。JTと京都市が提携するのはやめて、あらゆる関係を解消していただきたい。	1	④
80	子どもを2人連れて外出する際は、バスが使用できないため車になるが、駐車場代がかかるため負担が重い。	1	④
81	スーツケースの人が多く、エレベーターが混む。また、エレベーターまで少し遠い。	1	④
82	バスが混んでいる。汚れるという理由で子育て世代タクシーの利用を断られることがある。	1	④
83	道が混んでいる。バスも混んでいる。	1	④
84	京都市は早急に海外等の交通システム（主にバス）を参考にすべき。バス乗車のための専用ICカードの設定や観光客と住民（学生も含む）とのバスの差別化をしなければ双方から嫌悪される。	1	④
85	市バスの本数を増やすこと、地下鉄の延長を望む。地下鉄の路線を大阪の地下鉄と同じくらいに拡充してほしい。	1	④
86	子どもの自転車の練習場所がない。マンションに自転車置き場がない。	1	④
87	自転車を御池通に停めて3分程離れていた隙に撤去されてしまった。真夏に子どもを抱っこして帰るはめになり、とても大変だった。観光客のための施策になっている。歩けない子どもがいるのに、自転車を撤去するのは異常である。市民が暮らしやすい自転車政策を考えてほしい。	1	④
88	日本の宝ともいえる景観を守り抜くことは大切だが、インバウンドビジネスもまた京都市の大きな財政源であるため、出遅れのないようにしないといけないと思う。	1	④